

<u>科目名</u>	<u>科目担当代表教員</u>	<u>ページ数</u>
キャリア形成	木村 悠里菜	3
看護栄養学	松本 信子	7
看護病態治療学Ⅰ	當瀬 規嗣	11
看護病態治療学Ⅱ	菅原 美保	16
看護病態治療学Ⅲ	尾形 裕子	21
看護病態治療学Ⅳ	井上 仁美	26
感染症と看護	坂東 奈穂美	31
臨床検査概論	合田 悟	35
地域包括ケアシステム論	小橋 拓真	39
チーム医療概論	坂東 奈穂美	43
リハビリテーション論	橋田 浩	47
医療英語	Joseph S Tomasine	51
看護学英语文献講読	柁本 常子	55
看護ヘルスアセスメント	木口 幸子	59
臨床看護技術	竹之内 優美	64
看護過程論	竹之内 優美	69
看護倫理	藤長 すが子	74
看護教育学	木口 幸子	78
成人看護学の展開Ⅰ	尾形 裕子	82
成人看護学の展開Ⅱ	尾形 裕子	87
成人看護学の展開Ⅲ	尾形 裕子	92
成人看護学の展開Ⅳ	尾形 裕子	100
老年看護学の基礎	高岡 哲子	108
老年看護学の展開Ⅰ	初見 温子	113
老年看護学の展開Ⅱ	辻 幸美	118
小児看護学の基礎	佐藤 洋子	123
小児看護学の展開Ⅰ	横山 佳世	128
小児看護学の展開Ⅱ	横山 佳世	133
小児看護学の展開Ⅲ	横山 佳世	138
母性看護学の基礎	小堀 ゆかり	143
母性看護学の展開Ⅰ	多賀 昌江	148
母性看護学の展開Ⅱ	福士 晴佳	153
母性看護学の展開Ⅲ	福士 晴佳	158
精神看護学の基礎	井上 仁美	163
精神看護学の展開Ⅰ	井上 仁美	168
精神看護学の展開Ⅱ	井上 仁美	173
在宅看護学の展開Ⅰ	小橋 拓真	178
在宅看護学の展開Ⅱ	小橋 拓真	183
家族看護学	鹿内 あずさ	188
看護研究Ⅰ	佐藤 洋子	192
看護研究Ⅱ	坂東 奈穂美	197

看護臨床判断	佐藤 洋子	205
看護起業論	高岡 哲子	210
看護マネジメント論	坂東 奈穂美	214
リスクマネジメント論	坂東 奈穂美	219
国際看護学	榎本 常子	223
災害看護学	水野 愛子	227
基礎看護学実習Ⅱ	藤長 すが子	231
成人看護学実習	尾形 裕子	236
老年看護学実習	辻 幸美	241
小児看護学実習	横山 佳世	246
母性看護学実習	多賀 昌江	251
精神看護学実習	井上 仁美	256
地域・在宅看護論実習	鹿内 あずさ	261
在宅看護学実習	鹿内 あずさ	266
地域フィールド実習	高岡 哲子	271
看護実践マネジメント実習	坂東 奈穂美	276

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		キャリア形成				ナンバリング	1135
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村 悠里菜						

授業の位置づけ

本科目は、社会で活躍する事を視野にいれ、「キャリア」・「キャリアデザイン」の重要性を学ぶ。加えて、これらにとって必要なスキルのひとつである「人間関係づくりとコミュニケーション」を理解し、役立てるための科目である。なお本科目は、「キャリア入門」の発展となる。

授業の概要

これからの人生を、職業を通じて社会に貢献し、生計を立て、また職業人として日々充実感を持つことのできるよう、自らの職業観・勤労観を培うとともに、自らの生き方や生活デザインについて基本的な展望を身につける。

到達目標

- ・「キャリア」や「キャリアデザイン」、「計画的偶発性」を説明できる。
- ・「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」について論じることができ、活用することができる。
- ・キャリアに関する具体的な事例に対し、「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」から説明できる。

授業の方法

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。グループワークを実施する。
- ・理解度確認のために、期末レポートを実施する。

ICT活用

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。
- ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。

実務経験のある教員の教育内容

大手消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職等の実務経験を活かして、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「人間関係づくりとコミュニケーション」について実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法			
各講義において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーションの実施と、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「計画的偶発性」などを理解する。	・「キャリア」の意味やイメージについて思いつくまに考える。 ・「キャリア」の意味について調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第2回	人生曲線、パーソナリティ検査、ジョハリの窓などを学び、テストを実施することで自己理解を深める。「社会人基礎力」について学ぶ。	家族や友人、知人などから、自分自身がどのようにみえているかをヒアリングする。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第3回	人生曲線などの作成や、基本的なORJIサイクル・落とし穴などの理解をとおして、「人間関係づくりとコミュニケーション」のきづくの視点などを理解する。	出生から現在までの人生の中で、印象に残った出来事を整理した上で、今後の人生の見通しを立てる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第4回	コミュニケーションの分類を学んだ上で、アサーティブな表現などを中心に理解することで、「人間関係づくりとコミュニケーション」のうけいれるの視点などを理解する。	相手を尊重し、自分の意見や感情をうまく相手に伝えるためのコミュニケーション方法を考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第5回	不合理な信念(ビリーフ)やABCD理論などを学び、「人間関係づくりとコミュニケーション」のむきあうの視点などを理解する。	自分が持つ思い込みにどのようなものがあるのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		

第6回	ライフ・キャリアのレインボー、統合的ライフ・プランニング、価値観、人間の能力の3つの領域などを学ぶことで、「人間関係づくりとコミュニケーション」のみつめる・みとおすの視点などを理解する。	自分がどんなことに価値を見出し、やる気を起こすのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第7回	社会人基礎力などを理解する。加えて動画の視聴を通して学ぶ。	様々な人々と仕事をするために必要なことを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第8回	これまでの講義の総括を実施する。加えて、キャリアデザインなどについて考える。	なりたい自分ややりたい仕事について考えた上で調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	期末レポート	
その他	40	準備学習・事後学習の状況・授業態度や意欲・グループワークなどの状況など	
教科書			
人間関係づくりとコミュニケーション/山内雅恵(監修)、船木幸弘(編著)他/金子書房			
参考文献			
授業内で順次紹介する。			
履修条件・留意事項等			

- 各講義で使用する資料はGoogle Classroom上にアップロードするため、各自印刷し持参する。
- 出欠管理は、講義内で実施する予定である。
- グループワークが中心となるため、積極的参加を必須とする。
- 講義中に私語が多い学生やグループワークに取り組まない学生は、退室となり欠席扱いとなる場合がある。
- 講義内容は、キャリア入門の振り返りを含む。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能					
科目名		看護栄養学《2022カリ》				ナンバリング	2342
配当年次	2年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	松本 信子						

授業の位置づけ

看護の対象者が、病気の治療に伴うセルフケアを行うために必要な栄養・食事療法を行うための基本的な知識を学び専門科目の基礎となる。ディプロマ・ポリシーの「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

看護における栄養学では、まず、人々が健康な身体をつくり維持するために、また疾病を発症したときには回復を促すことのできる食生活のありようと、栄養とのかかわりを理解するために、栄養の基本概念、各種栄養素、主要食品の栄養学的意義を学ぶ。そして、栄養状態の評価・判定方法と、ライフステージや生活様式や病態に応じた必要栄養所要量の設定方法を学ぶ。さらに、栄養的要因のそれぞれの疾患の成り立ちを踏まえ、治療食についての適切な献立、食材選択、調理方法までを学ぶ。

到達目標

- ・栄養学の基本である栄養素とその働きを説明できる。
- ・栄養状態の評価に必要な基本的な指標、臨床検査値、身体測定などについて説明できる。
- ・栄養補給法の概略について説明できる。
- ・主な疾患と栄養学的対策との関連を理解し説明できる。
- ・学生自らの基礎代謝量を知り、推定エネルギー必要量を算出できる。

授業の方法

パワーポイントと教科書、配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。

ICT活用

Googleクラスルームを使用し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

医療機関にて、管理栄養士として臨床に携わった経験を活かし、チーム医療での役割・栄養管理のあり方など実際に基づいて授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
事後学習ノートにコメントを添えて返却します。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業の概要と到達目標を説明する。 病院食の概要：一般食、治療食、検査食、食形態について 病院食における適切な食事の条件	教科書により病院給食の意義と種類を学習し、授業に備える。(120分)	食事療法の意義についてまとめる。(120分)教科書や講義の内容をまとめて学習ノートを作成する。
担当教員	松本 信子		
第2回	栄養補給法と補給ルート:経腸栄養法、静脈栄養法とそれぞれの合併症と必要栄養量の求め方について	経腸栄養、静脈栄養について教科書を読み授業に備える。(120分)	食事療法の意義についてまとめる。(120分)教科書や講義の内容をまとめて学習ノートを作成する。
担当教員	松本 信子		
第3回	代謝性疾患の栄養・食事療法 糖尿病の食事療法	糖尿病の食事療法について、教科書を読み授業に備える。(120分)	教科書や講義の内容をまとめて学習ノートを作成する。(120分)
担当教員			
第4回	循環器疾患の栄養・食事療法 動脈硬化の危険因子と生活習慣病の発症 高血圧症、心疾患、脳血管疾患の病態に応じた食事療法	循環器疾患の食事療法について、教科書を読み授業に備える。(120分)	教科書や講義の内容をまとめて学習ノートを作成する。(120分)
担当教員	松本 信子		
第5回	腎疾患の栄養・食事療法 慢性腎臓病、腎不全、人工透析の病期に応じた食事療法	腎臓疾患の食事療法について、教科書を読み授業に備える。(120分)	教科書や講義の内容をまとめて学習ノートを作成する。(120分)
担当教員	松本 信子		

第6回	消化器疾患の栄養・食事療法 消化性潰瘍、炎症性腸疾患の病態に応じた栄養・食事療法	胃・腸疾患について、教科書を読み授業に備える。(120分)	教科書や講義の内容をまとめて学習ノートを作成する。(120分)
担当教員	松本 信子		
第7回	消化器疾患の栄養・食事療法 肝臓病の病態に応じた栄養・食事療法	肝臓病について、教科書を読み授業に備える。(120分)	教科書や講義の内容をまとめて学習ノートを作成する。(120分)
担当教員	松本 信子		
第8回	術前後の栄養管理 消化管術前後の栄養・食事療法の留意点 確認テスト及び授業のまとめ	術前後の栄養管理について、教科書を読み授業に備える。 確認テストに備える(180分)	教科書や講義の内容をまとめて復習する。(60分)
担当教員	松本 信子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト 50% 事後学習ノート 30% 授業への参加度 20%	
その他	0		
教科書			
系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能③ 医学書院			
参考文献			
なし			
履修条件・留意事項等			

この授業を履修することで、病院の栄養管理について関心を深めて下さい。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門基礎科目 疾病の成り立ちと回復の促進					
科目名		看護病態治療学 I ≪2022カリ≫				ナンバリング	2330
配当年次	2年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	當瀬 規嗣						
授業の位置づけ							
<p>「生理学」と「解剖学」を基礎知識として、疾病のなりたちと治療を学習する。 「病態治療学 I」①呼吸器②循環器病学③糖尿病代謝内分泌④血液学の4分野からなる。 DPは、看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている。 学習への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている。であり、これらに反映させる科目である。</p>							
授業の概要							
<p>臨床で遭遇する頻度の高い代表的な疾患について、その病態生理、診断のための臨床検査・評価、治療までを系統立てて理解する。病態・治療論 I では、主に薬物療法、食事療法、注射・輸液療法による治療に着目して、呼吸器疾患、循環器疾患、血液疾患、糖尿病・代謝・内分泌疾患について学ぶ。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 生体の基本的解剖・生理を理解する 2. 病的変化から疾病に至る過程を理解する。 3. 内科的疾患の看護を可能とする知識・技術・態度を理解する。 							
授業の方法							
<p>講義用プリントおよびスライドによる講義を行います。講義の最後に知識の確認を行います。 課題はGoogle classroomで行います。</p>							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							
臨床で経験した症例もまじえて講義します。							

課題に対するフィードバックの方法			
4分野の最後に課題(選択問題)があります。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	呼吸器病学(1) 呼吸器の解剖・生理。肺・気管支の基本的構造。胸部写真と胸部CTの見方。スパイロメーターのみかたと解釈。血液ガス分析のみかた。	テキストの該当箇所を一読してください。<30分>	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。<30分>
担当教員			
第2回	呼吸器病学(2) 呼吸不全の病態と治療 閉塞性肺疾患と拘束性肺疾患の病態・特徴・診断・治療について	テキストの該当箇所を一読してください。<30分>	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。<30分>
担当教員			
第3回	呼吸器病学(3) 呼吸器感染症(ウイルス 細菌 多剤耐性菌 マイコプラズマ 結核菌 真菌 クラミジア)肺炎の特徴。誤嚥性肺炎の特徴。肺癌 原発性肺癌の分類・特徴・治療、転移性肺癌。	テキストの該当箇所を一読してください。<30分>	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。<30分>
担当教員			
第4回	呼吸器病学(4) 肺循環障害 心臓と肺の関係、肺塞栓。 その他の呼吸器疾患 外来で遭遇する肺疾患、睡眠時無呼吸症候群、過換気など	テキストの該当箇所を一読してください。<30分>	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。<30分>
担当教員			
第5回	循環器病学(1) 心臓の解剖と生理 心臓の基本的構造(冠動脈、刺激伝導系、大循環と肺循環) 心電図の基本	テキストの該当箇所を一読してください。<30分>	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。<30分>
担当教員			

第6回	循環器病学(2) 代表的な不整脈①	テキストの該当箇所を一読してください。<30分>	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。<30分>
担当教員			
第7回	循環器病学(3) 代表的な不整脈②とペースメーカー 心不全の病態と治療	テキストの該当箇所を一読してください。<30分>	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。<30分>
担当教員			
第8回	循環器病学(4) 虚血性心疾患 弁膜症と心筋疾患	テキストの該当箇所を一読してください。<30分>	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。<30分>
担当教員			
第9回	循環器病学(5) 先天性心疾患・心筋炎と心膜炎・大動脈疾患 末梢動脈疾患	テキストの該当箇所を一読してください。<30分>	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。<30分>
担当教員			
第10回	糖尿病代謝内分泌学(1) 糖尿病・糖尿病の合併症 脂質代謝異常症	テキストの該当箇所を一読してください。<30分>	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。<30分>
担当教員			

第11回	糖尿病代謝内分泌学(2) 代表的な内分泌疾患① 下垂体・甲状腺	テキストの該当箇所を一読してください。<30分>	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。<30分>
担当教員			
第12回	糖尿病代謝内分泌学(2) 代表的な内分泌疾患② 副腎・腎	テキストの該当箇所を一読してください。<30分>	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。<30分>
担当教員			
第13回	血液病学(1) 血液の成分と機能 血型と輸血	テキストの該当箇所を一読してください。<30分>	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。<30分>
担当教員			
第14回	血液病学(2) 赤血球の異常	テキストの該当箇所を一読してください。<30分>	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。<30分>
担当教員			
第15回	血液病学(3) 白血球の異常 凝固系の異常	テキストの該当箇所を一読してください。<30分>	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。<30分>
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	出席点 60点(1コマ4点) 課題 40点
その他	0	
教科書		
成人看護援助論の教科書と同じ		
参考文献		
病気が見える2 循環器 病気が見える3 糖尿病代謝内分泌 病気が見える4 呼吸器 病気が見える5 血液		
履修条件・留意事項等		
留意事項等 この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件である。単位が修得不可の場合は実習は受けれない		
備考欄		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門基礎科目 疾病の成り立ちと回復の促進					
科目名		看護病態治療学Ⅱ《2022カリ》				ナンバリング	2331
配当年次	2年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	菅原 美保、津村 宣彦						
授業の位置づけ							
<p>本科目は看護学科のディプロマポリシー「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている」「学修への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につける」と特に関係がある。 女性と新生児および小児の各種疾患の成因や病態および治療を科学的根拠の上から理解し、また女性のライフスタイルにおけるそれぞれの時期における性機能の変化や異常を修得、および新生児および小児の健康的な発育・発達を支援するための基礎的な知識を獲得するための授業であり、「母性看護学の展開Ⅰ」「小児看護学の展開Ⅰ」へ繋ぐ科目である。</p>							
授業の概要							
<p>臨床で遭遇する頻度の高い代表的な疾病な疾患について、その病態生理、診断のために臨床検査・評価、治療までを系統立てて理解する。病態、治療論Ⅱでは特徴的な治療や検査が必要となる、産婦人科疾患、腎・泌尿器疾患、小児疾患について学ぶ。</p>							
到達目標							
<p>【女性・周産期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の性と生殖生理、性機能についての基本的な知識を学び、妊娠、分娩、産褥の機序と各期の正常経過の維持のしくみについて、さらにその異常経過の病因を説明できる ・女性のライフサイクルにおける、性機能の変化や異常と各期に罹患しやすい疾患の病因・治療などを説明できる <p>【小児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの身体について解剖・生理的側面の特徴を理解し、異常や障害が起こるメカニズムを説明できる ・子どもに特有な疾患の病因、病態、症状、治療、検査について理解し、説明できる 							
授業の方法							
<p>授業方法はパワーポイントとハンドアウト、視聴覚教材などを用いた講義形式とする。</p>							
ICT活用							
<p>双方型授業(Google classroomを利用したミニテスト、レスポンスカード) 自主学習支援(e-ラーニング「今日の臨床サポート」)の活用、Google classroomを利用したレポート・課題提出、資料提供、予習課題の提示)</p>							
実務経験のある教員の教育内容							
<p>津村は産婦人科での臨床経験や知識を活かした講義を行う。 菅原は小児科での臨床経験や知識を活かした講義を行う。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
レスポンスカードを利用し、毎回の講義中における質問・意見については、丁寧に返答し、学びを共有する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 女性生殖器の構造と機能および女性のライフサイクルについて	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	津村 宣彦		
第2回	妊娠成立の機序および胎児・胎盤の発育について:月経周期、排卵、受精、着床、黄体、胎盤の働きなど	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	津村 宣彦		
第3回	異常妊娠について:流産、感染症、ハイリスク妊娠、胎盤異常など	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	津村 宣彦		
第4回	正常分娩・産褥および産科検査法について:陣痛発来から出産および産褥まで、超音波検査、羊水検査、出生前診断、胎児胎盤機能検査など	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	津村 宣彦		
第5回	異常分娩について:陣痛異常、産道異常、胎位・胎児異常、産科ショックなど	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	津村 宣彦		

第6回	婦人科検査および月経異常・性感染症、避妊法など:内分泌検査、不妊検査、不育症など産婦人科に関連した検査法、性感染症の疫学とその防止対策、避妊法のメリット・デメリット、月経異常および薬物治療について	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	津村 宣彦		
第7回	婦人科疾患について:良性疾患(子宮筋腫、子宮内膜症など)および悪性腫瘍	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	津村 宣彦		
第8回	確認テスト①:日本の産婦人科医療の抱えている問題および授業の把握度をテストで評価し、その解説をする。	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	津村 宣彦		
第9回	ガイドランス 小児の呼吸器疾患・感染症:急性気管支炎、急性細気管支炎、肺炎、学校感染症(麻疹・風疹・水痘・ムンプス・インフルエンザなど)	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原 美保		
第10回	<ゲストスピーカー> 小児の消化器疾患・腎疾患・内分泌疾患:口唇裂・口蓋裂、ヒルシュスプリング病、ロタウイルス感染症、潰瘍性大腸炎、ネフローゼ症候群、尿路感染症、1型糖尿病など	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原 美保		

第11回	小児の循環器疾患・神経疾患:心室中隔欠損症、ファロー四徴症、川崎病、てんかん、熱性けいれん、筋ジストロフィーなど 確認テスト②	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原 美保		
第12回	<ゲストスピーカー> 小児の血液腫瘍疾患:小児の免疫、急性白血病(リンパ性・骨髄性)・悪性リンパ腫・脳腫瘍など	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原 美保		
第13回	小児のアレルギー疾患・耳鼻科疾患・小児救急:食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、中耳炎、アデノイド増殖症、口蓋扁桃肥大、外傷、熱傷、誤飲など	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原 美保		
第14回	<ゲストスピーカー> ハイリスク新生児・先天疾患・発達障害:新生児仮死、新生児黄疸、呼吸窮迫症候群、ダウン症候群、18トリソミー、13トリソミー、自閉症、学習障害など 確認テスト③	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原 美保		
第15回	確認テスト④とまとめ:小児の健康障害についての理解をテストで確認し、解説を行う	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原 美保		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義内容に関する確認テストを実施する 確認テスト①(50%) 確認テスト②(10%) 確認テスト③(10%) 確認テスト④(30%) 小児分野講義終了時にミニテストを4回実施する(4%)
その他	0	

教科書

系統看護学講座成人看護学 (9) 女性生殖器第15版/末岡浩他/医学書院
 系統看護学講座母性看護学 (2) 母性看護学各論第14版/森恵美他/医学書院
 ナーシング・グラフィカ小児看護学 (3) 小児の疾患と看護第3版/中村友彦他編/メディカ出版

参考文献

看護学テキストNiCE 小児看護学 I, II 第4版/二宮啓子, 今野美紀/ 南江堂
 病気がみえる vol.15 小児科/医療情報科学研究所編/ メディックメディア

履修条件・留意事項等

評価対象物に不正行為が認められた場合は単位習得を認めない。他学生の学びを妨げる行為は慎み、講義中の私語は厳禁である。

備考欄

(備考欄)

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科								人間科学部 看護学科		
区分								専門基礎科目 疾病の成り立ちと回復の促進		
科目名								看護病態治療学Ⅲ《2022カリ》	ナンバリング	2332
配当年次	2年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2			
担当教員		尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子								
授業の位置づけ										
<p>本科目は、専門基礎科目の中で外科治療の対象となる疾患を取り扱う。そのため、人体の構造と機能を学ぶ「人体構造学Ⅰ・Ⅱ」「人体機能学Ⅰ・Ⅱ」などと連携している。また、疾病の成り立ちと回復の促進を学ぶ「看護病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ」及び「病理学」とは相互に関連する。そして、専門科目の「臨床看護技術」や「成人看護の展開Ⅱ」などの基礎となる科目である。DP「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている。(知識・技能)」「学習への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている。(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。</p>										
授業の概要										
<p>健康状態やその変化に応じた看護に必要な専門知識を習得するため、臨床で遭遇する頻度の高い代表的な疾病の病態生理、診断のための臨床検査・評価、治療までを系統立てて理解する。本科目では外科処置に着目して、消化器疾患、乳腺疾患、皮膚科疾患、耳鼻科疾患、眼科疾患、口腔外科疾患、運動器・整形外科疾患を学ぶ。</p>										
到達目標										
<ol style="list-style-type: none"> 1.外科治療の種類と分類、身体機能の障害や問題に応じた治療方法を説明することができる 2.手術に対する生体の反応と合併症について説明することができる 3.手術の対象となる疾患の病態について説明することができる 4.手術の対象となる主要な疾病の処置と管理方法を説明することができる 										
授業の方法										
<p>パワーポイントと配信した講義資料を用いて講義形式で進める 課題、レポート、理解度確認テストを行う</p>										
ICT活用										
なし										
実務経験のある教員の教育内容										
<p>外科治療を行う病院において看護師として勤務した経験を活かして、臨床に基づいた講義を行う</p>										

課題に対するフィードバックの方法			
事前課題、理解度確認テストの回答と解説は授業の中でフィードバックする			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 1. 外科治療の概要 1) 外科治療とその対象となる疾患 2) 手術の種類と分類 3) 身体機能の障害や問題に応じた治療	シラバスを読み、到達目標、授業方法、成績評価方法を確認する医学概論の外科的治療について復習する(90分)	第1回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第2回	2. 手術療法の実際 1) 麻酔導入と管理 2) 手術療法の流れと術中管理	麻酔管理と術中管理について教科書を読み知識を整理する(90分)	第2回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第3回	2. 手術療法の実際 3) 手術療法の実際に関するゲストスピーカーの講話	麻酔管理と術中管理について教科書を読み知識を整理する(90分)	第3回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第4回	3. 術前の身体評価と処置 1) 術前アセスメント 2) 術前処置	術前の身体評価と処置について教科書を読み知識を整理する(90分)	第4回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第5回	4. 手術侵襲と合併症 1) 手術侵襲 2) 主要な合併症の理解	手術侵襲と合併症について教科書を読み知識を整理する(90分)	第5回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		

第6回	5. 外科的処置と創傷管理 ゲストスピーカーによる講話;創傷回復を促進するための援助と褥瘡処置の実際について説明する	外科的処置と創傷管理について教科書を読み知識を整理する(90分)	第6回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第7回	6.手術の対象となる疾病と処置の理解 1) 消化器疾患;胃・食道 上部消化管検査および手術について、胃癌の手術を例に説明する	胃と食道の解剖・生理、胃がんの病態と治療について教科書を読み知識を整理する(90分)	第7回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する 第1～7回目の講義内容を復習し、理解度確認テストを受ける準備をする(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第8回	理解度確認テスト1 2) 消化器疾患;大腸 下部消化管の検査および手術について、大腸癌を例に説明する ストーマ造設、消化管癌の転移についてふれる	大腸の解剖・生理、大腸がんの病態と治療について教科書を読み知識を整理する(90分)	第8回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する
担当教員	尾形 裕子		
第9回	3) 消化器疾患;肝・胆・膵 胆嚢炎を例に、胆道ドレナージ、腹腔鏡手術、動脈塞栓術について説明する	肝・胆・膵の解剖・生理、胆嚢炎の病態と治療について教科書を読み知識を整理する(90分)	第9回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第10回	4) 皮膚科疾患 皮膚科の主要な疾患を例に、手術や処置、スキンケアについて説明する。 5) 眼科疾患 眼科の主要な疾患を例に、手術や処置について説明する	皮膚の解剖・生理について教科書を読み知識を整理する 眼の解剖・生理、白内障の病態と治療について教科書を読み知識を整理する(90分)	第10回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	柁本 常子		

第11回	6) 耳鼻咽喉科疾患 耳鼻咽喉科の主要な疾患を例に、手術や処置について説明する 7) 口腔外科疾患 口腔外科の主要な疾患を例に、手術や処置について説明する	耳・鼻・咽頭・喉頭の解剖・生理、喉頭がんの病態と治療について教科書を読み知識を整理する(90分)	第11回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	榎本 常子		
第12回	8) 口腔衛生 ゲストスピーカーによる講話; 口腔衛生管理に関する基礎的知識を説明する	歯の解剖・生理について人体の構造・機能の教科書を読み知識を整理する(90分)	第12回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	榎本 常子		
第13回	9) 運動器・整形外科疾患1 運動器・整形外科疾患の主要な疾患を例に、手術や処置について説明する	運動器の解剖・生理、病態と治療について教科書を読み知識を整理する(90分)	第13回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する 第8～13回目の講義内容を復習し、理解度確認テストを受ける準備をする(90分)
担当教員	古沢 幸子		
第14回	理解度確認テスト2 9) 運動器・整形外科疾患2 整形外科疾患の主要な疾患を例に、手術や処置について説明する	大腿骨頸部骨折の病態と治療について教科書を読み知識を整理する(90分)	第14回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	古沢 幸子		
第15回	10) 乳腺疾患 ゲストスピーカーによる講話; 乳腺の疾患について説明する 乳がんの診断、手術の種類と適応、処置や術後管理について、乳房再建術を例に説明する	乳房の解剖・生理、乳がんの病態と治療について教科書を読み知識を整理する(90分)	第15回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	古沢 幸子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	理解度確認テスト・課題・レポート
その他	0	なし
教科書		
ナーシング・グラフィカ 成人看護学(4):周術期看護 メディカ 出版 疾病のなりたちと回復の促進[1]病理学 第6版 医学書院 病気がみえるvol.1 消化器(第6版)メディックメディア 病気がみえるvol.11 運動器・整形外科 メディックメディア		
参考文献		
講義の中で随時紹介する		
履修条件・留意事項等		
課題・レポートの提出遅延、未提出は減点する		
備考欄		
(Blank space for notes)		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 看護学科						
区分	専門基礎科目 疾病の成り立ちと回復の促進						
科目名	看護病態治療学Ⅳ ≪2022カリ≫					ナンバリング	2333
配当年次	2年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	井上 仁美、辻 幸美、藤長 すが子、小橋 拓真						

授業の位置づけ

本科目はディプロマポリシーの「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている。」「学習への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている。」に特に関連する科目である。また、「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている。」「社会の一員としての責任を有し、専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力を身につけている。」に関連した科目である。

授業の概要

健康状態やその変化に応じた看護に必要な専門知識を習得するため、臨床で遭遇する頻度の高い代表的な疾病の病態生理、診断のために臨床検査・評価、治療までを系統立てて理解する。本科目では精神疾患、脳・神経疾患、膠原病・アレルギー疾患、腎・泌尿器疾患を学ぶ。

到達目標

精神疾患(統合失調症、気分障害、神経症性障害、不眠症、薬物依存症、アルコール依存症)の病態と治療について説明できる。
 脳の構造と機能、CTとMRI、脳腫瘍、水頭症、脳外傷と血種、脳ヘルニア、頭痛、脊髄の解剖、髄液検査、脳波、髄膜炎、プリオン病、てんかん、アルツハイマー病、小脳疾患、交感神経系と副交感神経系、パーキンソン病、筋電図、筋委縮性側索硬化症、ポリオ、多発性硬化症、ギランバレー症候群、重症筋無力症、筋ジストロフィーについて説明できる。
 アレルギー疾患(アレルギー性鼻炎、気管支ぜん息、蕁麻疹・アトピー性皮膚炎、アレルギー性結膜炎、食物アレルギー、アナフィラキシー、自己免疫性溶血性貧血、血小板減少症、顆粒球減少症、新生児溶血性黄疸、全身性エリスマトーデス(SLE)、全身性強皮症、多発筋炎、皮膚筋炎、シェーグレン症候群、混合性結合組織病、関節リウマチ(RA)ベーチェット病、橋本病、臓器移植後の拒絶反応や移植片対宿主病(GVHD)について説明できる。
 尿管・膀胱・尿道・前立腺での外科的処置の対象となる手術および、泌尿器検査について説明できる。造影剤の副作用、衝撃波治療、経尿道的手術、ロボット手術とその看護について説明できる。

授業の方法

授業の方法 講義形式で授業を行う。講義時間内に適宜、確認テストを行う。

ICT活用

参考文献提示やテストのフィードバックについてはGoogle Classroomを活用して学習支援を行う。

実務経験のある教員の教育内容

本科目は看護師として実務経験のある教員が担当する。

課題に対するフィードバックの方法			
準備学習・事後学習および確認テストについては、講義時間内またはClassroomでフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス(井上) 本科目の概要と学習方法について説明する。 精神疾患①統合失調症の病態と治療1 目標;本科目の概要と学習方法を説明できる。 統合失調症の病態と治療について説明できる。	テキスト『薬がみえる VOL.1 第2版』P. 232～250、10を読んで学習する(90分)	本日学習した内容をノートにまとめ次回の確認テストの準備をする(90分)
担当教員	井上 仁美		
第2回	精神疾患②統合失調症の病態と治療2(井上) 抗精神病薬の作用、副作用、自律神経との関連 講義最初に第1回目講義内容の確認テストを行う(8点) 目標;統合失調症の病態と治療について説明できる。抗精神病薬の作用、副作用、自律神経との関連について説明できる。	テキスト『薬がみえる VOL.1 第2版』P. 232～250、10、18～23を読んで学習する(90分)。	本日学習した内容をノートにまとめ次回の確認テストの準備をする(90分)。
担当教員	井上 仁美		
第3回	精神疾患③気分障害 うつ病の病態と治療(井上) 講義最初に第2回目講義内容の確認テストを行う(8点) 目標;うつ病の病態と治療について説明できる。	テキスト『薬がみえる VOL.1 第2版』P. 253～265を読んで学習する(90分)。	本日学習した内容をノートにまとめ次回の確認テストの準備をする(90分)。
担当教員	井上 仁美		
第4回	精神疾患④気分障害 双極性障害の病態と治療 不眠症の病態と治療(井上) 講義最初に第3回目講義内容の確認テストを行う(8点) 目標;双極性障害および不眠症の病態と治療について説明できる。	テキスト『薬がみえる VOL.1 第2版』P. 266～283を読んで学習する(90分)	本日学習した内容をノートにまとめ次回の確認テストの準備をする(90分)
担当教員	井上 仁美		
第5回	精神疾患④神経症性障害の病態と治療(井上) 講義最初に第4回目講義内容の確認テストを行う(8点) 目標;神経症性障害の病態と治療について説明できる。	テキスト『薬がみえる VOL.1 第2版』P. 284～291を読んで学習する(90分)。	本日学習した内容をノートにまとめ次回の確認テストの準備をする(90分)
担当教員	井上 仁美		

第6回	精神疾患④薬物依存症、アルコール依存症の病態と治療(井上) 講義最初に第5回目講義内容の確認テストを行う(8点) 目標:薬物依存症、アルコール依存症の病態と治療について説明できる。	テキスト『薬がみえる VOI.1 第2版』P. 293～298を読んで学習する(90分)。	本日学習した内容をノートにまとめ、第15回に行う確認テストの準備をする(90分)。
担当教員	井上 仁美		
第7回	脳疾患【講義】(辻) 学習内容:脳の構造と機能、CTとMRI、脳腫瘍、水頭症、脳外傷と血腫、脳ヘルニア、頭痛 行動目標:本日学習した疾患の病態と治療を説明できる	脳の機能と脳脊髄液の流れを学習する。(90分)	本日学習した疾患の看護をノートにまとめる。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第8回	脳疾患【講義】(辻) 学習内容:脊髄の解剖、髄液検査、脳波、髄膜炎、プリオン病、てんかん、アルツハイマー病、小脳疾患 行動目標:本日学習した疾患の病態と治療を説明できる	脳の機能と脳脊髄液の流れを学習する。(90分)	本日学習した疾患の看護をノートにまとめる。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第9回	神経疾患【講義】(辻) 学習内容:交感神経系と副交感神経系、パーキンソン病、筋電図、筋委縮性側索硬化症、ポリオ、多発性硬化症、ギランバレー症候群、重症筋無力症、筋ジストロフィー 行動目標:本日学習した疾患の病態と治療を説明できる	脳神経を復習してくる。(90分)	本日学習した疾患の看護をノートにまとめる。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第10回	アレルギー疾患①【講義】(小橋) アレルギー性鼻炎、気管支ぜん息、蕁麻疹・アトピー性皮膚炎、アレルギー性結膜炎、食物アレルギー、アナフィラキシー	免疫反応を復習する(90分)	本日学習した疾患の看護をノートにまとめる(90分)
担当教員	小橋 拓真		

第11回	<p>膠原病【講義】(小橋) 全身性エリスマトーデス(SLE), 全身性強皮症, 多発筋炎, 皮膚筋炎, シェーグレン症候群, 混合性結合組織病, 関節リウマチ(RA)ベーチェット病, 橋本病, 臓器移植後の拒絶反応や移植片対宿主病(GVHD) 目標: 本日学習した疾患の病態と治療を理解できる</p>	アレルギー疾患のⅢ～Ⅳ型を復習する(90分)	本日学習した疾患の看護をノートにまとめる(90分)
担当教員	小橋 拓真		
第12回	<p>膠原病【講義】(小橋) 全身性エリスマトーデス(SLE), 全身性強皮症, 多発筋炎, 皮膚筋炎, シェーグレン症候群, 混合性結合組織病, 関節リウマチ(RA)ベーチェット病, 橋本病, 臓器移植後の拒絶反応や移植片対宿主病(GVHD) 目標: 本日学習した疾患の病態と治療を理解できる</p>	アレルギー疾患のⅢ～Ⅳ型を復習する(90分)	本日学習した疾患の看護をノートにまとめる(90分)
担当教員	小橋 拓真		
第13回	<p>泌尿器系疾患【講義】(藤長) 講義の最初に腎・泌尿器系の構造と機能について確認する。 目標: 尿管・膀胱・尿道・前立腺での外科的処置の対象となる手術および、泌尿器検査について説明できる。造影剤の副作用、衝撃波治療、経尿道的手術、ロボット手術とその看護について説明できる</p>	腎・泌尿器系の構造と機能を復習する(90分)。	本日学習した代表的な外科的治療法とその看護についてまとめる(90分)。
担当教員	藤長 すが子		
第14回	<p>腎疾患【講義】(藤長) 講義の最初に13回目の講義内容の確認を行う。 目標: 腎移植が対象となる病態、移植の方法、拒絶反応や移植片対宿主病(GVHD)などの問題とその看護について説明できる</p>	腎移植について教科書の該当ページをノートにまとめ、わからないところを調べる(90分)。	事前学習したノートに、本日学習した内容を追加しまとめる。(90分)。
担当教員	藤長 すが子		
第15回	<p>本科目の振り返りおよびフィードバック(井上) 確認テスト(精神疾患5点、脳疾患および神経疾患20点、アレルギー疾患および膠原病20点、腎・泌尿器疾患15点;計60点)を行う</p>	これまでの講義内容を復習し確認テストの準備を行う(90分)	確認テストのフィードバックについて学習する(90分)
担当教員	井上 仁美		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>第2回～第6回講義で行う確認テスト計40点(各8点×5回)は、手書きで作成した自己学習ノートのみ持ち込み可とする。テキストは持ち込み不可。第15回で行う確認テスト60点(精神疾患5点、脳・神経疾患20点、アレルギー疾患・膠原病20点、腎疾患15点)はすべて持ち込み不可とする。以上、確認テスト計100点満点で評価する。</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>メディアックメディア『薬がみえる VOL.1 第2版』</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>適宜、提示する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>第1回～6回、15回の講義については資料を配布せず、教科書のみで講義を行うため必ず購入すること。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p>私語は厳禁とする。 確認テストは講義の最初に行うため、遅刻・欠席した場合、テストは受けられず、その回のテストは0点となるため注意すること。 確認テストで計60点未満の場合はDH判定となるため、再試対象となる。 遅刻は20分まで認める。20分以上の遅刻は欠席となる。遅刻3回で欠席1回となる。講義時間中に体調不良以外の理由で席をむやみに立ったり、教室外に行かないこと。お手洗い等で教室外に行くときは、10分以上席に戻らない場合、早退とみなすことがあるため注意すること。</p>		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門基礎科目 疾病の成り立ちと回復の促進					
科目名		感染症と看護《2022カリ》				ナンバリング	2336
配当年次	2年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	坂東 奈穂美、辻 幸美						

授業の位置づけ

ディプロマポリシー「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身に付けている(知識・技能)」ことに特に関連した科目である。「共通看護援助技術」「免疫学」「看護病態治療学Ⅰ」「看護病態治療学Ⅱ」「看護病態治療学Ⅲ」「看護病態治療学Ⅳ」に基づき、これ以降各専門科目全てに関連する。

授業の概要

本科目は、病院に限らず様々な場と看護の対象である人々の感染予防支援を実践できるように、感染症に関する基礎知識を学ぶ。学習内容は、細菌感染、真菌・ウイルスなどの感染の基礎と、感染予防と治療、看護の実践である。

到達目標

1. 感染が成立する機序と感染症予防の考え方と技術について説明できる。
2. 感染看護の実践について説明できる。
3. 組織的な感染管理と地域との連携について説明できる。

授業の方法

PowerPointと配布資料を用いながら講義形式で行う。
Googleフォームを利用し、授業についての振り返りや、考えたこと、疑問に思ったことなどコメントを記載してもらおう(全3回)。
確認テストを授業内に行う(全1回)。

ICT活用

Googleフォームで出席状況の確認を行う。
Googleフォームのアンケート機能を用いて双方向型授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

急性期病院での勤務経験を活かして感染症と感染予防について授業を行う(坂東)
22年間の脳神経外科病院の勤務経験から生活と看護を結び付けられるように指導できる(辻)

課題に対するフィードバックの方法			
コメントに対して、必要時、解説を行う。 確認テストを回収後、解答の解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	感染とはなにか(坂東) 感染の成立と発症までのプロセス、宿主と病原微生物との関係、感染経路について説明する。現代の主な感染症と法制度について概説する。	教科書P31～P63を熟読し学習する。(90分)	授業内容を自分のノートにまとめる。(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第2回	感染症予防のための基本的な考え方と基本技術(坂東) 清潔と不潔、手指衛生のタイミング、職業感染予防と予防接種、洗浄・消毒・滅菌の違い、標準予防策と感染経路別予防策について説明する。 コメントシート(1)	教科書P65～P90を熟読し学習する。(90分)	授業内容を自分のノートにまとめる。(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第3回	感染看護の実際①(坂東) 外来・救急外来・手術室・集中治療領域・一般病棟、周産期領域・NICU・小児科病棟における感染看護の実際について説明する。	教科書P111～P162、P177～P182を熟読し学習する。(90分)	授業内容を自分のノートにまとめる。(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第4回	感染看護の実際②(辻) 学習目標:人工透析・リハビリテーション・精神科病棟・在宅・介護施設における感染看護の実際がわかる。 行動目標:人工透析・リハビリテーション・精神科病棟・在宅・介護施設における感染看護の実際がイメージでき、他者に説明できる。 コメントシート(2)	教科書P164～P176、P183～P198までを熟読する。(90分)	授業内容を自分のノートにまとめる。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第5回	感染看護の実際③(坂東) 災害時における感染看護の実際と、感染症で患者が亡くなったときのケアについて説明する。 感染症に対する倫理的課題について説明する。	教科書P200～P211、P103～P109を熟読する。(90分)	授業内容を自分のノートにまとめる。(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		

第6回	感染管理と多職種連携(坂東) 医療機関における組織的な感染管理と、地域における施設や機関との連携について説明する。 コメントシート(3)	教科書P213～P222、P236～P237、P91～P100を熟読し学習する。(90分)	授業内容を自分のノートにまとめる。(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第7回	感染管理の実際(辻) ゲストスピーカー:医療施設における感染管理が、実際にどのように行われているのかについて説明する。 レポート課題	感染管理認定看護師、感染症看護専門看護師について調べてくる。(90分)	レポート課題に取り組み、期限までに提出する。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第8回	確認テスト(辻) 第1回から第6回までの授業内容について、知識を確認するテストを実施した後に、出題した内容について解説する。	第1回～第6回までの授業内容をまとめたノートで復習する(90分)	確認テストで間違っていたところを復習する(90分)
担当教員	辻 幸美		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	参加度30%(コメントシート30点:各10点×3回) 課題70%(レポート課題10点、確認テスト60点:辻10点分+坂東50点分)	
その他	0	なし	
教科書			
看護学テキストNice 感染看護学 患者の健康と権利を守り安全に看護を实践する/操 華子、川上 和美(編)/南江堂			
参考文献			
看護学テキストNice 微生物学・感染症学/中野 隆史(編)/南江堂 その都度、指示する。			
履修条件・留意事項等			

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門基礎科目 疾病の成り立ちと回復の促進					
科目名		臨床検査概論 ≪2022カリ≫				ナンバリング	2348
配当年次	2年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	合田 悟						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている」ことと特に関係がある科目である。また、「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームの在り方と看護師の役割を理解できている」ことも深く関係する。疾病の原因および治療における基礎的な知識を身につけ、看護に必要な臨床検査の原理や方法、実際の臨床現場の注意点、患者に与える負担等について学ぶ科目である。「免疫学」「人体構造学Ⅰ」「人体構造学Ⅱ」「人体機能学Ⅰ」「人体機能学Ⅱ」と関連し、疾病の成り立ちを理解する基礎となる。

授業の概要

臨床検査は診断確定の重要な要素であり、症状が出現する前に正常状態からの逸脱を発見することも可能である。また治療経過の確認にも大きな役割をもつことから、これらを理解し知識を習得する。臨床検査の意義、原理、方法、患者に与える負担を学ぶ。

到達目標

主な臨床検査について、検査の意義、原理、検査方法が分かる。
 検体の適切な取り扱いができる。
 臨床検査と看護の関係が分かる。
 臨床検査に関して患者へ適切な説明ができる。

授業の方法

パワーポイントや印刷物を用いて説明する。
 必要に応じて確認テストやレポート作成を行う。

ICT活用

なし。

実務経験のある教員の教育内容

医療機関で臨床検査業務に関わった経験を活かして講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
講義中および講義後に質問を受け付けます。回答はその都度あるいは次回の講義時に全体に対して行います。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	一般検査 ・臨床検査の概要と意義を理解する。 ・尿検査、尿糖、ケトン体、尿酸、クレアチニン、便検査、便潜血を理解する。	教科書の臨床検査の基本を読みままとめておくこと。(90分)	尿検査の項目、注意事項のまとめを行うこと。(90分)
担当教員			
第2回	微生物検査 ・感染症の概要と検査法を理解する。 ・細菌、ウイルス、リケッチア、真菌、グラム染色、生化学的性状、培養検査を理解する。	教科書で微生物の種類をまとめておくこと。(90分)	疾病の原因微生物のまとめを行うこと。(90分)
担当教員			
第3回	血液学的検査 ・血液の概要と意義を理解する。 ・赤血球、白血球、貧血、血球代謝、血液凝固検査、血小板数、ヘマトクリット、ヘモグロビンを理解する。	解剖生理学の教科書で血液を復習しまとめておくこと。(90分)	血液検査の項目のまとめを行うこと。(90分)
担当教員			
第4回	生化学的検査 ・生化学の意義と検査法を理解する。 ・電解質、タンパク、糖代謝、非タンパク性窒素、脂質、有機化合物を理解する。	教科書の臨床化学検査を読みままとめておくこと。(90分)	疾病と検査値の関係のまとめを行うこと。(90分)
担当教員			
第5回	酵素・機能検査 ・酵素の概要と意義を理解する。 ・アミラーゼ、リパーゼ、乳酸脱水素酵素、クレアチンキナーゼ、腎機能、肝機能、炎症マーカーを理解する。	解剖生理学の教科書で泌尿器系を復習しまとめておくこと。(90分)	疾病と検査値の関係のまとめを行うこと。(90分)
担当教員			

第6回	生理検査 ・循環器系の基礎と検査法を理解する。 ・心電図、呼吸機能、脳波を理解する。	解剖生理学の教科書で循環器系を復習しまとめておくこと。(90分)	心電図の原理、基本のまとめを行うこと。(90分)
担当教員			
第7回	輸血検査・病理検査 ・血液型の概要と意義を理解する。 ・病理学検査の概要と意義を理解する。 ・ABO式血液型、HLA型、血液製剤、GVHDを理解する。	教科書の輸血検査を読みまとめておくこと。(90分)	輸血検査の手順を復習しまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	・検査の進め方を理解する。 ・検査データの判読を理解する。 ・検査時の医療事故の予防を理解する。 ・遺伝子の基礎を理解する。 ・DNA(遺伝子、染色体)、遺伝子疾患について理解する。 まとめの確認テストを行う。	解剖生理学の教科書で細胞を復習しまとめておくこと。(90分)	遺伝子の基本と遺伝子疾患を復習しまとめておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト、まとめの確認テスト、レポートや欠席届等の提出物、受講態度等を総合的に判断する。	
その他	0	なし。	
教科書			
新体系看護学全書 臨床検査 池田斎 メヂカルフレンド社			
参考文献			
特に指定しない。			
履修条件・留意事項等			

欠席した場合は、速やかな欠席届の提出が必須である。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門基礎科目 健康支援と社会保障制度					
科目名		地域包括ケアシステム論《2022カリ》				ナンバリング	3612
配当年次	2年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	小橋 拓真						

授業の位置づけ

本学科のDPにある「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解できている。」「学習への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている。」「科学的思考と創造的思考を活用して看護の発展と社会へ貢献できる研究の基本的な能力を身につけている」と関連した科目である。
在宅療養者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしが続けられるために、地域における様々なサービスや支援を理解し、地域包括ケアシステムにおける関係職種・関係機関の役割、及び、チームケアにおける看護師が果たす役割を理解するための科目である。在宅看護学の基礎・在宅看護学の展開Ⅰ・在宅看護学の展開Ⅱ・地域看護学の基礎・家族看護学・チーム医療論・保健医療福祉行政論と関連し、在宅看護学実習等の専門基礎科目となる。

授業の概要

地域包括ケアシステムにおける住民を含めた関係職種・関係機関のネットワーク化の必要とチームケアにおける看護職の役割について理解を深める。住み慣れた地域で暮らし続けることができるために必要な社会保障のシステムがどのように確立するのか、様々な疾患や障がいを抱えている子どもから高齢者までを支えるケアシステムについて学ぶ。

到達目標

1. 地域連携の基本的連携について理解する。
2. 地域包括ケアシステムにおける保健・医療・福祉と専門職の役割について理解する。
3. 在宅療養者と家族を中心とする地域包括ケアシステムについて理解する。

授業の方法

PowerPointと配布印刷物・視聴覚教材(DVD)を用いた講義形式とグループ演習で進める。理解度を確認するために、毎回の講義ごとに記載する振り返りシートをもとにフィードバックを行う。また、地域の人々のために訪問診療を行っている医師から地域包括ケアシステムにおける医師の役割についての実践例から理解を深める。

ICT活用

なし。

実務経験のある教員の教育内容

看護師、保健師としての実務経験、及び、地域包括支援センター、社会福祉協議会における実務経験を講義に活用する(小橋)。

課題に対するフィードバックの方法			
講義ごとに提出した振り返りシートをもとに、フィードバックし、学びを共有し、自己学習に活かせるようにする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	1.地域包括ケアシステム論の概要について【講義】 1)地域包括ケアの概念 2)地域連携の理論と方法 3)我が国の社会保障制度の変遷 4)我が国の医療の背景と特徴、ケアサイクルの概念と理論	○教科書の関連する内容を読む ○在宅看護学概論および保健医療福祉行政論の資料を読む (90分)	○テキストと講義資料の内容を復習する。(90分)
担当教員	小橋 拓真		
第2回	2.地域連携の方法論と地域包括ケアシステムにおける地域連携と多職種連携について【講義】 1)連携の方法と形式について 2)地域包括ケアシステムが求められる背景	○教科書の関連する内容を読む (90分)	○テキストと講義資料の内容を復習する。(90分)
担当教員	小橋 拓真		
第3回	3.地域連携の方法論(1)【講義】 1)様々な地域の事例から地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みについて	○教科書の関連する内容を読む (90分)	○テキストと講義資料の内容を復習する。(90分)
担当教員	小橋 拓真		
第4回	4.地域連携の方法論(2)【演習】 1)日本における地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み ・国の機関(経済産業省・厚生労働省・内閣府など)や地域公共団体が支える地域包括ケアシステム 【課題レポート①聴講した内容を振り返り、レポートを期日までに提出する】	○第3回の講義内容を復習する (90分)	○講義資料の内容を復習する ○課題:講義から学んだこと、感想についてレポートにまとめる。 (90分)
担当教員	小橋 拓真		
第5回	<確認テスト①:第1回～第4回> 5.地域包括ケアシステムにおける看護職の役割【講義】 1)退院支援から地域連携において、看護師にはどのような役割があるのかについて 2)退院支援のプロセス第1段階、第2段階、第3段階について	○教科書の関連する内容を読む (90分)	○テキストと講義資料の内容を復習する。(90分)
担当教員	小橋 拓真		

第6回	<p><確認テスト①フィードバック> 6.地域包括ケアシステムにおける多職種の役割【講義】 1)薬剤師, ソーシャルワーカーなど他の役割について 2)地域連携の展望と課題 3)認知症ケアが必要とする地域連携 4)小規模多機能型居宅介護が進める地域連携</p>	<p>○教科書の関連する内容を読む (90分)</p>	<p>○テキストと講義資料の内容を復習する. (90分)</p>
担当教員	小橋 拓真		
第7回	<p>7.地域包括ケアにおける医師の役割と地域連携の実践【講義】 1)恵庭市で緩和ケアクリニックを開業している医師から恵庭市における在宅緩和ケアを中心とした地域包括ケアシステムの取り組みについて 【課題レポート②聴講した内容を振り返り, レポートを期日までに提出する】</p>	<p>○恵庭市のフォーマルおよびインフォーマルサービスについて調べる. 「在宅緩和ケア」について調べる. (90分)</p>	<p>○講義資料の内容を復習する ○課題: 講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる. (90分)</p>
担当教員	小橋 拓真		
第8回	<p><確認テスト②: 第5回～第8回> <確認テスト② フィードバック> 8.地域包括ケアシステムにおけるインテグレートケアと展望【講義】 1)インテグレートケアについて 2)地域包括ケアシステムの展望について 【課題レポート③「自身が考える地域包括ケアシステムとは」を期日までに提出する】</p>	<p>○教科書の関連する内容を読む ○第1～7回の講義資料を読む (90分)</p>	<p>○講義資料の内容を復習する ○課題: 自身が考える地域包括ケアシステムの課題と展望について, レポートにまとめる. (90分)</p>
担当教員	小橋 拓真		

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし.
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	○確認テスト2回: 50% (各25%) ○課題レポート3回: 40% (課題レポート①10%, ②10%, ③20%) ○振り返りシート, 出席態度: 10%
その他	0	なし.

教科書

①地域連携論－医療・看護・介護・福祉の協働と包括的支援－ 高橋紘士・武藤正樹, オーム社

参考文献

講義内で紹介する.

履修条件・留意事項等

地域のサービスについて興味を持って学ぶこと. 評価物において, 不正行為が認められた場合, D判定になることがある.

備考欄

なし.

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門基礎科目 健康支援と社会保障制度					
科目名		チーム医療概論《2022カリ》				ナンバリング	2384
配当年次	2年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	坂東 奈穂美、佐藤 明紀、金谷 匡紘						

授業の位置づけ

看護の対象となる人々とコミュニケーション能力を活用して、円滑な関係を構築し対象理解を深める能力を身に付ける。さらに、多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解するための科目である。
他の科目とのつながり：
「保健医療福祉行政論」「コミュニケーション論」「リハビリテーション論」「地域包括ケアシステム論」と関連し、「看護マネジメント論」および専門科目の看護学臨地実習分野の基礎となる。

授業の概要

患者中心のチーム医療を実現するために、異なる職種で構成されるチームメンバーそれぞれの役割・機能を把握して効果的なチームビルディングに必要な基礎的知識を理解する。多領域や地域の人々と連携してヘルスケアを発展させるために、医療チームにおいて看護職の果たす役割について学ぶ。多職種との協調、協働、調整、コンサルテーション等を学習する。

到達目標

- ・チーム医療における各専門職の役割について役割を説明できる
- ・多職種で連携する目的と、その実現に向けたシステムについて説明できる。
- ・多職種と協働するために必要なコミュニケーションスキルについて説明できる

授業の方法

パワーポイントとハンドアウトによる講義、および講義の内容に基づいたグループワークを行う。

ICT活用

Google Classroomを用いて、授業資料の配信や出席確認、レポート課題の提出などを行う場合がある。

実務経験のある教員の教育内容

坂東奈穂美: 看護師として急性期病院での勤務経験を活かした授業を行う。
佐藤明紀: 理学療法士として、総合病院での臨床経験15年を有し、活動経験を基に授業を行う。
金谷匡紘: 作業療法士として急性期や回復期、生活期のリハビリテーションに従事しており、その経験を基に授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
確認テストは授業内、もしくはGoogleClassroom内で解説する。レポート課題に対してはコメントによりフィードバックする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス チーム医療が求められるようになった背景、看護職に求められる役割について説明する。(坂東)	事前に提示する資料を読んでくる(90分)	授業内容をノートにまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第2回	講義: チーム医療における理学療法士の役割について説明する(佐藤)	チーム医療における理学療法士の役割について調べる(90分)	授業内容をノートにまとめる(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第3回	講義: チーム医療における作業療法士の役割について説明する(金谷)	チーム医療における作業療法士の役割について調べる(90分)	授業内容をノートにまとめる(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第4回	確認テスト① チーム医療の実際として、病院と地域をつなぐ退院調整について説明する。	退院調整とは何か、どのような職種が関わっているのかを調べてくる(90分)	授業内容をノートにまとめる。(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第5回	確認テストの解説 グループワーク: PTとOTと看護師はどのように連携すると、対象者(患者・利用者)のQOLを高めることができるのか? ー臨床での実践面ー(佐藤、金谷、坂東)	他職種とどのように連携すると良いのか、自分の考えをまとめておく(90分)	レポート課題①に取り組む(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		

第6回	講義:多職種で連携・協働するためのチームづくり(坂東) 自分とは違う背景や価値観を持つ人とのコミュニケーション、チームが出来上がるまでのプロセス、多職種で連携しやすくするための取り組み(IPW/IPE) 確認テスト②	友人や知人など関係性を作る ときに気を付けていることをあげ てくる(90分)	他職種を理解するために自分は どうしたいのか考えをまとめる (90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第7回	グループワーク:他職種を理解するために、どのようなことを行うと良いのかを考える。一チームとして協力し合うために必要なこと(佐藤、金谷、坂東)	自分とは異なる考えや価値観を 持った相手に対して、自分はど のように捉えるのか、自分の傾 向を振り返る(90分)	グループで検討した内容をまと める(90分)
担当教員	坂東 奈穂美、佐藤 明紀、金谷 匡紘		
第8回	グループワークの発表会(佐藤・金谷・坂東) それぞれのグループで話し合った事について発表し、共有する。	発表の準備をする(90分)	レポート課題②に取り組む(90分)
担当教員	坂東 奈穂美、佐藤 明紀、金谷 匡紘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト(各20点×2回) レポート課題(各30点×2回)	
その他	0	なし	
教科書			
なし。授業内で資料を配布する。			
参考文献			
<ul style="list-style-type: none"> ・実践チーム医療論—実際と教育プログラム 水本清久他 編著 医歯薬出版 2011 ・「チーム医療」とは何か—患者・利用者本位のアプローチに向けて(第2版) 細田満和子 著 日本看護協会出版会 2021 ・新しいチーム医療—看護とインタープロフェッショナル・ワーク入門(改訂版) 田村由美 編著 看護の科学社 2018 			
履修条件・留意事項等			

確認テストやレポート課題は、各授業の内容から出題もしくはグループで検討した内容や準備学習・事後学習に基づいた課題となっているので、欠席しないこと。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門基礎科目 健康支援と社会保障制度					
科目名		リハビリテーション論《2022カリ》				ナンバリング	2385
配当年次	2年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	橋田 浩、大川 浩子						

授業の位置づけ

・ディプロマ・ポリシーの「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている。(知識・技能)」ことと「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解できている。(知識・技能)」に特に関係がある科目である。
 ・総合教養講座・医学概論・日本国憲法・現代医療と福祉・介護と関連し、母性看護学概論・小児看護学概論・成人看護学概論・老年看護学概論・精神看護学概論・在宅看護学概論、チーム医療概論の基礎となる科目である。

授業の概要

・患者中心のチーム医療を実現するために、異なる職種で構成されるチームメンバーそれぞれの役割・機能を把握して効果的なチームビルディングに必要な知識を理解する。多領域や地域の人々と連携してヘルスケアを発展させるために、医療チームにおいて看護職の果たす役割について学ぶ。多職種との協調、協働、調整、コンサルテーション等を学習する。

到達目標

1. 病気や障害の捉え方を説明できる。
2. リハビリテーション分野の定義や現状を具体的に説明できる。
3. リハビリテーション分野の関連職種の名称を述べるができる。
4. リハビリテーションを支える社会制度や社会資源、法律についておおまかに説明できる。

授業の方法

・視聴覚教材を併用しながら基本的なリハビリテーションへの理解を深める。
 ・アクティブラーニングでは理解すべき基本的事項を確認課題として各自に課し、その解答にフィードバックを行う。

ICT活用

Googleのクラスルームを利用するのでスマートフォン等を持参する事。

実務経験のある教員の教育内容

病院において理学療法士、作業療法士としての勤務経験を活かし授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして確認課題を行い、質問などに対する解説を行う。 授業時間以外はgoogle クラスルームを通じて個別の質問等に回答する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	リハビリテーションの歴史と理念。医学的リハビリテーションの対象疾患。QOLと何か。リハビリテーション医療における看護の役割など。【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	大川 浩子		
第2回	リハビリテーション医療の特殊性。チーム医療の必要性とチームアプローチ。リハビリテーション医療に携わる専門職の役割と機能など。【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	大川 浩子		
第3回	WHOの国際分類(ICD,ICIDH,ICF)が生まれた背景。国際生活機能分類(ICF)の理念と活用法。代表的なADL評価(FIM、BI)への理解と活用法。「している」ADLと「できる」ADLの違いなど。【アクティブラーニング】確認課題実施。	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	大川 浩子		
第4回	医療保険でのリハビリテーション。脳卒中の急性期・回復期におけるリハビリテーションのチームアプローチについて。廃用症候群の諸症状と不働や低活動の予防。生活レベルでの活動の促進について。【アクティブラーニング】確認課題実施授業内で確認テスト実施(授業範囲1回~4回)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	大川 浩子		
第5回	介護保険でのリハビリテーション。脳卒中の生活期を支えるチームアプローチと各種介護サービスの紹介。【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		

第6回	脊髄損傷の急性期・回復期・生活期のリハビリテーション治療目標と各種支援方法。脊髄損傷者の障害理解と麻痺を補う自助具、機器の活用法など。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。 (90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第7回	高齢者に多い運動器症候群とは何か。大腿骨近位部骨折及び変形性膝関節症の治療とリハビリテーション。地域包括ケアシステムにおけるリハビリテーションチームの役割ほか。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。 (90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第8回	わが国の障害者施策の歴史。障害者(児)教育支援と障害者の職業訓練の制度等を紹介する。 【アクティブラーニング】確認課題実施 テスト実施(授業範囲5回~8回)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。 (90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業中間時及び授業終了時の確認テストの計2回の合計点で評価する。	
その他	0		
教科書			
リハビリテーション看護(改訂第3版)／酒井郁子・金城利雄・深堀浩樹 ISBN978-4-524-24629-2			
参考文献			
必要に応じてPDF資料をgoogleクラスルームにて配信する。			
履修条件・留意事項等			

・定期試験は行わず、授業中間時及び授業終了時の確認テストの計2回の合計点で評価する。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門基礎科目 健康支援と社会保障制度					
科目名		医療英語《2022カリ》				ナンバリング	2386
配当年次	2年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	Joseph S Tomasine						

授業の位置づけ

看護の対象となる人々とコミュニケーション能力を活用して円滑な関係を構築し対象理解を深める能力と、社会の一員としての責任を有し専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力と、それから看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力、それぞれを身につける科目として位置付けられる。そのため、本科目は全ての看護学科のカリキュラムにつながる。

授業の概要

実際の看護の場で使用する基本的かつ実用的な英語力を養うための入門クラスである。高いレベルの英語力を要求せずに、日々の看護実践におけるコミュニケーションで必要となる英語スキルを養成する。医療の現場で看護師や患者間でよくあるやりとりを取り上げ、その際に活用できる英語の習得を目指す。

到達目標

The overarching goal of this course is for learners to acquire the variety of English language spoken and understood by nurses and patients in common situations in hospitals. In order to achieve this goal, learners must first understand the variety of English that is spoken in common situations in hospitals. Secondly, learners must learn appropriate learning strategies that will be effective for acquiring this variety of English. Thirdly, learners must learn how to generate, receive and act upon feedback they will receive when they use this variety of English in the workplace.

授業の方法

Students will learn key expressions, vocabulary, and conversations for common situations in hospitals. Students will study vocabulary, new expressions and listen and check comprehension of two conversations between a nurse and a patient in each unit. Students will be required to complete a unit quiz after completing each unit.

ICT活用

Students will use the Google Suite for Education during this course. The material will be posted on Google Classroom. Students will use the textbook and worksheets to study material covered in each unit. The unit Quizzes will be posted on Google classroom.

実務経験のある教員の教育内容

I have a Masters of Arts in Teaching with a focus on Teaching English to Speakers of Other Languages (MAT- TESOL). I have been teaching in the classroom for over 10 years.

課題に対するフィードバックの方法			
Feedback will be given during each class, or on Google Meet if the classes are online, and scores from the unit quizzes will be returned			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	Study units 1 and 2 key expressions, vocabulary, conversations with the teacher.	Preparation: units 1 and 2 key expressions, vocabulary, conversations (90 minutes)	Review: Unit 1 and 2 (90 minutes)
担当教員			
第2回	Study units 3 and 4 key expressions, vocabulary, conversations with the teacher.	Preparation: units 3 and 4 key expressions, vocabulary, conversations (90 minutes)	Review unit 3 and 4 (90 minutes).
担当教員			
第3回	Study units 5 and 6 key expressions, vocabulary, conversations with the teacher.	Preparation: units 5 and 6 key expressions, vocabulary, conversations (90 minutes)	Review unit 5 and 6. (90 minutes)
担当教員			
第4回	Complete the unit quizzes on units 1-6.	Preparation: review units 1-6 for unit quizzes. (90 minutes)	Review: unit quizzes on units 1-6. (90 minutes)
担当教員			
第5回	Study units 8 and 9 key expressions, vocabulary, and conversations.	Preparation: units 8 and 9 key expressions, vocabulary, and conversations. (90 minutes)	Review units 8 and 9 key expressions, vocabulary, conversations. (90 minutes)
担当教員			

第6回	Study units 10 and 11 key expressions, vocabulary, and conversations.	Preparation: units 10 and 11 key expressions, vocabulary, and conversations. (90 minutes)	Review units 10 and 11. (90 minutes)
担当教員			
第7回	Study unit 12 key expressions, vocabulary, and conversations.	Preparation: unit 12 key expressions, vocabulary, and conversations. (90 minutes)	Review unit 12. (90 minutes)
担当教員			
第8回	Complete the unit quizzes on units 8-12.	Prepare for the unit quizzes on units 8-12. (90 minutes)	Review the unit quizzes on units 8-12. (90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0	No such test	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Participation and Homework 50 Unit Quizzes 50	
その他	0	Not applicable	
教科書			
Bedside Manner Beginner by Simon Capper Perceptia Press 2019 Third Edition ISBN 978-4-939130243			
参考文献			
None			
履修条件・留意事項等			

This course is only available to students in the Nursing Department

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門基礎科目 健康支援と社会保障制度					
科目名		看護学英語文献講読				ナンバリング	2387
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	榎本 常子、佐藤 洋子						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「医療の進歩、健康増進に関する情報への関心を常に維持し、実践を通して自らの成長を促すことができる」とことと特に関係がある科目である。英語文献を講読することで研究する力を身につけ、「看護研究Ⅰ」と「看護研究Ⅱ」と連携している。							
授業の概要							
看護学と医療・保健の質向上に貢献できる研究能力を養うため、看護学の英語文献を実際に日本語に翻訳する中で、英語の長文を講読する方法を習得し、学術文献の内容を理解できるように実践的に学ぶ。							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語文献を講読する意味が理解できる。 2. 看護学関連の英語文献を日本語に翻訳することができる。 3. 翻訳した英語文献を基に自らの考えを述べることができる。 							
授業の方法							
講義形式と学生同士のディスカッション、発表を活用して行う。 教材は、担当教員が作成した資料を用いる。							
ICT活用							
レポートの提出などはclassroomを活用して行う。							
実務経験のある教員の教育内容							
担当教員は、看護師資格を有し臨床経験に基づいた講義を行う。							

課題に対するフィードバックの方法			
提出されたレポートは、個別に評価する。 フィードバックは全体へ行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	コースガイダンス 授業の概要、進めかた、評価方法などについて説明する	英語論文を読むことの意義について調べておく(90分)	講義内容を振り返る(90分)
担当教員	佐藤 洋子		
第2回	看護学関連の英語文献を講読する意義 看護学関連の英語文献を講読する必要性、講読するポイント、英語文献の検索方法(CINAHL)、文献の抽出。	抽出した文献を翻訳する(90分)	抽出した文献を翻訳する(90分)
担当教員	佐藤 洋子		
第3回	抽出した文献を講読する 翻訳した文献を基にディスカッションする。	抽出した文献を翻訳する(90分)	講義での助言を基に追加修正する(90分)
担当教員	榎本 常子		
第4回	抽出した文献を講読する 翻訳した文献を基にディスカッションする。	抽出した文献を翻訳する(90分)	講義での助言を基に追加修正する(90分)
担当教員	榎本 常子		
第5回	抽出した文献を講読する 翻訳した文献を基にディスカッションする。	抽出した文献に対する自分の意見をまとめる(90分)	講義での助言を基に追加修正する(90分)
担当教員	榎本 常子		

第6回	抽出した文献を講読する 翻訳した文献を基にディスカッションする。	抽出した文献に対する自分の意見をまとめる(90分)	講義での助言を基に追加修正する(90分)
担当教員	榎本 常子		
第7回	発表会(発表・講義) 抽出した文献の概要と自身の考えを発表して、他者から意見をもらう。	発表準備を行う(90分)	講義での助言を基に追加修正する(90分)
担当教員	榎本 常子、佐藤 洋子		
第8回	本講義のまとめ 本講義の内容を振り返る。 最終レポート:抽出した英語文献の概要と自身の考えをレポートとして1200字程度にまとめる。	これまでの講義内容を振り返る(90分)	最終レポートを作成する(90分)
担当教員	佐藤 洋子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	最終レポート	
その他	0		
教科書			
なし			
参考文献			
必要時講義中に提示する。			
履修条件・留意事項等			

私語、必要時以外の携帯の使用を禁止する。
学習は主体的に行う。
評価対象物への不正行為は、D判定となる場合があります。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 看護学科						
区分	専門科目 基礎看護学						
科目名	看護ヘルスアセスメント《2022カリ》					ナンバリング	3406
配当年次	2年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子						

授業の位置づけ

看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけること(知識・技能)を目指す科目である。また、看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけること(思考・判断・表現)を目標とする科目である。人の健康状態について観察から得た情報をアセスメントするという看護過程の思考の第一段階の科目でもある。人体構造学および人体機能学、臨床看護技術、菅儀臨床判断に関係する科目である。

授業の概要

看護の立場で、人間を身体・心理・社会的存在として、健康状態をアセスメントすることの意義と重要性を理解し、ヘルスアセスメントができる能力を養う。また、全人的・多角的に集めた情報から、対象者のその人らしさを把握し、適切な看護ケアに結びつけていく態度を養う。特にフィジカルアセスメントでは、既習の人体構造学・人体機能学の知識を踏まえ、バイタルサインズ測定、フィジカルイグザミネーションなどフィジカルアセスメントに必要な基本技術演習を行いながら、日常生活行動の視点から看護としての観察技術を学ぶ。

到達目標

1. 看護におけるヘルスアセスメントの意義と目的について説明ができる。
2. ヘルスアセスメントに必要な基本技法を実施できる。
3. 既習の人体構造学・人体機能学を活用し、日常生活行動を遂行するためのからだの機能についてヘルスアセスメントが実施できる。
4. アセスメントによって得られた結果を、身体的・心理的・社会的側面から看護ケアに関連づけることができる

授業の方法

1. 板書、パワーポイントと配布印刷物にて講義と演習を並行して行う。
2. 演習は要項を配布し、演習の目的、進め方を熟読し、e-ラーニング(ナーシングスキル、他動画)も活用する
3. 演習ではシミュレーターモデルも活用し、様々な健康障害に関する情報収集を体験する
4. 演習時は、グループ内で患者役・看護師役を交互に経験し、得られた情報を正確に記録し、評価を行う。

ICT活用

ナーシングスキル(e-ラーニング)
他動画

実務経験のある教員の教育内容

病院において看護師として業務経験があり、その経験を活用する。

課題に対するフィードバックの方法			
課題にコメントを入れ、講義時に返却し説明を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	<p>コース説明</p> <p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護におけるヘルスアセスメントの意義 ・日常生活行動とヘルスアセスメント ・必要な基本的技法(問診・視診・打診・聴診) <p><生きていることのアセスメントその1></p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸 	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスを読む ・教科書の該当箇所を読む ・人体構造学・人体機能学にて学修した呼吸器の構造と機能を復習する。(90分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義資料・教科書を再度読む ・演習課題に取り組む(90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第2回	<p>【講義】</p> <p><生きていることのアセスメントその2></p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環 <p>小テスト①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスを読む ・教科書の該当箇所を読む ・人体構造学・人体機能学にて学修した心臓の構造と機能を復習する。(90分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義資料・教科書を再度読む ・演習課題(事前)に取り組む(90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第3回	<p>【演習】</p> <p><生きていることのアセスメントその1></p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸のアセスメントの実際 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書・講義資料、演習要項を読む。 ・ナーシングスキル、他動画を視聴する。 ・演習課題を持参する。(90分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・演習課題(事後)に取り組む。(90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第4回	<p>【演習】</p> <p><生きていることのアセスメントその2></p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環のアセスメントの実際 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書・講義資料、演習要項を読む。 ・ナーシングスキル、他動画を視聴する。 ・演習課題を持参する。(90分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・演習課題(事後)に取り組む。(90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第5回	<p>【講義】</p> <p><生きていることのアセスメントその3></p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサインズ 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の該当箇所を読む。 ・呼吸、循環のヘルスアセスメントについて復習する。(90分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義資料・教科書を再度読む ・演習課題(事前)に取り組む(90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第6回	<p>【演習】 <生きていることのアセスメントその3> ・バイタルサインズ測定の実際</p>	<p>・教科書・講義資料、演習要項を読む。 ・ナーシングスキル、他動画を視聴する。 ・演習課題を持参する。 (90分)</p>	<p>・演習課題(事後)に取り組む。 (90分)</p>
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第7回	<p>【演習】 <生きていることのアセスメントその3> ・バイタルサインズ測定の実際</p>	<p>・教科書・講義資料、演習要項を読む。 ・ナーシングスキル、他動画を視聴する。 ・演習課題を持参する。 (90分)</p>	<p>・演習課題(事後)に取り組む。 (90分)</p>
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第8回	<p>【講義】 <食べることのアセスメント> <排せつすることのアセスメント> 小テスト②</p>	<p>・教科書の該当箇所を読む ・人体構造学・人体機能学にて食べる、排せつするの構造と機能を復習する。 (90分)</p>	<p>・講義資料・教科書を再度読む ・演習課題(事前)に取り組む (90分)</p>
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第9回	<p>【演習】 <食べること・排せつすることのアセスメント> ・腹部・消化器系、泌尿器系のアセスメントの実際</p>	<p>・教科書・講義資料、演習要項を読む。 ・ナーシングスキル、他動画を視聴する。 ・演習課題を持参する。 (90分)</p>	<p>・演習課題(事後)に取り組む。 (90分)</p>
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第10回	<p>【講義】 <動くことのアセスメント> 小テスト③ (渡辺) *技術試験について説明</p>	<p>・教科書の該当箇所を読む ・人体構造学・人体機能学にて動くことの構造と機能を復習する。 (90分)</p>	<p>・教科書・講義資料を再度読む ・演習課題(事前)に取り組む (90分)</p>
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第11回	【演習】 ＜動くことのアセスメント＞ ・筋・骨格系のアセスメントの実際	・教科書・講義資料、演習要項を読む。 ・ナーシングスキル、他動画を視聴する。 ・演習課題を持参する。 (90分)	・演習課題(事後)に取り組む。 (90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第12回	【講義】 ＜話す・聴く・視ることのアセスメント＞ 小テスト④	・教科書の該当箇所を読む ・人体構造学・人体機能学にて話す・聴く・視ることの構造と機能を復習する。 (90分)	・講義資料・教科書を再度読む ・演習課題(事前)に取り組む (90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第13回	【演習】 ＜話す・聴く・視ることのアセスメント＞ ・感覚器系・神経系のアセスメントの実際	・教科書・講義資料、演習要項を読む。 ・ナーシングスキル、他動画を視聴する。 ・演習課題を持参する。 (90分)	・演習課題(事後)に取り組む。 (90分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第14回	【演習:技術試験】 バイタルサインズ測定技術試験	・バイタルサインズ測定について復習する。 (90分)	・自己評価表提出(60分)
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第15回	【講義】 まとめ 確認テスト	・これまでの講義・演習について教科書・講義資料を読む。 (90分)	なし
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト40点(10点×4回) 提出物20点 技術試験20点 確認テスト20点 *技術試験については、合格に至らなかった場合は技術試験について再試を行う。
その他	0	

教科書

- ① 深井喜代子編:新体系看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術 I, メヂカルフレンド社
- ② 人体構造学及び人体機能学にて使用した教科書・講義資料

参考文献

- ①日常生活行動からみるヘルスアセスメント
- ②看護がみえる フィジカルアセスメント

履修条件・留意事項等

提出物について、盗用等が認められた場合は、D判定となる場合がある。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 基礎看護学					
科目名		臨床看護技術 <<2022カリ>>				ナンバリング	3418
配当年次	2年	開講学期	2024年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	竹之内 優美、木口 幸子、藤長 すが子、渡辺 一代、赤坂 浩子						

授業の位置づけ

本科目は、看護学科のディプロマポリシーの中でも特に「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている。(思考・判断・表現)」、「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている。(知識・技能)」、「学習への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている。(関心・意欲・態度)」に関連した科目である。本科目は、1年次に履修する各専門基礎・専門科目ならびに2年前期に開講される「看護過程論」や「看護ヘルスアセスメント」の学びを基盤とする。
本科目を学ぶことにより、疾病を持つ人々が安全に治療・検査を受け、安心して療養生活を送ることができるように支援するための基礎的知識・技術を獲得すると共に、状況を的確にとらえる判断力やコミュニケーション能力の向上を図る。そして、ここでの学びは2年次後期の「基礎看護学実習Ⅱ」や3年次前期の各専門科目に繋がる。

授業の概要

生命活動を支える技術の原理・原則や治療、処置に伴う看護技術を理解する。また、検査および薬物療法における基本知識及び看護師の役割と法的責任を述べることができる。安全で適切な注射・採血の技術を習得する。これまで学んだ知識や技術を活用しながら対象の健康課題を検討し、演習を通して臨床判断能力を養う。

到達目標

1. 治療・処置を受ける対象者への看護の役割と法的責任を説明できる。
2. 与薬・輸血および検査に関する基礎的知識を説明できる。
3. 与薬・輸血および検査に関する看護技術の基本と留意点を説明できる。
4. 演習を通し、安全かつ適切な採血・注射の看護技術を習得できる。
5. 事例の健康状態のアセスメントを基盤に、援助場面における臨床判断を行い、状況に合わせた看護援助の実践ができる。
6. 自己の臨床判断能力に関する課題を明確にすることができる。

授業の方法

1. 講義: パワーポイントと配布資料および必要に応じて動画視聴を用いて説明する。
2. 演習: シミュレーターまたは模擬患者役の学生に対し、採血および皮下注射を実施する。
3. グループワーク: グループ内で意見交換しながら、事例の理解を深め、適切な状況判断を導くための準備学習を行う。
4. 客観的臨床能力試験 (OSCE): 事例の状況に合わせた看護の模擬実践および客観的評価に基づいたリフレクションを行う。

ICT活用

Google Formのアンケート機能を用いて双方向授業を取り入れる。
Google class roomに教員が作成した技術動画等をアップし、自主学習への支援を行う。
タブレットを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

看護師として病院勤務を有する各教員が臨床経験を活かし、生命活動を支えるための治療、処置に伴う看護技術を教授する。

課題に対するフィードバックの方法			
1. 講義に関連した課題については、講義の中で全体へのフィードバックを行う。 2. 演習記録に関しては、コメントを記載し返却する、または全体へのフィードバックを行う。 3. 客観的臨床能力試験 (OSCE) の実施後、個々にフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【コースガイドランス】 【講義】 1) 検査に伴う看護の役割 ・検査場面における看護師の役割と援助の基本 ・検査の種類と意義 2) 検査を受ける対象者への看護① ・排泄物の検査(尿、便、喀痰) ・生体検査	教科書Ⅱp.340-345および p.364-382を熟読する。 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第2回	【講義】 1) 検査を受ける対象者への看護② ・体液・組織の検査 (血液検査、穿刺液検査、分泌物機能検査、組織検査・生 検・細胞診 【ミニテスト10点】	教科書Ⅱp.345-369を熟読する 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第3回	【講義】 薬物療法を受ける対象者を看護するための基礎的知識 1)薬物療法に伴う看護師の役割 2)与薬に関する基礎的知識 2)薬物療法の種類と意義	教科書Ⅱp.270-379を熟読する 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第4回	【講義】 薬物療法を受ける対象者をへの看護 1)経口与薬法 2)外用薬の皮膚・粘膜適用 3)注射法	教科書Ⅱp.329-339を熟読する 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第5回	【講義】 輸血を受ける対象者をへの看護技術 1)輸血の基礎知識 2)輸血の説明・同意と副作用の観察 3)輸血実施時の留意点	教科書Ⅱp.329-339を熟読する 【45分】	学習した講義内容を復習する 【45分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第6回	<p>【演習】</p> <p>1) 駆血帯の使用方法和採血部位の選択の実際 2) 静脈血採血のデモンストレーション 3) 静脈血採血時のリスクへの対応</p>	<p>デモンストレーション内容の看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】</p>	<p>学習した講義内容を復習する 【45分】</p>
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第7回	<p>【演習】</p> <p>静脈血採血を受ける対象者への援助技術の実際1 1) 事例の状況に合わせ、事前の観察と説明を行い、採血の同意を得る。 2) 採血モデルを用いて採血を実施する。 3) 実施後の観察を行う。</p>	<p>演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】</p>	<p>演習の実施記録を整理する 【45分】</p>
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第8回	<p>【演習】</p> <p>静脈血採血を受ける対象者への援助技術の実際② 1) 事例の状況に合わせ、事前の観察と説明を行い、採血の同意を得る。 2) 採血モデルを用いて採血を実施する。 3) 実施後の観察を行う。</p>	<p>演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】</p>	<p>演習の実施記録を整理する 【45分】</p>
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第9回	<p>【演習】</p> <p>薬物療法を受ける対象者への看護技術 1) 点滴静脈内注射時の看護援助の実際 2) 筋肉注射の部位の選択 3) 筋肉内注射のデモンストレーション</p>	<p>デモンストレーション内容の看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】</p>	<p>学習した講義内容を復習する 【45分】</p>
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第10回	<p>【演習】</p> <p>皮下注射を受ける対象者への援助技術の実際① 1) 事前の観察(シミュレータ使用) 2) 説明と同意 3) 準備、実施、後片付け 4) 事後の観察(シミュレータ使用))</p>	<p>演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】</p>	<p>演習の実施記録を整理する 【45分】</p>
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第11回	<p>【演習】 皮下注射を受ける対象者への援助技術の実際② 1) 事前の観察(シミュレータ使用) 2) 説明と同意 3) 準備、実施、後片付け 4) 事後の観察(シミュレータ使用)</p>	<p>演習要項の熟読 看護技術に関するテキストの熟読および動画視聴 【45分】</p>	<p>演習の実施記録を整理する 【45分】</p>
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第12回	<p>臨床判断演習① ※変化する対象者の状態を判断し、状況に合わせた看護援助を検討する。 【グループワーク】 2) 複数の事例を提示し、紙面と「シナリオ」の情報から事例の健康状態をアセスメントする。 3) 健康上で起こりうるリスクを予測する。</p>	<p>事例を読み、事前課題に取り組む。 【45分】</p>	<p>課題に取り組む。 【90分】</p>
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第13回	<p>臨床判断演習② ※変化する対象者の状態を判断し、状況に合わせた看護援助を検討する。 【グループワーク】 対象者の状況を 1) 事例の様々な状況に合わせた援助方法を検討する。 2) 援助実施中のリスクへの対応について検討する。</p>	<p>課題に取り組む。 【45分】</p>	<p>課題の追加修正を行う。 【90分】</p>
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第14回	<p>【客観的臨床能力試験(OSCE)】 1. 直前に複数事例の中のどの模擬患者に看護援助を行うのかを伝える。 2. 追加情報を提示し、その状況に合わせて、援助技術を実践する。 3. 援助中に模擬患者の訴えやトラブルに対応する。 4. 実施15分、報告(事実と判断)とフィードバック5分とする。 5. リフレクションにより自己の臨床判断と実践内容を振り替える。</p>	<p>実践に向けて準備する。 【90分】</p>	<p>リフレクション内容を演習記録にまとめる。 【60分】</p>
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第15回	<p>【科目確認テスト(30点)】 【まとめ】 ・本科目の学習内容のまとめ</p>	<p>教科書・講義資料・演習記録の内容を復習する 【90分】</p>	<p>本科目の学習内容を整理する 【45分】</p>
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1) 科目確認テスト30%、小テスト10%、演習記録・課題40%、客観的臨床能力試験20% ※演習記録の評価基準については、コースガイダンス時に説明する 2) 提出物の遅延・参加態度・演習時の身だしなみ等は減点対象とする
その他	0	なし

教科書

1. 深井喜代子編：新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社
2. 深井喜代子編：新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社

参考文献

1. 有田 清子 他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 第18版 医学書院
 2. 任和子・井川順子・秋山智弥編：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版 医学書院
 3. 松尾ミヨ子 他 編：ナースング・グラフィカ基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版
 4. 横山美樹：看護がみえる！ Vol.2 基礎看護技術 第1版 メディックメディア
- その他 授業の中で随時紹介する

履修条件・留意事項等

- ・出席時間2/3以上かつ総合評価60%以上の2つの要件を満たした場合に、本科目の単位を認定します。
 - ・演習内容によっては、2講続きとなる場合や3組編成となる場合があります。授業予定については、第1回目のコースガイダンス時に説明します。
- ※その他、履修上の詳しい点については、初回に配布するガイダンス資料に基づきます。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 基礎看護学					
科目名		看護過程論《2022カリ》				ナンバリング	3402
配当年次	2年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	竹之内 優美、木口 幸子、藤長 すが子、渡辺 一代、赤坂 浩子						

授業の位置づけ

本科目は、看護学科のディプロマ・ポリシーの中でも、特に「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている。(思考・判断・表現)」、「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている。(知識・技能)」に関連している。看護学の理論や科学的根拠に基づき、対象者の健康課題を解決するための基礎的な能力を獲得する。ここでの学びは、2年次後期に開講される基礎看護学実習Ⅱにおける学修内容につながる。さらに、今後の専門科目における思考のプロセスの基盤を身につけるうえで重要な位置づけとなる科目である。

授業の概要

看護過程とは「対象であるその人にどのような援助が望まれているのかを考えようとして実践する」いわば看護実践の科学的方法論である。なぜ看護過程が必要なのか、その意義について、看護とは何かや健康の概念との関連から理解する。その上で、看護過程展開に必要な能力についても理解し、事例を使用して具体的な看護展開方法について学ぶ。「看護を系統的に具体的に考えていく」思考過程を通じて、看護の視点を持って対象の健康問題をとらえ援助を展開できる基礎的技能を習得する。

到達目標

1. 看護過程の概念および看護実践における看護過程活用の意義を説明できる。
2. 看護過程の概要および各構成要素について説明できる。
3. 事例をもとに、看護過程の各段階を展開することができる。
4. 看護実践の記録としての看護記録について説明できる。

授業の方法

1. 講義: パワーポイントと配布資料を用いて説明する。
2. 個人ワーク: 講義内容を活用しながら、アセスメント・全体像(全体関連図)・看護計画を個々に作成する。
3. グループワーク: 個人ワークをもとに、グループ内で意見交換しながら内容を深めて看護計画を作成する。
4. ロールプレイ: グループで作成した看護計画について、一場面を設定し、看護援助の実施・評価を行う。
5. グループ討論: 看護計画および実施の内容について、グループ発表およびグループ間討議を行う。

ICT活用

Google class roomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

看護師としての病院勤務経験をもとに、看護過程の事例の具体的な状況を示しながら教授する。

課題に対するフィードバックの方法			
1. 毎回、授業終了時に授業内容に関する疑問、質問をFormsで受けつけ、次回講義前あるいは次回講義時にフィードバックする。 2. 提出された課題には、随時、コメントをつけて返却する。 3. 必要時、Google class roomを用いてクラス全体へのコメントを返却する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【コースガイダンス】 【講義】 1) 看護過程とは 2) 看護過程の意義と目的 3) 看護過程とクリティカルシンキング 4) 看護過程の構成要素 5) コードンの機能的健康パターンの活用	シラバスを熟読する 看護過程とはなにか、教科書1. のp.14-19を熟読する。 【60分】	看護過程の意義とクリティカルシンキング、構成要素についてまとめる 【90分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第2回	【講義】 1) コードンの機能的健康パターンの各クラスターの概要 2) 情報収集・整理の方法 【個人ワーク】 1) 各パターンの情報整理	コードンの機能的健康パターンの11.項目について調べる。 【90分】	学習した講義内容を復習する 【90分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第3回	【講義】 1) 病態関連図の描き方 2) アセスメントの視点:健康知覚—健康管理パターン 【個人ワーク】 1) 病態関連図の作成 2) 健康知覚—健康管理パターンの分析解釈	事例情報を熟読する 健康知覚—健康管理パターンについて教科書2.p91を熟読する。 【90分】	事例の情報整理、分析解釈を行う。 【90分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第4回	【講義】 1) アセスメントの視点:栄養—代謝パターン 2) アセスメントの視点:排泄パターン 【個人ワーク】 1) 必要エネルギー量および必要水分量の計算 2) 栄養—代謝パターンの分析解釈 3) 水分出納バランスの計算	健康知覚—健康管理パターンのアセスメント提出に向けて準備する。 栄養—代謝パターンについて教科書2.p92-93を熟読する。 【90分】	事例の情報整理、分析解釈を行う。 【90分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第5回	【講義】 1) アセスメントの視点:活動—運動パターン 2) アセスメントの視点:睡眠—休息パターン 【個人ワーク】 1) 活動—運動パターンの分析解釈 2) 睡眠—休息パターンの分析解釈	栄養—代謝パターンのアセスメント提出に向けて準備する。 排泄パターンについて教科書2.p94を熟読する。 【90分】	事例の情報整理、分析解釈を行う。コメント内容について追加・修正を行う。 【90分】
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

<p>第6回</p>	<p>【講義】 1) アセスメントの視点: 認知—知覚パターン 2) アセスメントの視点: 自己知覚—自己概念パターン 【個人ワーク】 1) 認知—知覚パターンの分析解釈 2) 自己知覚—自己概念パターンの分析解釈</p>	<p>排泄パターンのアセスメント提出に向けて準備する。 活動—運動パターンおよび睡眠—休息パターンについて教科書2.p95-96を熟読する。 【90分】</p>	<p>事例の情報整理、分析解釈を行う。コメント内容について追加・修正を行う。 【90分】</p>
<p>担当教員 木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子</p>			
<p>第7回</p>	<p>【講義】 1) アセスメントの視点: 役割—関係パターン 2) アセスメントの視点: セクシュアリティ—生殖パターン 【個人ワーク】 1) 役割—関係パターンの分析解釈 2) セクシュアリティ—生殖パターンの分析解釈</p>	<p>活動—運動パターン、睡眠—休息パターンのアセスメント提出に向けて準備する。 認知—知覚パターン、自己知覚—自己概念パターン、役割—関係パターンについて教科書2.p96-98を熟読する。 【90分】</p>	<p>事例の情報整理、分析解釈を行う。コメント内容について追加・修正を行う。 【90分】</p>
<p>担当教員 木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子</p>			
<p>第8回</p>	<p>【講義】 1) アセスメントの視点: コーピング—ストレス耐性パターン 2) アセスメントの視点: 価値—信念パターン 【個人ワーク】 1) コーピング—ストレス耐性パターンの分析 2) 価値—信念パターンの分析</p>	<p>認知—知覚パターン、自己知覚—自己概念パターン、役割—関係パターンのアセスメント提出に向けて準備する。 セクシュアリティ—生殖パターン、コーピング—ストレス耐性パターン、価値—信念パターンについて教科書2.p95-96を熟読する。 【90分】</p>	<p>事例の情報整理、分析解釈を行う。コメント内容について追加・修正を行う。 【90分】</p>
<p>担当教員 木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子</p>			
<p>第9回</p>	<p>【講義】 1) 全体像 2) 全体関連図の描き方 3) 看護上の課題の特定 4) 優先順位の考え方 【個人ワーク】 1) 全体関連図の作成</p>	<p>11パターンのアセスメントの再提出に向けて準備する。 【90分】</p>	<p>全体関連図を作成する。 【90分】</p>
<p>担当教員 木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子</p>			
<p>第10回</p>	<p>【講義】 1) 看護目標(長期目標・短期目標)の設定 2) 看護計画の立案 3) 実施 4) 評価 【個人ワーク】 1) 看護課題リストの作成</p>	<p>看護上の課題と優先順位について教科書1.p41-43を熟読する 【90分】</p>	<p>全体関連図を修正する。 看護課題リストと優先順位の根拠を作成する。 【90分】</p>
<p>担当教員 木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子</p>			

第11回	<p>【グループワーク】</p> <p>1)グループで1つの看護課題を取り上げ、看護計画を立案する</p> <p>2)次回の発表・実践の準備(役割分担や練習)を行う。</p>	<p>全体関連図、看護課題リストと優先順位の根拠の提出に向けて準備する。</p> <p>看護目標と看護計画についての教科書1のp43-47を熟読する【90分】</p>	<p>個人ワークの記録物の追加・修正を行う。</p> <p>グループの看護計画の内容を個々に作成する。【90分】</p>
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第12回	<p>【発表とグループ討議】</p> <p>※1組・2組を分ける。</p> <p>1)各グループの看護計画(1つ)の発表</p> <p>2)グループ間で意見交換</p> <p>【グループワーク】</p> <p>1)質問・意見や他グループの発表からの学を活かし、計画内容を修正する。</p>	<p>グループの看護計画の内容を個々に作成する。【90分】</p>	<p>個人ワークの記録物の追加・修正を行う。</p> <p>発表・実践の準備【90分】</p>
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第13回	<p>【模擬看護実践とグループ討議】</p> <p>1)各グループの看護計画内容のデモンストレーション</p> <p>2)グループ間で意見交換を行う。</p>	<p>看護計画のグループ発表準備【90分】</p>	<p>グループで取り上げた看護計画以外にもう1つ個人で看護計画を作成する。</p> <p>デモンストレーションの準備【90分】</p>
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第14回	<p>【グループワーク】</p> <p>1)模擬看護実践をもとに看護計画の評価を行う。</p>	<p>個人ワークの看護計画の提出準備</p> <p>デモンストレーション準備【90分】</p>	<p>個人ワークの記録物の追加・修正を行う。</p> <p>【90分】</p>
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第15回	<p>【科目確認テスト(40点)】</p> <p>【まとめ】</p>	<p>教科書・講義資料の内容を復習する。【90分】</p>	<p>最終提出に向けて、看護過程の全記録のまとめをする【90分】</p>
担当教員	木口 幸子、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>30% 科目確認テスト 60% 課題提出(アセスメント、全体像、看護課題の抽出、看護目標立案、看護計画立案の各段階と最終提出) 10% グループ発表およびデモンストレーション(参加態度含む) ※課題の評価基準については、コースガイダンス時に説明する。</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	

教科書

1. 深井喜代子編(2017). 新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I. メヂカルフレンド社
2. 渡邊トシ子編(2011). ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント. ヌーヴェルヒロカワ
3. 山岸節子編(2000). 自分で描ける病態関連図. 照林社

参考文献

授業の中で、適宜、参考文献を紹介する。

履修条件・留意事項等

- ・出席時間2/3以上かつ総合評価60%以上の2つの要件を満たした場合に、本科目の単位を認定します。
- ・グループ課題以外はすべて個人課題です。個人課題の評価対象物において他者の課題内容の盗用や代筆などの不正行為があった場合は、単位認定不可(DH対象外であり、D判定です)となるので注意してください。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 基礎看護学					
科目名		看護倫理<<2019～21カリ>>				ナンバリング	3422
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	藤長 すが子						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「看護を实践する能力を高めるために必要な知識・技術を習得している(知識・技能)」と特に関連がある科目である。「また、人間の生命や権利を尊重し、生活統合体としての人間を理解するため、幅広い知識と教養を身につけている(知識・技能)」、「保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、協働して活動する能力を高めることができる(知識・技能)」に基づく。この科目は、今後の看護実践の土台となる科目であり、自らが考えはぐくむ科目として学ぶ意味がある

授業の概要

看護を实践するうえで必要な倫理的な基礎知識および倫理的意思決定について学ぶ。また、看護実践上で遭遇する倫理的問題について事例を通して検討し、看護を实践する能力を高めるために必要な知識・技術を習得する。

到達目標

1. 倫理原則について説明できる
2. 看護における倫理の意義と重要性を説明できる
3. 看護における倫理的責任と倫理的行動の基準を説明できる
4. 看護実践上で遭遇する倫理的問題について検討し、自分の意見を述べるができる

授業の方法

1. 講義形式
2. パワーポイントと配布資料を用いて行う。
3. 課題学習ノートとリフレクションカードの活用

ICT活用

1. グーグルクラスルームを用いて課題提出、回収、必要時コメントなどを行う

実務経験のある教員の教育内容

看護師としての臨床経験と看護教員経験をもとに、基本的な考え方を具体的な事例を用いて教授する

課題に対するフィードバックの方法			
毎回授業終了時に授業内容に関する疑問・質問を受けつけ、次回講義時にフィードバックする 提出された課題には、必要爾コメントをつけて返却する グーグルクラスルームなども活用し、質問の返答や資料提示を行う			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	コースオリエンテーション 倫理とは 倫理と法、道徳の違い 倫理原則	倫理とは何かについて調べる 倫理と道徳の違いについて調べる(90分)	倫理原則の問題点について整理する(90分)
担当教員			
第2回	看護倫理とは 看護倫理の歴史的推移	看護倫理とは何か調べる 看護倫理の歴史について調べる(90分)	看護倫理の意義についてレポートする(90分)
担当教員			
第3回	専門職と倫理 看護職の倫理綱領	専門職とは何か調べる 看護職の倫理綱領について調べる(90分)	看護職の倫理綱領の内容について具体的な説明を加え整理する(90分)
担当教員			
第4回	看護活動と看護倫理-1 ・守秘義務 ・アドボガシー ・パターナリズム ・インフォームド・コンセント	アドボガシー、パターナリズム、インフォームド・コンセントの意味について調べる(90分)	看護援助実施時のインフォームド・コンセントのあり方について考える(90分)
担当教員			
第5回	看護活動と倫理-2 ・再生医療 ・性と生殖をめぐる看護と倫理 ・終末期医療と倫理 ・異文化間の看護と倫理	事前配布資料を読み、わからないところを調べる(90分)	看護活動における倫理的課題について整理する(90分)
担当教員			

第6回	倫理的意思決定のプロセス1 倫理的意思決定とは 事例のケアの倫理的意思決定プロセスについて考える	倫理的意思決定について調べる(90分)	事例の倫理的意思決定の課題についてまとめる(90分)
担当教員			
第7回	倫理的意思決定のプロセス2 事例のケア実施に関する倫理的意思決定プロセスについてまとめ発表する	事例の倫理的意思決定プロセスについて、自己の考えをまとめる(90分)	自己の倫理観についてまとめる(90分)
担当教員			
第8回	確認テスト まとめ	これまでの講義内容を復習する(90分)	看護活動における倫理の必要性についてレポートする(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	30% 確認テスト 40% 課題提出と課題の達成度(事前学習・事後学習内容含) 30% レポート提出状況と内容	
その他	0		
教科書			
なし			
参考文献			
履修条件・留意事項等			

- 全授業時間の3分の2以上の出席をもって評価対象とする
- 評価対象物において代筆や盗用・カンニングなどの不正行為があった場合には、D判定となる場合がある

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 基礎看護学					
科目名		看護教育学				ナンバリング	3424
配当年次	4年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	木口 幸子						

授業の位置づけ

この科目は、医療の進歩、健康増進に関する情報への関心を常に維持し、実践を通して自らの成長を促す(関心・意欲・態度)と共に、自己学習・自己評価をし続ける行動や態度をとることができる(関心・意欲・態度)。
科学的に思考し、創造的に問題や課題を探索し解決する能力を身につけるための科目である。
これまでのすべての科目の位置づけを関連させながら、自己学習・自己評価をし続ける行動や態度を醸成するための科目である。
この科目は教養科目を含めてすべての科目に関連する科目である。

授業の概要

看護教育学とは何かを理解し、わが国における看護教育制度の歴史的変遷と今日の課題を学ぶ。これらを通して、カリキュラムの編成過程、教授＝学習過程、教育評価について把握し、専門職として発展するために、研究成果を活用しながら、大学における看護学を学ぶ意義を考える。

到達目標

1. 看護教育学の概念を理解し、わが国の看護教育の意義と歴史的変遷を概観する。
2. わが国の看護教育制度の現状と課題を理解する。
3. 看護教育におけるカリキュラムの概要を理解し、授業展開・教育評価の基本を理解する。
4. 看護における専門職として研究成果を学習する意義を理解する。
5. 1から4を通して大学における看護学を学ぶ意義を考えることができる。

授業の方法

講義

ICT活用

無し

実務経験のある教員の教育内容

修士課程において看護教育学を専攻し、看護教育学について幅広い知識を有している。この経験を活かして看護教育学について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
コメントを記載し、フィードバックを行う、			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 看護教育学の定義と関連用語を学ぶ	看護教育学、看護学教育学の違いを調べる。 (必要時間90分)	テキスト第1章を読み、A4版一枚要約する。 (必要時間90分)
担当教員			
第2回	わが国の看護教育の制度の現状と歴史の変遷を学ぶ	わが国の看護教育制度について調べる。 (必要時間90分)	テキスト第2章を読み、A4版用紙1枚にまとめる。 (必要時間90分)
担当教員			
第3回	わが国の看護教育制度を通して、今日的な課題を学ぶ	第2回目の事後学習について説明できるように準備する。 (必要時間90分)	わが国の看護基礎教育の現状と課題についての意見をA4版1枚にまとめる。 (必要時間90分)
担当教員			
第4回	看護教育におけるカリキュラムの編成を学ぶ	北海道文教大学の教育理念及び看護学科の教育理念を読み、自分なりに解釈し説明できるように準備する。 (必要時間90分)	テキスト第3章を読み、A4版1枚にまとめる。 (必要時間90分)
担当教員			
第5回	大学における学習の目的と指定規則について学ぶ 大学において看護学を学ぶ意義を確認する	テキストp458～477及びp4507～516を読む。 (必要時間90分)	大学の目的、指定規則を背景にわが国で起きている看護基礎教育の課題をA4版用紙1枚にまとめる。(必要時間90分)
担当教員			

第6回	看護教育における授業展開を学び、教授＝学習過程の意味を学ぶ	入学時から学んだ講義演習実習について、困難だったこと、克服できたことを考えてくる。 (必要時間90分)	テキストp207～246を読み、A4版用紙1枚にまとめる。(必要時間90分)
担当教員			
第7回	看護教育における教育評価について学ぶ	入学時から現在まですべての科目から受けた評価について自己分析する。(必要時間90分)	テキスト第6章を読み、A4版用紙1枚にまとめる。(必要時間90分)
担当教員			
第8回	実習における授業展開を学ぶ 専門職の意味を学び、看護専門職として発展するために研究成果の意味と活用を学ぶ まとめ レポートオリエンテーション	テキストp251～300まで読んでくる。(必要時間90分)	テキストp283～293まで読み、A4版用紙1枚にまとめる。(必要時間90分)
担当教員			

成績評価の方法

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	提出物50% レポート50%
その他	0	

教科書

杉森みどり, 舟島なをみ(2021). 看護教育学 第7版, 医学書院, 東京.

参考文献

看護実践・教育のための測定用具ファイル 医学書院
看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う, 南江堂

履修条件・留意事項等

評価対象物において代筆や盗用等の不正行為があった場合にはD判定となる場合があります。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 看護学科						
区分	専門科目 成人看護学						
科目名	成人看護学の展開 I 《2022カリ》					ナンバリング	3516
配当年次	2年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子						

授業の位置づけ

成人看護学は成人看護学の基礎、展開Ⅰ～Ⅲ、臨地実習の科目で構成される。成人看護学の展開Ⅰは成人期にある人と家族を対象に慢性期疾患とがん疾患に焦点をあてた看護に関連する理論と援助を学ぶ科目であり、「成人看護学の基礎」を基盤として「看護病態治療学Ⅰ・Ⅱ」や「保健医療福祉行政論」「チーム医療概論」などの科目と連携し「成人看護学の展開Ⅲ」「成人看護学実習」に繋がる。DP「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている。(知識・技能)」 「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解できている。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

成人期の対象の特徴と健康問題、看護援助について学ぶ。健康状態による看護の特徴では慢性期に、疾病ではがん疾患に焦点をあてて看護に関連する理論と援助を学ぶ。慢性・不可逆的健康課題を有する人・家族が、療養生活を継続できるようセルフケア能力を高め、その人にとって最適な健康状態にできるような援助を学ぶ。がんの特殊性とがん罹患により脅かされる人々の命および生活について理解を深め、がんの病期、化学療法・放射線療法・緩和ケアなどの治療に応じた援助について学ぶ。

到達目標

- 1.慢性期看護及び慢性疾患やその治療の特徴を述べることができる
- 2.慢性期にある人々の身体的、心理的、社会的特徴を述べることができる
- 3.慢性疾患をもつ人々とその家族に対する看護活動と、看護師の役割について考え論じることができる
- 4.がんの疫学をもとに、がんを取り巻く医療・看護の動向を述べることができる
- 5.がん治療に対する看護、がん医療における看護師の役割を説明できる

授業の方法

パワーポイントと配信した講義資料を用いて講義形式で進める
事例の援助についてグループワークとグループ発表を行う
課題、レポート、理解度確認テストを行う
コメントシートを活用して個別に授業の振り返りを行い、その内容をクラスで共有する

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

慢性疾患及びがん疾患患者の治療を行う病院において看護師として勤務した経験を活かして、臨床に基づいた講義を行う

課題に対するフィードバックの方法			
事前課題、理解度確認テストの回答と解説は授業の中でフィードバックする			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	慢性期看護の特徴の理解 慢性疾患及び治療の特徴の理解	シラバスを読み、到達目標、授業方法、成績評価方法などを確認する 「成人看護学の基礎」の講義内容から、医療の動向と経過別看護の特徴を復習する(90分)	慢性期看護の特徴、慢性疾患及び治療の特徴について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第2回	成人期及び慢性期にある人の特徴の理解 成人期及び慢性期にある人とその家族の看護援助の特徴の理解	成人期及び慢性期にある人とその家族の看護援助の特徴について教科書を読み知識を整理する(90分)	成人期及び慢性期にある人とその家族の看護援助の特徴について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第3回	高血圧の患者への看護 1.血圧異常と評価及び治療の理解 2.高血圧の患者及び家族への援助	血圧異常と評価及び治療、高血圧の患者および家族への援助について教科書を読み知識を整理する(90分)	血圧異常と評価及び治療、高血圧の患者および家族への援助について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第4回	高血圧の患者への看護 3.高血圧のある人の事例の解釈 4.事例の援助の理解	前回の授業内に提示された課題を行う(90分)	事例の援助について教科書・講義資料を用いて復習する 第1～4回目の講義内容を復習し、理解度確認テストを受ける準備をする(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第5回	理解度確認テスト1 糖尿病の患者への看護 1.糖尿病の疾病の成り立ちと治療の理解	糖尿病の疾病の成り立ちと治療について教科書を読み知識を整理する(90分)	糖尿病の疾病の成り立ちと治療について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	榎本 常子		

第6回	糖尿病の患者への看護 2.糖尿病患者及び家族への援助 3.糖尿病のある人の事例の解釈	糖尿病患者及び家族への援助 について教科書を読み知識を 整理する(90分)	糖尿病患者及び家族への援助 について教科書・講義資料を用 いて復習する(90分)
担当教員	榎本 常子		
第7回	糖尿病の患者への看護 4.事例の援助の理解	前回の授業内に提示された課 題を行う(90分)	事例の援助について教科書・講 義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	榎本 常子		
第8回	慢性腎臓病患者への看護 1.慢性腎臓病の疾病の成り立ちと治療の理解	慢性腎臓病の疾病の成り立ちと 治療について教科書を読み知 識を整理する(90分)	慢性腎臓病の疾病の成り立ちと 治療について教科書・講義資料 を用いて復習する(90分)
担当教員	古沢 幸子		
第9回	慢性腎臓病患者への看護 2.慢性腎臓病患者及び家族への援助 3.透析治療を受ける人への事例の解釈	慢性腎臓病患者及び家族への 援助について教科書を読み知 識を整理する(90分)	慢性腎臓病患者及び家族への 援助について教科書・講義資料 を用いて復習する(90分)
担当教員	古沢 幸子		
第10回	慢性腎臓病患者への看護 4.事例の援助の理解	前回の授業内に提示された課 題を行う(90分)	事例の援助について教科書・講 義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	古沢 幸子		

第11回	がんに罹患した人とその家族への看護 1.がん看護学総論	がん医療の現在と看護、がんの病態と臨床経過について教科書を読み知識を整理する(90分)	がん医療の現在と看護、がんの病態と臨床経過について教科書・講義資料を用いて復習する第5～11回目の講義内容を復習し、理解度確認テストを受ける準備をする(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第12回	理解度確認テスト2 がんに罹患した人とその家族への看護 2.がん薬物療法と看護	がん薬物療法の看護について教科書を読み知識を整理する(90分)	がん薬物療法の看護について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第13回	がんに罹患した人とその家族への看護 3.がん放射線療法と看護 がん放射線療法と看護の実際に関するゲストスピーカーの講話	がん放射線治療の看護について教科書を読み知識を整理する(90分)	がん放射線治療の看護について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第14回	がんに罹患した人とその家族への看護 4.がん患者の療養支援 がん患者の療養支援の実際に関するゲストスピーカーの講話	がん患者の療養支援について教科書を読み知識を整理する(90分)	がん患者の療養支援について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第15回	がんに罹患した人とその家族への看護 5.造血幹細胞移植と看護 造血幹細胞移植と看護の実際に関するゲストスピーカーの講話	造血幹細胞移植と看護について教科書を読み知識を整理する(90分)	造血幹細胞移植と看護について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	理解度確認テスト・課題・レポート
その他	0	なし
教科書		
成人看護学 慢性期看護論 第3版 ヌーヴェルヒロカワ 系統看護学講座 別巻 がん看護学 第3版 医学書院 病気がみえるvol.2循環器(第5版) vol.3 糖尿病・代謝・内分泌(第5版) vol.8腎・泌尿器(第3版) メディックメディア		
参考文献		
本科目の単位修得が無ければ、成人看護学実習の履修は不可 課題・レポートの提出遅延、未提出は減点する		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 成人看護学					
科目名		成人看護学の展開Ⅱ《2022カリ》				ナンバリング	3518
配当年次	2年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子						

授業の位置づけ

成人看護学は成人看護学の基礎、展開Ⅰ～Ⅲ、臨地実習の科目で構成される。成人看護学の展開Ⅱは成人期にある人と家族を対象に急性疾患と手術療法に焦点をあてた看護に関連する理論と援助を学ぶ科目であり、「看護病態治療学Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ」や「保健医療福祉行政論」「チーム医療概論」などの科目と連携し、「成人看護学の基礎」を基盤として「成人看護学の展開Ⅲ」「成人看護学実習」に繋がる。DP「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている。(知識・技能)」「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解できている。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

成人期の対象の特徴と健康問題、看護援助について学ぶ。健康状態による看護の特徴では急性期に、治療の特徴では手術療法に焦点をあてて看護に関連する理論と援助を学ぶ。急性期では急激に健康状態が変化する状況にある個人及び家族の、疾病や侵襲的な治療とそれに対する反応を理解し、侵襲からの速やかな回復・生活の再調整に向けた援助を学ぶ。手術を受ける患者の看護では、周術期の概念や看護目標・役割と、手術療法に伴う合併症の予防と回復を促進する援助、術後生活の支援、術後後遺症への適応を促進する援助を学ぶ。

到達目標

- 1.急性な状態にある患者とその家族を理解するために必要な概念や理論の特徴を述べることができる
- 2.急性な状態にある患者とその家族の苦痛・不快感覚の緩和と生活支援および情緒的支援のための看護活動を述べるができる
- 3.救急蘇生法の手順や留意点を述べるができる
- 4.周術期にある患者の手術による身体的、心理的特徴を述べるができる
- 5.術期の経過に応じた目標と看護の役割、周術期に特徴的な援助を説明することができる

授業の方法

パワーポイントと配信した講義資料を用いて講義形式で進める
課題、レポート、理解度確認テストを行う
コメントシートを活用して個別に授業の振り返りを行い、その内容をクラスで共有する

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

急性疾患及び手術を受ける患者の治療を行う病院において看護師として勤務した経験を活かして、臨床に基づいた講義を行う

課題に対するフィードバックの方法			
事前課題、理解度確認テストの回答と解説は授業の中でフィードバックする			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	急性の状態にある患者と家族を理解するための理論 危機理論、ストレスコーピング、モニタリング、痛み、生体侵襲理論	シラバスを読み、到達目標、授業方法、成績評価方法などを確認する 痛み、生体侵襲理論、危機理論、ストレスコーピングについて教科書を読み知識を整理する(90分)	各理論の特徴と看護への適用について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第2回	急性の状態にある患者の主要病態の特徴とケア 1.急性の呼吸機能障害のある人への看護	呼吸器の構造と機能、気管支喘息の病態及び症状、検査・評価、治療、症状について教科書を読み知識を整理する(90分)	急性の呼吸機能障害のある人の観察と援助について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第3回	急性の状態にある患者の主要病態の特徴とケア 2.急性の循環機能障害のある人への看護	循環器の構造と機能、虚血性心疾患の病態及び症状、検査・評価、治療、症状について教科書を読み知識を整理する(90分)	急性の循環機能障害のある人の観察と援助について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第4回	急性の状態にある患者の主要病態の特徴とケア 3.急性の脳・神経機能障害のある人への看護の実際に関するゲストスピーカーの講話	脳・神経の構造と機能、脳梗塞の病態及び症状、検査・評価、治療、症状について教科書を読み知識を整理する(90分)	急性の脳・神経機能障害のある人の観察と援助について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第5回	急性の状態にある患者の主要病態の特徴とケア 4.呼吸・循環のケア	呼吸・循環ケアについて教科書を読み知識を整理する(90分)	呼吸・循環ケアについて教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		

第6回	一次救命処置の理解 心肺蘇生法	一次救命処置に関して教科書を読み知識を整理する。ナーシングスキルの心肺蘇生法とAEDを視聴する(90分)	救急対応及び救急時に必要な処置の実施で留意点について教科書・講義資料を用いて復習する 第1～6回目の講義内容を復習し、理解度確認テストを受ける準備をする(90分)
担当教員	榎本 常子		
第7回	理解度確認テスト1 二次救命処置の理解 救急対応及び救急時に必要な処置	二次救命処置に関して教科書を読み知識を整理する。ナーシングスキルの二次救命処置に関する技術を視聴する(90分)	救急対応及び救急時に必要な処置の実施で留意点について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	榎本 常子		
第8回	救急看護の特徴と実際 救急看護活動に関するゲストスピーカーの講話	救急医療の動向や歴史と関連法規に関して学んだ内容を整理する(90分)	救急医療の施設の特徴や看護活動の実際について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	榎本 常子		
第9回	急性の状態にある患者の主要病態の特徴とケア 5.急性の栄養摂取・消化機能障害のある人への看護	消化器の構造と機能、肝炎の病態及び症状、検査・評価、治療、症状について教科書を読み知識を整理する(90分)	急性の肝炎のある人の観察と援助について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	榎本 常子		
第10回	急性の状態にある患者の主要病態の特徴とケア 6.急性の運動機能障害のある人の看護	下肢の骨の構造と機能、脛骨骨折の病態及び症状、検査・評価、治療、症状について教科書を読み知識を整理する(90分)	脛骨骨折の人の観察と援助を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	榎本 常子		

第11回	<p>周術期看護の特徴</p> <p>1.周術期の看護目標と看護の役割</p> <p>2.術前の看護</p>	<p>術前処置、術前オリエンテーション、治療の意思決定、術前の不安に対する援助に関して教科書を読み知識を整理する(90分)</p>	<p>術前の看護の役割について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)</p>
担当教員	古沢 幸子		
第12回	<p>周術期看護の特徴</p> <p>3.手術中の看護の実際</p> <p>4.術直後の看護</p>	<p>術前訪問の意義、手術室での処置や医療チームの役割分担について教科書を読み知識を整理する(90分)</p>	<p>術中の看護の役割について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)</p>
担当教員	古沢 幸子		
第13回	<p>周術期看護の特徴</p> <p>5.術後の看護</p>	<p>術後の観察の内容、術後疼痛のマネジメント、呼吸・循環の援助、早期離床について教科書を読み知識を整理する(90分)</p>	<p>術後の看護の役割について教科書・講義資料を用いて復習する</p> <p>第11～13回目の講義内容を復習し、理解度確認テストを受ける準備をする(90分)</p>
担当教員	古沢 幸子		
第14回	<p>理解度確認テスト2</p> <p>周術期看護の特徴</p> <p>6.術後の機能障害を抱えて生活する人への看護</p>	<p>術後の機能障害とその看護介入について教科書を読み知識を整理する(90分)</p>	<p>術後の機能障害とその看護介入について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)</p>
担当教員	古沢 幸子		
第15回	<p>周術期看護の特徴と実際</p> <p>術後の機能障害を抱えて生活する人への看護の実際に関するゲストスピーカーの講話</p>	<p>術後の機能障害とその看護介入について15回目の講義資料と教科書を読み、知識を整理する(90分)</p>	<p>周術期看護について本日の講義内容と14回目の内容と合わせて、教科書・講義資料を用いて復習する(90分)</p>
担当教員	古沢 幸子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	理解度確認テスト・課題・レポート
その他	0	なし
教科書		
成人看護学 急性期看護論 ヌーヴェルヒロカワ 成人看護学 成人看護技術 改訂第2版 南江堂 ナーシング・グラフィカ 成人看護学(4):周術期看護 メディカ出版 病気がみえるvol.1消化器(第6版), 病気がみえるvol2循環器(第5版)病気がみえる, 病気がみえるvol7脳・神経(第2版), 病気がみえるvol11運動器・整形外科(第1版) メディックメディア		
参考文献		
講義の中で随時紹介する		
履修条件・留意事項等		
本科目の単位修得が無ければ、成人看護学実習の履修は不可 課題・レポートの提出遅延、未提出は減点する		
備考欄		
(Blank space for additional notes)		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 成人看護学					
科目名		成人看護学の展開Ⅲ(1組)				ナンバリング	3520
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介						

授業の位置づけ

成人看護学は成人看護学の基礎、展開Ⅰ～Ⅲ、臨地実習の科目で構成されている。「成人看護学の基礎」では、成人期に特徴的な健康問題と看護を学び、その基礎の学びを基盤として「成人看護学の展開Ⅰ・Ⅱ」では経過別に疾病や治療が対象者に及ぼす影響とそれに応じた看護を学んだ。これらの科目に引き続き、この科目では糖尿病への罹患及び胆石症を発症し手術療法を受ける事例に対する看護過程を展開することにより、既習の知識・技術・態度の統合を図り、「成人看護学実習」「看護研究Ⅱ」に繋がる科目である。「病態・治療学Ⅰ・Ⅲ」「薬理学」「臨床検査学」などの疾病・治療に関する科目と連携する。DP「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

成人期にある人が疾病や治療の影響により、処置のセルフケア行動の獲得や生活の再構築が必要となる場面を設定し、看護過程を展開する。また、急性の健康障害及び救命を目的として診療・看護上の問題を解決する技能および医療機器活用のなかで患者の安全性を考慮した対応を習得する。

到達目標

1. 事例に対して経過別看護の特性に応じた看護過程の展開ができる
2. ケア場面に応じた行動計画を作成し、教員の助言を受けながら模擬患者に適切なケアを行うことができる
3. グループワークで事例の看護過程を討議し、看護ケアの実施・評価を共有できる
4. 学生としての役割・責務を果たし、学習への主体性を有した自律的な行動ができる

授業の方法

看護過程の展開・技術演習の要点については、パワーポイントと配布印刷物を用いて説明する
 指定された事例のケアに必要な技術演習を行い、模擬患者にケアを提供しながら看護過程を展開する
 看護過程の展開とケアの実施は、教員の指導を受けながらグループワークを中心に行う
 グループでの学びと自己学習により、成人期・慢性期看護・周術期看護の特徴に応じた看護過程を各自で展開する

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

総合病院で看護を実践した経験のある教員が臨床に基づいて指導にあたる

課題に対するフィードバックの方法			
課題に対するコメントを返す 課題の解説は授業の中でフィードバックする			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション グループと担当者の発表 事例紹介 看護過程の復習 病態アセスメント、薬剤アセスメント	シラバスを読み、到達目標、授業方法、成績評価方法を確認する 指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第2回	アセスメントの視点(クラスター1.2)	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第3回	アセスメントの視点(クラスター3～6)	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第4回	援助①入院時の問診、フィジカルアセスメント;行動計画の作成	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第5回	アセスメントの視点(クラスター7～11) 援助②入院時の問診、フィジカルアセスメント;行動計画の作成	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第6回	援助①入院時の問診、フィジカルアセスメント;実施・評価	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第7回	援助②フィジカルアセスメント、セルフケア指導;練習 行動計画の修正	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第8回	援助②フィジカルアセスメント、セルフケア指導;練習 行動計画の修正	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第9回	援助②フィジカルアセスメント、セルフケア指導;行動計画の修正	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第10回	援助②フィジカルアセスメント、セルフケア指導;実施・評価	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第11回	アセスメントの修正	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第12回	全体像・問題リスト・看護計画の作成	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第13回	全体像・問題リスト・看護計画の作成	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第14回	援助③退院指導;行動計画の作成	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第15回	援助③退院指導;行動計画の作成、練習	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第16回	援助③退院指導;行動計画の作成、練習	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第17回	援助③退院指導;実施・評価	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第18回	看護計画の実施・評価	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第19回	理解度確認テスト1 看護過程の解説 周術期 事例紹介	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第20回	周術期の看護過程 援助④術後観察;行動計画の作成	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第21回	術後観察、呼吸・循環を整える看護ケア	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第22回	援助④術後の観察;行動計画の作成 術後観察、呼吸・循環を整える看護ケア技術練習	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第23回	アセスメントの作成	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第24回	全体像・問題リスト・看護計画の作成	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第25回	援助④術後観察;行動計画の作成	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第26回	援助④術後の観察	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第27回	全体像・問題リスト・看護計画の検討	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第28回	援助⑤退院指導;行動計画の作成	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第29回	援助⑤退院指導;実施・評価	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第30回	理解度確認テスト2 周術期 看護過程の解説	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	事例の看護過程と課題の提出物の内容・提出状況、演習・グループワークへの参加態度
その他	0	なし
教科書		
成人看護学の基礎、成人看護学の展開Ⅰ・Ⅱ、看護病態治療学Ⅰ・Ⅲで使用した教科書を用いる		
参考文献		
ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第6版 ノーヴェルヒロカワ NANDA-Ⅰ看護診断定義と分類2021-2023 原書第12版 医学書院 病気がみえる vol.3糖尿病・代謝・内分泌 第6版 メディックメディア 病気がみえる vol.1消化器 第6版 メディックメディア		
履修条件・留意事項等		
本科目の単位修得が無ければ、成人看護学実習の履修は不可 課題記録物の遅延・未提出は減点する		
備考欄		
(備考欄)		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 成人看護学					
科目名		成人看護学の展開Ⅲ(2組)				ナンバリング	3520
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介						

授業の位置づけ

成人看護学は成人看護学の基礎、展開Ⅰ～Ⅲ、臨地実習の科目で構成されている。「成人看護学の基礎」では、成人期に特徴的な健康問題と看護を学び、その基礎の学びを基盤として「成人看護学の展開Ⅰ・Ⅱ」では経過別に疾病や治療が対象者に及ぼす影響とそれに応じた看護を学んだ。これらの科目に引き続き、この科目では糖尿病への罹患及び胆石症を発症し手術療法を受ける事例に対する看護過程を展開することにより、既習の知識・技術・態度の統合を図り、「成人看護学実習」「看護研究Ⅱ」に繋がる科目である。「病態・治療学Ⅰ・Ⅲ」「薬理学」「臨床検査学」などの疾病・治療に関する科目と連携する。DP「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

成人期にある人が疾病や治療の影響により、処置のセルフケア行動の獲得や生活の再構築が必要となる場面を設定し、看護過程を展開する。また、急性の健康障害及び救命を目的として診療・看護上の問題を解決する技能および医療機器活用のなかで患者の安全性を考慮した対応を習得する。

到達目標

1. 事例に対して経過別看護の特性に応じた看護過程の展開ができる
2. ケア場面に応じた行動計画を作成し、教員の助言を受けながら模擬患者に適切なケアを行うことができる
3. グループワークで事例の看護過程を討議し、看護ケアの実施・評価を共有できる
4. 学生としての役割・責務を果たし、学習への主体性を有した自律的な行動ができる

授業の方法

看護過程の展開・技術演習の要点については、パワーポイントと配布印刷物を用いて説明する
 指定された事例のケアに必要な技術演習を行い、模擬患者にケアを提供しながら看護過程を展開する
 看護過程の展開とケアの実施は、教員の指導を受けながらグループワークを中心に行う
 グループでの学びと自己学習により、成人期・慢性期看護・周術期看護の特徴に応じた看護過程を各自で展開する

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

総合病院で看護を実践した経験のある教員が臨床に基づいて指導にあたる

課題に対するフィードバックの方法			
課題に対するコメントを返す 課題の解説は授業の中でフィードバックする			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション グループと担当者の発表 事例紹介 看護過程の復習 病態アセスメント、薬剤アセスメント	シラバスを読み、到達目標、授業方法、成績評価方法を確認する 指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第2回	アセスメントの視点(クラスター1.2)	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第3回	アセスメントの視点(クラスター3～6)	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第4回	援助①入院時の問診、フィジカルアセスメント;行動計画の作成	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第5回	アセスメントの視点(クラスター7～11) 援助②入院時の問診、フィジカルアセスメント;行動計画の作成	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第6回	援助①入院時の問診、フィジカルアセスメント;実施・評価	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第7回	援助②フィジカルアセスメント、セルフケア指導;練習 行動計画の修正	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第8回	援助②フィジカルアセスメント、セルフケア指導;練習 行動計画の修正	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第9回	援助②フィジカルアセスメント、セルフケア指導;行動計画の修正	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第10回	援助②フィジカルアセスメント、セルフケア指導;実施・評価	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第11回	アセスメントの修正	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第12回	全体像・問題リスト・看護計画の作成	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第13回	全体像・問題リスト・看護計画の作成	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第14回	援助③退院指導;行動計画の作成	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第15回	援助③退院指導;行動計画の作成、練習	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第16回	援助③退院指導;行動計画の作成、練習	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第17回	援助③退院指導;実施・評価	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第18回	看護計画の実施・評価	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第19回	理解度確認テスト1 看護過程の解説 周術期 事例紹介	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第20回	周術期の看護過程 援助④術後観察;行動計画の作成	指示された課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第21回	術後観察、呼吸・循環を整える看護ケア	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第22回	援助④術後の観察;行動計画の作成 術後観察、呼吸・循環を整える看護ケア技術練習	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第23回	アセスメントの作成	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第24回	全体像・問題リスト・看護計画の作成	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第25回	援助④術後観察;行動計画の作成	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第26回	援助④術後の観察	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第27回	全体像・問題リスト・看護計画の検討	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第28回	援助⑤退院指導;行動計画の作成	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第29回	援助⑤退院指導;実施・評価	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第30回	理解度確認テスト2 周術期 看護過程の解説	指示された課題を行う (90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	事例の看護過程と課題の提出物の内容・提出状況、演習・グループワークへの参加態度
その他	0	なし
教科書		
成人看護学の基礎、成人看護学の展開Ⅰ・Ⅱ、看護病態治療学Ⅰ・Ⅲで使用した教科書を用いる		
参考文献		
ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第6版 ノーヴェルヒロカワ NANDA-Ⅰ看護診断定義と分類2021-2023 原書第12版 医学書院 病気がみえる vol.3糖尿病・代謝・内分泌 第6版 メディックメディア 病気がみえる vol.1消化器 第6版 メディックメディア		
履修条件・留意事項等		
本科目の単位修得が無ければ、成人看護学実習の履修は不可 課題記録物の遅延・未提出は減点する		
備考欄		
(備考欄)		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 老年看護学					
科目名		老年看護学の基礎<<2022カリ>>				ナンバリング	3530
配当年次	2年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	高岡 哲子						

授業の位置づけ

本科目は、老年看護学に位置づけられ、ディプロマポリシーの「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身に着けている」と「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームの在り方と看護師の役割をできている」につながるため、老年看護学を学ぶ上で必要な基礎的知識を修得する。本科目は「高齢者の特徴と老年者を取り巻く環境」と「老年看護学における哲学的基盤」によって構成される。「生涯発達論」と「保健医療福祉行政論」での学習を参考にし、本科目を学び、これに積み重ねる形で「老年看護学の展開Ⅰ・Ⅱ」によって具体的な支援を学び、「老年看護学実習」につなげる。

授業の概要

本科目は、老年看護や老年期を生きる高齢者を理解し、生活を整えるための援助を実践するために必要な基礎知識を修得する。学習内容は、老年期の成り立ちと高齢者の特徴、そして地域包括ケアシステムや高齢者のニーズを叶えるための多職種連携実践を含めた高齢者を取り巻く環境、さらに高齢者のQOLや持てる力と、生活を整えるための援助を考えられるようにディスカッションを用いて修得する。

到達目標

- ・高齢者の特徴と高齢者を取り巻く環境が説明できる。
 - ・老年看護学における哲学的基盤が説明できる。
- *各講義の目標は、学習内容中に示す。

授業の方法

授業の方法は、講義形式と学生同士のディスカッションを活用して行う。教材は、教科書と担当教員が作成した資料である。本科目は、理解度を確認するための小テスト7回と確認テスト1回、個人課題2回の提出によって評価する。

ICT活用

Google classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

総合的な病院において看護師として約7年間勤務した経験の中で、高齢者を対象にケアを行った経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
・提出された小テストと確認テスト、課題レポートの解説を、集団に対して行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス(講義・GW) 内容: 老年看護学における老年看護学の基礎の位置づけとシラバスの説明 行動目標: ガイダンス内容を理解し、自らが学習すべき内容と学習課題が説明できる。 GW: どのような看護師になりたいのか、そのために必要なことは何か	シラバスを熟読する。生涯発達論の老年期を復習してノートにまとめる(90分)。	学習すべき内容と現時点での自らの看護観をまとめる(90分)。
担当教員			
第2回	老いるということ、老いを生きるということ(講義・GW) 内容: 「老いる」こと、高齢者の定義、発達と成熟 行動目標: 加齢と老化・加齢に伴う身体的、心理的、社会的側面の変化、発達課題などにおける高齢者の特徴が説明できる。 GW: 教科書①p9表1-2高齢者の疾患の特徴の具体例を考える。 ①小テスト	教科書①第1章を熟読する(90分)。	高齢者の特徴をまとめる(90分)。
担当教員			
第3回	超高齢社会と社会保障(講義・GW) 内容: 統計的輪郭からみた高齢者の特徴、高齢社会における保健医療福祉の動向 行動目標: 統計的な高齢者の特徴と介護保険制度の仕組みが説明できる。 GW: 教科書①p29表2-1高齢者の自覚症状の特徴を考える。 ②小テスト	教科書①第2章p24～53を熟読する(90分)。	介護保険申請のプロセスをまとめる(90分)。
担当教員			
第4回	超高齢社会と社会保障(講義・GW) 内容: 高齢者の権利擁護 行動目標: 高齢者の権利擁護が説明できる。 GW: p57表2-12高齢者への虐待の特徴を考える。 ③小テスト	教科書①第2章p54～69を熟読する(90分)。	高齢者虐待と権利擁護の概要をまとめる(90分)。
担当教員			
第5回	老年看護のなりたち I (講義・GW) 内容: 老年看護学教育の発展と老年看護の定義と役割 行動目標: 老年看護学の定義と役割が説明できる。 GW: 老年看護の特徴を考える。 ④小テスト	教科書①第3章p70～78を熟読する(90分)。	老年看護の定義と役割をまとめる(90分)。
担当教員			

北海道文教大学 人間科学部 看護学科

第6回	<p>老年看護のなりたちⅡ(講義・GW) 内容:老年看護における理論・概念、責務 行動目標:老年看護における理論・概念、責務が説明できる。 GW:教科書①p82表3-3高齢者のための国連原則の特徴を考える。 ⑤小テスト</p>	教科書①第3章p78～83を熟読する(90分)。	老年看護における理論・概念と責務をまとめる(90分)。
担当教員			
第7回	<p>生活・療養の場における看護(講義・GW) 内容:高齢者とヘルスプロモーション・保健医療福祉施設および居住施設における看護、治療介護を必要とする高齢者を含む家族の看護 行動目標:グループホームの特徴が説明できる。 GW:グループホームの特徴から高齢者にとってのメリット、デメリットを考える。 ⑥小テスト</p>	教科書①第9章を熟読する(90分)。	地域密着型サービスをまとめる(90分)。
担当教員			
第8回	<p>高齢者のリスクマネジメント(講義・GW) 内容:高齢者と医療安全、救命救急と災害 行動目標:高齢者特有のリスク要因や救急、災害時の看護師の役割が説明できる。 GW:高齢者が災害に見舞われた際、食事で配慮すべきことを考える。 ⑦小テスト</p>	教科書①第10章を熟読する(90分)。	災害フェーズと高齢者支援のポイントをまとめる(90分)。
担当教員			
第9回	<p>確認テストと前半講義のまとめ(講義) 行動目標:前半講義の理解度の確認ができる。</p>	2回から8回の学習内容をまとめる(90分)。	理解が不足している学習内容をノートにまとめる(90分)。
担当教員			
第10回	<p>ICF(講義・GW) 内容:ICFモデルの目的、実践の意義 行動目標:ICFの概要が説明できる。 GW:ICFモデルの特徴を考える。</p>	教科書②を熟読する(90分)。	課題①:配布された事例を熟読してICF整理シートを作成する(90分)。
担当教員			

第11回	ICF(GW) GW:事前課題を基にICF整理シートを作成する。 行動目標:ICF整理シートを完成することができる。 課題①:事前学習を講義開始時に提出する。GWで完成させたICF整理シートを提出する。	課題①:配布された事例を熟読してICF整理シートを作成する(90分)。	教科書③を熟読する(90分)。
担当教員			
第12回	生活行動モデル(講義・GW) 内容:生活行動モデルの概要 行動目標:生活行動モデルの特徴を説明できる。 GW:生活行動モデルの特徴を考える。	教科書③ iv～xiを熟読する(90分)。	課題②教科書③p iv～vを800字以内でまとめる(90分)。
担当教員			
第13回	生活行動モデル(GW) GW:高齢者のもてる力を具体的に考える。 行動目標:高齢者の持てる力を具体的に説明することができる。 課題②提出	課題②教科書③p iv～vを800字以内でまとめる(90分)。	高齢者のもてる力を再確認する(90分)。
担当教員			
第14回	思考過程(講義・GW) 内容:高齢者を支援する際の思考過程の特徴と実際 行動目標:高齢者を支援する際の臨床判断の特徴が説明できる。 GW:事前学習を基に、資料を完成させる。	事前配布資料を実施する(90分)。	事後学習資料を実施する(90分)。
担当教員			
第15回	全講義のふり返り 内容:講義で学習したすべての内容を振り返る。 行動目標:本講義の学習の振り返りができる。	本講義のプリントやノートを見直して整理する(90分)。	今までの学習成果をいつでも見返せるように整理する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト:7回×5点=35点 確認テスト:1回×25点=25点 課題①:20点 課題②:20点
その他	0	
教科書		
① 北川公子ほか/系統看護学講座老年看護学/医学書院 ② 上田敏ほか/ICFの理解と活用 /きょうされん ③ 山田律子ほか/生活機能から見た老年看護過程+病態・生活機能関連図/医学書院		
参考文献		
必要時講義中に提示する。		
履修条件・留意事項等		
私語、必要時以外の携帯の使用を禁止する。 学習は主体的に行う。 提出物と小テストは定期試験と同等に扱う。 欠席した場合は、必ず欠席届を提出する。 遅刻早退する、もしくはした場合は、必ず、教員へ申し出る。		
備考欄		
(Blank space for additional notes)		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 看護学科						
区分	専門科目 老年看護学						
科目名	老年看護学の展開 I ≪2022カリ≫					ナンバリング	3534
配当年次	2年	開講学期	2024年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	初見 温子						
授業の位置づけ							
<p>本科目は、看護学科のディプロマポリシー「社会の一員としての責任を有し、専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力を身につけている」「看護の対象となる人々とコミュニケーション能力を活用して円滑な関係を構築し、対象理解を深める能力を身につけている」を達成するための老年看護領域に所属する科目である。「看護過程論」や「老年看護学の基礎」で学んだ看護的思考と高齢者理解を基に、「看護ヘルスアセスメント」「日常生活援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「看護病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の知識を活用し、「老年看護学の展開Ⅱ」「老年看護学実習」で学習する対象理解や目標志向型看護過程の展開に必要な知識を修得する。</p>							
授業の概要							
<p>本科目は、老年期に特徴的な疾患や症状を理解し、看護過程を展開するための理論を修得する。学習内容は、症状や機能障害に対する援助、健康逸脱からの回復と終末期を支える援助を理論にもとづき看護過程を展開できるように学習する。高齢者のQOLやもてる力に着目した看護活動を実践することが重要であること、高齢化に伴い増加傾向にある認知症理解と高齢者の安全を守るために必要な転倒予防を意識しながら学習する。</p>							
到達目標							
<p>高齢者に特徴的な加齢に伴う症状や病気を述べることができ、生活を営むために必要な支援を説明できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の生活機能からみた生活の特徴と、生活を営むための支援を説明できる。 2. 高齢者に特徴的にみられる身体症状や機能障害と、それらに対する支援を説明できる。 3. 高齢者が罹患しやすい病気と、その病気に対する支援を説明できる。 							
授業の方法							
<p>講義形式と学生同士のグループワーク、発表を活用して授業を行う。 教材は、教科書と担当教員が作成した資料である。 理解度を確認するための確認テストを2回、思考を確認するための課題レポート提出を2回実施する。</p>							
ICT活用							
<p>授業の出席管理、授業中の発問への回答にGoogle Formsを活用する。 課題の提出にGoogle Classroomを活用する。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							
<p>担当教員は心臓血管外科・循環器内科病棟で5年、訪問看護ステーションで5年、看護師としての実務経験を有する。高齢者割合が多い臨地で、医療的側面の強い看護と生活的側面の強い看護、両方の経験を有することを活かし、疾患を抱える高齢者の心身の状態変化の観察や、疾患を抱えながら生活していくための支援について、実際に経験した事例を語ることで学生のイメージ化を助けながら教授する。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
確認テストの解答について解説を行う。 課題は必要時コメントを記載し返却する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス(講義) 内容: 老年看護学における老年看護学Ⅰの位置づけとシラバスの確認。老年看護学の基礎で学習した内容を振り返り、本授業とつなげる。 行動目標: 老年看護学概論で学んだ内容と本授業とのつながりが説明できる。本授業で自らが学習すべき内容と学習課題が説明できる。	シラバスを熟読する(30分)。 「老年看護学の基礎」の内容を復習する(60分)。	本日の講義の学びをまとめ行動目標の達成度を自己評価する(90分)。
担当教員			
第2回	高齢者の生活を整える看護1【睡眠・休息】(講義・GW) 内容: 高齢者の睡眠・休息の特徴と情報収集の視点、睡眠障害の特徴と必要な支援 行動目標: 高齢者の睡眠・休息に関連した特徴と、必要な支援について説明できる。 高齢者の生活を整える看護2【覚醒・活動】(講義) 内容: 高齢者の覚醒・活動の特徴と情報収集の視点、活動に影響する機能障害の特徴と必要な支援(転倒予防の視点) 行動目標: 高齢者の覚醒・活動の特徴と必要な支援を説明できる。転倒予防の支援について説明できる。	教科書2「睡眠・休息」「睡眠障害」「覚醒・活動」「転倒」を熟読し、疑問点を明らかにする(90分)。	本日の講義の学びをまとめ疑問点が解決できたか確認する。また、行動目標の達成度を自己評価する(90分)。
担当教員			
第3回	高齢者の生活を整える看護3【食事】(講義・GW) 内容: 高齢者の食事の特徴と情報収集の視点、摂食嚥下障害や低栄養、脱水の特徴と必要な支援 行動目標: 高齢者の食事に関連した特徴と、必要な支援を説明できる。	教科書2「食事」「摂食・嚥下障害」「低栄養」「脱水」を熟読し、疑問点を明らかにする(90分)。	本日の講義の学びをまとめ疑問点が解決できたか確認する。また、行動目標の達成度を自己評価する(90分)。
担当教員			
第4回	高齢者の生活を整える看護4【排泄】(講義・GW) 内容: 高齢者の排泄の特徴と情報収集の視点、排泄障害の特徴と必要な支援 行動目標: 高齢者の排泄に関連した特徴と、必要な支援を説明できる。	教科書2「排泄」「排泄機能障害」を熟読し、疑問点を明らかにする(90分)。	本日の講義の学びをまとめ疑問点が解決できたか確認する。また、行動目標の達成度を自己評価する(90分)。
担当教員			
第5回	高齢者の生活を整える看護5【身じたく】(講義・GW) 内容: 高齢者の身じたくの特徴と情報収集の視点、皮膚掻痒症や褥瘡への支援を含む必要な支援 行動目標: 高齢者の身じたくに関連した特徴と、必要な支援を説明できる。	教科書2「身じたく」「老人性皮膚掻痒症」「褥瘡」を熟読し、疑問点を明らかにする(90分)。	本日の講義の学びをまとめ疑問点が解決できたか確認する。また、行動目標の達成度を自己評価する(90分)。
担当教員			

第6回	<p>高齢者の生活を整える看護6【コミュニケーション】(講義・GW) 内容:高齢者のコミュニケーションの特徴と情報収集の視点、感覚機能障害と言語障害の特徴と必要な支援 行動目標:高齢者のコミュニケーションに関連した特徴と、必要な支援について説明できる。 確認テスト①</p>	<p>教科書2「コミュニケーション」を熟読し、疑問点を明らかにする(90分)。</p>	<p>本日の講義の学びをまとめ疑問点が解決できたか確認する。また、行動目標の達成度を自己評価する(90分)。</p>
担当教員			
第7回	<p>加齢に伴う症状・機能障害別の看護1【高齢者に多く見られる症状】(講義・GW) 内容:確認テスト①の解説、痛み、しびれ、倦怠感、浮腫の症状の発生機序や特徴、看護 加齢に伴う症状・機能障害の看護2【フレイル(サルコペニア・廃用性症候群)】(講義) 内容:フレイルとは、症状、看護 行動目標:フレイルとサルコペニア、廃用症候群について説明できる。必要な支援について説明できる。</p>	<p>教科書1「倦怠感」教科書2「浮腫」「痛み・しびれ」「フレイル」を熟読し、疑問点を明らかにする(90分)。</p>	<p>本日の講義の学びをまとめ疑問点が解決できたか確認する。また、行動目標の達成度を自己評価する(90分)。</p>
担当教員			
第8回	<p>健康逸脱からの回復1【認知症①】(講義・GW) 内容:認知症の分類(病態・診断・症状・治療)と看護(PCC、ユマニチュード)、せん妄・抑うつの特徴と看護 行動目標:認知症の種類とその特徴、それぞれに対する看護について説明できる。認知症とせん妄、抑うつの違いについて説明できる。</p>	<p>教科書1・2「認知症」を熟読し、疑問点を明らかにする(90分)。</p>	<p>本日の講義の学びをまとめ疑問点が解決できたか確認する。また、行動目標の達成度を自己評価する(90分)。</p>
担当教員			
第9回	<p>健康逸脱からの回復2【認知症②】(GW) 内容:認知症当事者の語り(Dipex Japan)を視聴し、グループワークを実施、発表する。 行動目標:認知症の人の症状の実際と気持ちについて考えることができる。学びを共有し、自らの考えを広げることができる。</p>	<p>第8回の講義内容を復習し、認知症に関する知識を確認する(90分)。</p>	<p>本日の講義の学びをまとめ疑問点が解決できたか確認する。また、行動目標の達成度を自己評価する(90分)。</p>
担当教員			
第10回	<p>健康逸脱からの回復3【認知症③】(講義) 内容:ゲストスピーカーから認知症の方に対する接し方について講義を受ける。(オレンジカード) 行動目標:認知症の人に対してどのように接することが望ましいのか、行動レベルで説明することができる。 課題①「認知症の人の看護」</p>	<p>教科書1・2「認知症」を再度熟読し、支援の方法の疑問点を明らかにする(60分)。</p>	<p>第8回、第9回、第10回の講義、グループワークの内容をふまえて、自身の考える認知症の人の看護についてまとめ、課題①のレポートを作成し提出する(120分)。</p>
担当教員			

第11回	健康逸脱からの回復4【パーキンソン病】【骨折】【誤嚥性肺炎】(講義・GW) 内容:パーキンソン病、骨粗鬆症、骨折、誤嚥性肺炎の病態・症状・治療と看護 行動目標:各疾患の特徴を述べ、看護の方向性を説明できる。	教科書2「パーキンソン病・パーキンソン症候群」「大腿骨近位部骨折」「肺炎(誤嚥性肺炎)」、教科書1「骨折」を熟読し、疑問点を明らかにする(90分)。	本日の講義の学びをまとめ疑問点が解決できたか確認する。また、行動目標の達成度を自己評価する(90分)。
担当教員			
第12回	健康逸脱からの回復5【治療を必要とする高齢者の看護と退院支援】(講義・GW) 内容:高齢者がうけることの多い検査、治療(薬物・手術などの入院治療を含む)を受ける高齢者の特徴と看護、退院調整・地域での生活を継続するための支援 行動目標:高齢者の検査、治療上の特徴を述べ、看護の方向性を説明できる。	教科書1p318-344を熟読し、疑問点を明らかにする(90分)。	本日の講義の学びをまとめ疑問点が解決できたか確認する。また、行動目標の達成度を自己評価する(90分)。
担当教員			
第13回	終末期を支える看護(講義・GW) 内容:エンドオブライフケア、人生の最終段階における意思決定支援や看取り支援 行動目標:エンドオブライフケア、意思決定や看取り支援について説明することができる。自らの死生観について考えることができる。 確認テスト②実施	教科書1「エンドオブライフケア」を熟読し、疑問点を明らかにする(90分)。	本日の講義の学びをまとめ疑問点が解決できたか確認する。また、行動目標の達成度を自己評価する(90分)。
担当教員			
第14回	老年看護学における看護過程の活用(講義・GW) 内容:思考過程のプロセス、老年看護学における看護過程活用の実際 *次回授業で使用する事例の配布、課題②の説明 行動目標:老年看護学における看護過程の活用方法について説明できる。 課題②の内容と求められていることについて理解することができる。	「老年看護学の基礎」の思考過程、生活行動モデルの部分について復習する(90分)。	各自で事例を熟読した上で情報整理を行い、課題②を作成する(90分)。
担当教員			
第15回	生活行動モデルに基づく高齢者理解(GW) 内容:本授業の成果として、事例を基に生活行動モデルに沿った情報整理を実施する。 課題②:事前学習を講義開始時に提出。GWによって得た気づきや視点を追加し、講義後に提出。 行動目標:事前に各自で作成した情報シートを基にグループワークを実施し、高齢者理解の視点を広げることができる。 まとめ(講義) 内容:本授業のまとめ 行動目標:授業全体を通して、修得すべきであった内容と自己の学習課題がわかる。	各自で事例を熟読した上で情報整理を行い、課題②を作成する(90分)。	本講義の資料を見直し、整理する。自己の学習課題をまとめる(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト 25点×2回 課題① 20点 課題② 30点
その他	0	
教科書		
1.北川公子ほか/老年看護学(医学書院) 2.山田律子ほか/生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図(医学書院)		
参考文献		
必要時講義中に提示する。		
履修条件・留意事項等		
授業中の私語の禁止。指定した時以外のスマートフォンの使用禁止。 やむを得ず欠席する場合には、欠席届を提出すること。		
備考欄		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 老年看護学					
科目名		老年看護学の展開Ⅱ				ナンバリング	3535
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	辻 幸美、初見 温子						

授業の位置づけ

本科目は、看護学科のDP「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている。」を達成するための老年看護領域に帰属する科目である。「老年看護学の基礎」と「老年看護学の展開Ⅰ」を基盤として具体的な支援を学び、「老年看護学実習」の履修に向けて、老年看護学を実践する方法論をシミュレーションする。

授業の概要

本科目は、老年看護の対象である高齢者の特徴をふまえ、生活機能からみた適切な看護展開ができるように学習する。学習内容は、事例に基づいた行動計画の立案と実施・評価である。この際、高齢者の健康障害や生活障害の多様性、個人差を的確にアセスメントし、個別的な支援が行えるように学習する。

到達目標

老年看護の対象である高齢者の特徴をふまえ、生活機能からみた適切な看護展開が実践できる。

目標:

1. 老化による身体症状や病気を持ちながらも高齢者自身が望む生活にできるだけ近づけられる行動計画が立案できる。
2. 事例の生活の一場面から支援を判断し、実践できる(シミュレーション)。
3. ケースレポートを作成する方法が説明できる。

授業の方法

講義とカンファレンスや実技実践を含む演習を行う。講義ではパワーポイントと配布印刷物、既習の老年看護学領域のテキスト等を用いてすすめる。カンファレンスではグループディスカッションを行う。理解度を確認するために、課題を3回実施する。

ICT活用

Classroomの活用

実務経験のある教員の教育内容

脳神経外科系病院での22年間の勤務経験を活用して看護過程の展開を教授する。様々な病期にある高齢者を看護してきた経験を活かし、教授する。

課題に対するフィードバックの方法			
提出された課題にはコメントし、返却する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	<p>ガイダンス 学習内容: 1.本科目の位置づけとシラバスを確認する。 2.老年看護学の哲学的基盤と目標志向型思考に基づいていることを学習する。 行動目標: 1.ガイダンス内容を理解し、自らが学習すべき内容で学習課題を明確にする。 2.老年看護学の目標志向型思考を説明できる。 紙上事例配布</p>	<p>老年看護学の基礎、老年看護学の展開 I の講義資料を整理して復習する。(90分)</p>	<p>・シラバスに沿って自身の学習計画を立案する。 ・問題解決型思考と目標志向型思考の違いをまとめる。(90分)</p>
担当教員	辻 幸美		
第2回	<p>高齢者を対象とした看護過程の展開方法 学習内容:老年看護学の哲学的基盤と目標志向型思考に基づいた看護過程の展開方法を学習する。 行動目標:アセスメントから全体像を描き看護の方向性を導き出すまでのプロセスが説明できる。</p>	<p>配布された事例を熟読し、情報を整理する。(90分)</p>	<p>配布された事例の情報の中で、看護に必要な情報を整理する。(90分)</p>
担当教員	辻 幸美		
第3回	<p>紙上事例を用いた看護の方向性を導き出す(カンファレンス) 学習内容:紙上事例に関するカンファレンスにより、事例の対象理解を深める。 テーマ:紙上事例の看護の方向性を導き出すために必要な情報とは 行動目標: ・自身の意見と他者の意見の違いを考察し、支援に必要な情報の取捨選択ができる。 ・看護に必要な情報を説明できる。</p>	<p>配布された事例の情報を整理し、カンファレンスのため自身の意見をまとめる。(90分)</p>	<p>他者の意見を聞き、準備学習で記載したアセスメントとの比較から見直し、修正する。(90分)</p>
担当教員	辻 幸美		
第4回	<p>紙上事例を用いた看護の方向性を導き出す(カンファレンス) 学習内容:紙上事例に関するカンファレンスにより、事例の対象理解を深める。 テーマ:アセスメントの分析・解釈<睡眠・休息と覚醒・活動> 行動目標: ・自身の意見と他者の意見の違いを考察し、支援に必要な情報の取捨選択ができる。 ・紙上事例の活動と休息の説明ができる。</p>	<p>講義内容と自己学習内容を踏まえて睡眠・休息と覚醒・活動について、自分の意見をまとめる。(90分)</p>	<p>他者の意見を聞き、準備学習で記載したアセスメントとの比較から見直し、修正する。(90分)</p>
担当教員	辻 幸美		
第5回	<p>紙上事例を用いた看護の方向性を導き出す(カンファレンス) 学習内容:紙上事例に関するカンファレンスにより、事例の対象理解を深める。 テーマ:アセスメントの分析・解釈<食事> 行動目標: ・自身の意見と他者の意見の違いを考察し、支援に必要な情報の取捨選択ができる。 ・紙上事例の食事と排泄の説明ができる。</p>	<p>講義内容と自己学習内容を踏まえて食事について、自分の意見をまとめる。(90分)</p>	<p>他者の意見を聞き、準備学習で記載したアセスメントとの比較から見直し、修正する。(90分)</p>
担当教員	辻 幸美		

<p>第6回</p>	<p>紙上事例を用いた看護の方向性を導き出す(カンファレンス) 学習内容:紙上事例に関するカンファレンスにより、事例の対象理解を深める。 テーマ:アセスメントの分析・解釈<排泄> 行動目標: ・自身の意見と他者の意見の違いを考察し、支援に必要な情報の取捨選択ができる。 ・紙上事例の食事と排泄の説明ができる。</p>	<p>講義内容と自己学習内容を踏まえて排泄について、自分の意見をまとめる。(90分)</p>	<p>他者の意見を聞き、準備学習で記載したアセスメントとの比較から見直し、修正する。(90分)</p>
<p>担当教員 辻 幸美</p>			
<p>第7回</p>	<p>紙上事例を用いた看護の方向性を導き出す(カンファレンス) 学習内容:紙上事例に関するカンファレンスにより、事例の対象理解を深める。 テーマ:アセスメントの分析・解釈<身じたく> 行動目標: ・自身の意見と他者の意見の違いを考察し、支援に必要な情報の取捨選択ができる。 ・紙上事例の身じたくとコミュニケーションの説明ができる。</p>	<p>講義内容と自己学習内容を踏まえて身じたくについて、自分の意見をまとめる。(90分)</p>	<p>他者の意見を聞き、準備学習で記載したアセスメントとの比較から見直し、修正する。(90分)</p>
<p>担当教員 辻 幸美</p>			
<p>第8回</p>	<p>紙上事例を用いた看護の方向性を導き出す(カンファレンス) 学習内容:紙上事例に関するカンファレンスにより、事例の対象理解を深める。 テーマ:アセスメントの分析・解釈<コミュニケーション> 行動目標: ・自身の意見と他者の意見の違いを考察し、支援に必要な情報の取捨選択ができる。 ・紙上事例の身じたくとコミュニケーションの説明ができる。 課題①は「紙上事例のアセスメント」で次回の講義開始前に提出</p>	<p>講義内容と自己学習内容を踏まえてコミュニケーションについて、自分の意見をまとめる。(90分)</p>	<p>他者の意見を聞き、準備学習で記載したアセスメントとの比較から見直し、修正する。課題①「紙上事例のアセスメント」作成(180分)</p>
<p>担当教員 辻 幸美</p>			
<p>第9回</p>	<p>上事例を用いた看護の方向性を導き出す(カンファレンス) 学習内容:紙上事例に関するカンファレンスにより、事例の対象理解を深める。 テーマ:紙上事例の病態・生活機能関連図(全体像) 行動目標: ・自身の意見と他者の意見の違いを考察し、全体像を描くことができる。 ・全体像を説明できる。 課題①提出(手元に自分の分をコピーしておく)</p>	<p>配布された事例の全体像を記載し、カンファレンスのため自身の意見をまとめる。(90分)</p>	<p>準備学習で記載した全体像を見直し、修正する。(90分)</p>
<p>担当教員 辻 幸美</p>			
<p>第10回</p>	<p>紙上事例を用いた看護の方向性を導き出す(カンファレンス) 学習内容:紙上事例に関するカンファレンスにより、事例の対象理解を深める。 テーマ:紙上事例の行動計画に必要な目標と援助内容とは 行動目標: ・支援に必要な項目の抽出ができ、行動計画を立案できる。</p>	<p>配布された事例の行動計画を記載し、カンファレンスのため自身の意見をまとめる。(90分)</p>	<p>準備学習で記載した看護の方向性と援助内容を見直し、行動計画を修正する。(90分)</p>
<p>担当教員 辻 幸美</p>			

第11回	<p>演習オリエンテーション 学習内容:演習のオリエンテーションを受ける。 行動目標: ・演習の流れが分かり、自身がどのように動いたら良いか説明できる。 課題②は「アセスメントの修正版と全体像」次回の講義修了後に提出</p>	<p>今までの講義のまとめと課題②作成(180分)</p>	<p>演習ができるよう、イメージトレーニングをする。(90分)</p>
担当教員	辻 幸美		
第12回	<p>各グループで行動計画の実施(実技演習:実習室) 学習内容:各自で立案した行動計画を基に場面に合った支援を実施する。 行動目標:患者に合った支援が提供できる。 課題②提出</p>	<p>立案した計画をシミュレーションする。(90分)</p>	<p>演習のイメージトレーニングをする。(90分)</p>
担当教員	辻 幸美、初見 温子		
第13回	<p>各グループで行動計画の実施(実技演習:実習室) 学習内容:各自で立案した行動計画を基に場面に合った支援を実施する。 行動目標:患者に合った支援が提供できる。</p>	<p>立案した計画をシミュレーションする。(90分)</p>	<p>今までの知識を確認する。課題③を行う。(90分)</p>
担当教員	辻 幸美、初見 温子		
第14回	<p>ケースレポート 学習内容:ケースレポートの記載方法を学習する。 行動目標:実施した支援に対する対象の反応をレポートにすることができる。</p>	<p>各自で実施した支援からケールレポートを完成させる。(90分)</p>	<p>今までの知識を確認する。課題③を行う。(90分)</p>
担当教員	辻 幸美		
第15回	<p>本講義のまとめ 学習内容:老年看護学における看護過程の展開方法を確認する。 行動目標:今まで受けた講義の内容を確認し、各自で学習の振り返りができる。 課題③提出</p>	<p>今までの講義のまとめで不明な点を見出す。課題③作成(90分)</p>	<p>今までの講義をまとめ、振り返り実習の準備に活かす。(90分)</p>
担当教員	辻 幸美		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題①40点(アセスメント) 課題②30点(課題①の修正版と全体像) 課題③30点(ケースレポート)
その他	0	なし
教科書		
北川公子ほか/老年看護学(医学書院) 山田律子ほか/生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 第4版(医学書院) 上田敏ほか/ICFの理解と活用(きょうされん)		
参考文献		
講義中に紹介する。		
履修条件・留意事項等		
<ul style="list-style-type: none"> ・講義中は教室内で学習してください。 ・私語・スマホの使用は禁止です。 ・時間厳守 ・不正は認めません。提出物の類似、代筆など疑わしい場合は全て不正とみなします。 		
備考欄		
(Blank space for additional notes)		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 小児看護学					
科目名		小児看護学の基礎<<2022カリ>>				ナンバリング	3550
配当年次	2年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	佐藤 洋子						

授業の位置づけ

本科目は看護学の理論や科学的根拠に基づき、ディプロマポリシー「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている」「社会の一員としての責任を有し、専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力を身につけている」「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解できている」「学習への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている」人材の育成に関係し、小児とその家族の健康的な生活を支援するための基礎的知識を獲得するための科目として位置づけられる。「小児看護の展開Ⅰ」「小児看護の展開Ⅱ」「小児看護学実習」の基礎となる科目である。また、「看護病態治療学Ⅲ」と関連する科目である。

授業の概要

小児の健康状態やその変化に応じた看護に必要な知識を習得するために、小児を取り巻く家族や社会の現状を理解しながら、発達段階別に形態的、機能的、心理的、社会的な成長と発達を学ぶ。さらに小児の基本的な人権と小児看護倫理から小児の利益にかなう看護とは何か、小児看護の理念と責務について共に考えていく。また、小児の発達に応じた日常生活の世話やQOL、子どもの健康の保持増進、疾病の予防から小児看護の役割・機能を学ぶ。

到達目標

1. 小児の成長・発達の特徴について説明できる。
2. 子どもの権利について説明ができ、権利を擁護する看護援助について説明できる。
3. 母子保健の動向と母子の健康を支える社会資源、制度について説明できる。
4. 発達段階によって生じやすい小児期特有の健康問題の特徴と必要な看護について説明できる。
5. 特別な状況にある小児や家族、社会の特徴を理解し、必要な看護について説明できる。
6. 成人移行期における治療継続や自分らしい生活実現のための看護を説明できる。
7. 小児と家族を対象とした小児看護の役割について説明できる。

授業の方法

授業方法はパワーポイントとハンドアウト、視聴覚教材(DVD)を用いた講義形式とする。理解を深めるため小テストを実施する。第15回では小児看護の役割とこれからの課題についてグループワークを実施し互いの考えを共有する。また、適宜レポートおよび課題を提示する。

ICT活用

Google Classroomを活用して、レポート提出や準備学習・事後学習を行い自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

本講義は小児看護の豊富な実務経験がある教員が授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
小テストを実施した後、解答の解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス シラバスに基づく科目の説明 小児看護の特徴と理念 1. 小児看護の対象 2. 小児看護の目標と役割 3. 子どもの健康	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度) テキスト:第1章 pp.3-8,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること。(90分)
担当教員	佐藤 洋子		
第2回	小児と家族の諸統計 1. わが国の人口構造 2. 出生と家族 3. 子どもの死亡	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度) テキスト:第II章 pp.23-29,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること。(90分)
担当教員	佐藤 洋子		
第3回	子どもと家族を取り巻く社会 1. 子どもの権利・こども基本法 2. 児童福祉法・児童虐待防止法 3. 母子保健法	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度) テキスト:第I章 pp.9-21,他 テキスト:第II章 pp.30-40,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること。(90分)
担当教員	佐藤 洋子		
第4回	小児看護に関する理論 1. アタッチメント理論、2. 認知発達理論 3. 自我発達理論、4. セルフケア理論 等	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度) テキスト:第III章 pp.79-85,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること。(90分)
担当教員	佐藤 洋子		
第5回	小児の成長と発達-1 1. 成長・発達の原則とその影響因子 2. 身体的な成長発達	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度) テキスト:第III章 pp.65-85,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること。(90分)
担当教員	佐藤 洋子		

第6回	小児の成長と発達-2 1. 心理的・社会的な成長発達 2. 成長発達の評価法	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度) テキスト: 第Ⅲ章 pp.79-95,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること。(90分)
担当教員	佐藤 洋子		
第7回	※確認試験1 前半のまとめ 小児の生活習慣の自立とその看護-1 1. 子どもの生活習慣と自立支援	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度) テキスト: 第Ⅲ章 pp.65-143,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること。(90分)
担当教員	佐藤 洋子		
第8回	小児の生活習慣の自立とその看護-2 1. 食行動の自立と支援 2. 排泄行動の自立と支援	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度) テキスト: 第Ⅲ章 pp.65-143,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること。(90分)
担当教員	佐藤 洋子		
第9回	小児の生活習慣の自立とその看護-3 1. 睡眠の発達と支援 2. 清潔行動の発達と支援	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度) テキスト: 第Ⅲ章 pp.65-143,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること。(90分)
担当教員	佐藤 洋子		
第10回	小児の生活習慣の自立とその看護-4 1. 思春期の特性と生活支援	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(60分間程度) テキスト: 第Ⅲ章 pp.144-157,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること。(90分)
担当教員	佐藤 洋子		

第11回	子どものヘルスプロモーション	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度) テキスト:第Ⅱ章 pp.36-63,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること。(90分)
担当教員	佐藤 洋子		
第12回	子どもの特性と事故 1. 子どもの病気への反応 2. 応急措置、救急蘇生法	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度) テキスト:第Ⅳ章 pp.226-280,他 テキスト:第Ⅹ章 pp.481-498,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること。(90分)
担当教員	佐藤 洋子		
第13回	子どもと家族の健康問題に対する在宅での看護(guest speaker) 1. 小児に対する外来看護・在宅看護 2. 障害を有する小児と家族に対する支援	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度) テキスト:第Ⅴ章 pp.195-223, テキストⅡ:第Ⅱ章 pp.15-21,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること。(90分)
担当教員	佐藤 洋子		
第14回	※確認試験2 まとめ	これまでの講義内容について確 認・学習する。	確認試験で理解が不足していた 部分を振り返り、自己学習をす る(90分)講義内容をまとめ、疑問 点は自己学習をすること。(90分)
担当教員	佐藤 洋子		
第15回	小児看護領域の専門性と活動(guest speaker) 1. 小児看護専門看護師の役割	小児看護領域の専門看護師・ 認定看護師に関して、webなど を利用して該当部分を予習する (90分間程度)日本看護協会HP 参照	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること。(90分)
担当教員	佐藤 洋子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義内での確認試験2回(50点×2回)
その他	0	
教科書		
二宮啓子,今野美紀編集/看護学テキストNiCE 小児看護学 I 小児看護学概論・小児看護技術/ 南江堂/2022年		
参考文献		
参考文献等は講義内で提示する。		
履修条件・留意事項等		
講義中は能動的な学修姿勢で臨むこと。 他学生の学びを妨げる行為は慎むこと。 講義中の私語は厳禁。		
備考欄		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 小児看護学					
科目名		小児看護学の展開 I ≪2022カリ≫				ナンバリング	3552
配当年次	2年	開講学期	2024年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	横山 佳世、菅原 美保						

授業の位置づけ

本科目は看護学科のディプロマポリシー「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている」と特に関係がある。また「学修への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につける」ことにも関係する科目である。
「小児看護学の基礎」「看護病態治療学Ⅱ」をふまえ「小児看護学の展開Ⅱ」へつなぐ科目として位置づけられる。

授業の概要

小児と家族に起こりやすい状況と、様々な状況における小児と家族の生活について学び、健康問題・入院が小児と家族に与える影響を理解していく。さらに小児によくみられる症状および急性・慢性的経過をたどる小児と家族の看護について学ぶ。

到達目標

1. 子どもの発達段階の特徴、および小児看護のケア理念について学び、健康問題をもつ子どもと家族に対する看護援助の基本について考察し、説明できる
2. 子どもによくみられる症状の機序を理解した上で、必要な看護援助について説明できる
3. 小児看護における基本的な援助技術の特徴を理解し、演習を通して実践できる

授業の方法

健康問題をもつ子どもと家族に対する看護援助についてははパワーポイントとハンドアウト、視聴覚教材などを用いて説明する。演習は課題と動画教材により基本的な小児看護援助技術を習得する。プレパレーション演習ではシミュレーション学習を通して体験的に学修する

ICT活用

双方型授業(Google formを利用したクイズ、レスポンスカード)
自主学習支援(e-ラーニング「今日の臨床サポート」「ナーシング・スキル」の活用、Google classroomを利用したレポート・課題提出、資料提供、予習課題の提示)

実務経験のある教員の教育内容

NICUや小児病棟、外来で看護師として勤務した経験のある教員が指導を担当する

課題に対するフィードバックの方法			
質問や意見には、講義内で回答する。予習・復習に必要な資料などは適宜Google Classroomにアップロードする			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス(横山) 小児看護の基本的な症状と行動(横山) 1. 子どもによくみられる症状・行動と看護(不機嫌、啼泣、痛み) * 演習(身体計測・抱っこ)のオリエンテーション	教科書(小児看護学Ⅰ)p226-241を予習する(60分程度)	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第2回	小児看護の基本的な援助技術演習 1. 身体計測 2. 抱っこ	小児看護学の基礎の復習(発達評価)を行うこと。 教科書(小児看護学Ⅰ)身体計測p314-328、抱っこ・移動p470-471、ナーシング・スキルで、事前に該当部分を予習する(90分程度)	演習内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること。演習後レポートに取り組むこと(90分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第3回	急性期にある子どもと家族の看護ー1(菅原) 1. 急性期の特徴 2. 子どもと家族の看護 3. 疾患をもった子どもの看護(気管支喘息) 4. 子どもによくみられる症状・行動と看護(発熱、呼吸困難)	教科書(小児看護学Ⅰ)発熱p237-241、呼吸困難p267-272、(小児看護学Ⅱ)気管支喘息のある子どもと家族の看護p258-272、今日の臨床サポートで、事前に該当部分を予習する(60分程度)	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第4回	急性期にある子どもと家族の看護ー2(横山) 1. 急性期の特徴 2. 子どもと家族の看護 3. 疾患をもった子どもの看護(急性胃腸炎) 4. 子どもによくみられる症状・行動と看護(脱水、嘔吐、下痢)	教科書(小児看護学Ⅰ)脱水・嘔吐・下痢p242-259、(小児看護学Ⅱ)急性胃腸炎にかかっている子どもと家族の看護p217-225、今日の臨床サポートで、事前に該当部分を予習する(60分程度)	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第5回	周手術期にある子どもと家族の看護(横山) 1. 周手術期の特徴 2. 子どもと家族の看護 3. 疾患をもった子どもの看護(扁桃肥大)	教科書(小児看護学Ⅱ)手術を受ける子どもと家族の看護p48-55、扁桃肥大のある子どもと家族の看護p349-359、今日の臨床サポートで、事前に該当部分を予習する(60分程度)	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		

第6回	慢性期にある子どもと家族の看護-1(横山) 1. 慢性期の特徴 2. 子どもと家族の看護 3. 疾患をもった子どもの看護(ネフローゼ症候群)	教科書(小児看護学Ⅱ)成人期に移行する慢性疾患をもつ子どもと家族の看護p96-101、ネフローゼ症候群のある子どもと家族の看護p273-282、今日の臨床サポートで、事前に該当部分を予習する(60分程度)	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第7回	慢性期にある子どもと家族の看護-2(横山) 1. 疾患をもった子どもの看護(I型糖尿病) 2. 疾患をもった子どもの看護(ファロー四徴症)	教科書(小児看護学Ⅱ)1型糖尿病のある子どもと家族の看護p426-437、先天性心疾患のある子どもと家族の看護p133-146、今日の臨床サポートで、事前に該当部分を予習する(60分程度)	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第8回	児童虐待・災害を受けた子どもと家族の看護(横山) 1. 子どもの虐待とは 2. 子どもと親に求められるケア 3. 災害時の子どもと家族の看護	教科書(小児看護学Ⅰ)児童虐待・災害を受けた子どもと家族への支援p211-224、(小児看護学Ⅱ)虐待を受けた子どもと家族の看護p339-348で事前に該当部分を予習する(60分程度)	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第9回	発達障害のある子どもと家族の看護(特別講師:外部講師) 1. 発達障害の子どもと家族の体験 2. 発達障害の子どもと家族への医療と看護	教科書(小児看護学Ⅰ)発達障害・心の問題を抱える子どもと家族への支援p201-210、(小児看護学Ⅱ)発達障害のある子どもと家族の看護p393-403で事前に該当部分を予習する(60分程度)	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第10回	検査・処置を受ける子どもの看護-1(菅原) 1. 子どもにとっての検査・処置体験 2. プレパレーション	教科書(小児看護学Ⅰ)プレパレーションp329-340、(小児看護学Ⅱ)検査・処置を受ける子どもと家族の看護p22-21で事前に該当部分を予習する(60分程度)	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		

第11回	検査・処置を受ける子どもの看護-2(菅原) 1. 子どもにとっての検査・処置体験 2. 演習事例紹介 3. グループワーク	教科書(小児看護学Ⅰ)プレパレーションp329-340、(小児看護学Ⅱ)検査・処置を受ける子どもと家族の看護p22-21で事前に該当部分を予習する(60分程度)	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度) グループワークのまとめをGoogle formで提出する
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第12回	検査・処置を受ける子どもの看護【演習】 1. 事例に基づくプレパレーションの計画	教科書、ナーシング・スキルなどで、事前に該当部分を予習する(12回・13回と合わせて120分程度)	演習内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること。演習後レポートに取り組むこと(12回・13回と合わせて90分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第13回	検査・処置を受ける子どもの看護【演習】 1. 事例に基づくプレパレーションの実施と評価	教科書、ナーシング・スキルなどで、事前に該当部分を予習する(12回・13回と合わせて120分程度)	演習内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること。演習後レポートに取り組むこと(12回・13回と合わせて90分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第14回	子どもと家族へのエンド・オブ・ライフケア(横山) 1. 終末期の特徴 2. 子どもと家族の看護	教科書(小児看護学Ⅱ)終末期にある子どもと家族の看護p102-108で事前に該当部分を予習する(60分程度)	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
第15回	確認テストとまとめ 1. 確認テスト 2. 課題の解説	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分程度)	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分程度)
担当教員	菅原 美保、横山 佳世		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>確認テスト3回(55%) 演習課題①、演習課題②(20%) 演習および演習後レポート(25%) 評価対象物に不正行為が認められた場合は単位習得を認めない。また、提出期限後の課題提出は減点となり、期限1週間を過ぎた場合は得点を認めない</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	

教科書

看護学テキストNiCE 小児看護学 I 改訂第4版/今野美紀,二宮啓子/ 南江堂
 看護学テキストNiCE 小児看護学 II 改訂第4版/今野美紀,二宮啓子/ 南江堂
 ナーシング グラフィカ小児看護学(3)小児の疾患と看護第3版/中村友彦他編/メディカ出版
 小児看護技術アドバンス新訂第2版/山元恵子監修/インターメディカ

参考文献

病気がみえる vol.15 小児科/医療情報科学研究所編/ メディックメディア
 他、講義内で提示する

履修条件・留意事項等

講義中は能動的な学修姿勢で臨むこと。他学生の学びを妨げる行為は慎むこと
 講義中の私語は厳禁である
 講義および演習の日程については変則的となるため、必ずGoogle classroomを確認すること

備考欄

<p> </p>

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 小児看護学					
科目名		小児看護学の展開Ⅱ(1組)				ナンバリング	3553
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	横山 佳世、菅原 美保、佐藤 洋子						

授業の位置づけ

本科目は看護学科のディプロマポリシー「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている」「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている」と特に関係する。看護学の理論や科学的根拠に基づき、子どもと家族の健康課題を解決するための柔軟な思考力と判断力を養い、また援助を実践することで、主体的に学修を継続し、自己成長につなげる意欲を養うための科目として位置づけられる。「小児看護学の基礎」「看護病態治療学Ⅱ」「小児看護学の展開Ⅰ」と連続性があり「小児看護学実習」につながる科目である。

授業の概要

小児看護におけるコミュニケーションと診療に伴う援助技術を学ぶと共に、子どもとその家族に関わるために必要な基本的態度を養う。さらに紙上事例を用いて子どもの健康問題・障害によりおこる子どもと家族への看護過程の展開と小児看護技術を発達段階、病時期別に学ぶ。

到達目標

1. 子どもの成長発達段階の特徴を考慮した子どもに特有な小児看護技術の原理・原則と根拠を説明でき、実施できる
2. 事例に対して子どもの成長・発達と健康上の問題を統合し、看護過程の展開ができる
3. 子どもの発達段階や個別性に適した方法で、演習を通して看護援助を実践できる

授業の方法

看護過程の展開・技術演習の要点については、パワーポイントと配布印刷物、DVD教材を用いて説明する。
 フジカルアセスメント演習を通して、発達段階の特徴を考慮した小児看護技術とアセスメント方法について体験的に学ぶ。
 紙上事例に対してグループワークでの学びと自己学習により、小児看護の特徴に応じた看護過程を各自で展開する。
 シミュレーション演習を通して、本学で学修した小児看護についての知識と技術を統合する。
 授業時間内に確認テストを3回行う。

ICT活用

自主学習支援(e-ラーニング「今日の臨床サポート」「ナーシング・スキル」)の活用、Google classroomを利用したレポート・課題提出、資料提供、予習課題の提示)

実務経験のある教員の教育内容

NICUや小児病棟、外来で看護師として勤務した経験のある教員が指導を担当する。

課題に対するフィードバックの方法			
提出課題については、講義の中で解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス(横山) フィジカルアセスメント演習課題提示 事例に基づく看護過程の展開-1 1. 小児看護の看護過程の特徴	小児看護学の展開Ⅰの復習(疾病および健康障害が小児とその家族に及ぼす影響)を行うこと 教科書(小児看護学Ⅰ)病気・障害のある子どもと家族の看護過程p10-13、教科書(小児看護過程)第1～2章p1-37で、事前に該当部分を予習する(90分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分) *フィジカルアセスメント演習課題に取り組む
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第2回	事例に基づく看護過程の展開-2(菅原・横山) 1. 川崎病の事例紹介 DVD視聴 2. 情報の整理	看護病態治療学(川崎病)、小児看護学の展開Ⅰ(川崎病)の復習を行うこと 教科書(小児看護学Ⅱ)川崎病のある子どもと家族の看護p185-194で、教科書(小児看護過程)第1～2章p1-37で、事前に該当部分を予習する(60分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第3回	事例に基づく看護過程の展開-3(横山) 1. 小児の看護過程の特徴(急性期) 2. 川崎病:病態理解	看護病態治療学(川崎病)、小児看護学の展開Ⅰ(川崎病)の復習を行うこと 教科書(小児看護学Ⅱ)川崎病のある子どもと家族の看護p185-194、今日の臨床サポートで、事前に該当部分を予習すること(60分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第4回	事例に基づく看護過程の展開-4(横山) 1. 川崎病:急性期解説 2. 確認テスト①	教科書(小児看護学Ⅱ)川崎病のある子どもと家族の看護p185-194、今日の臨床サポートで、事前に該当部分を予習すること(60分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第5回	小児看護に必要な看護技術-1(横山) 1. 小児のフィジカルアセスメント 2. フィジカルアセスメント演習課題解説 3. 演習オリエンテーション	教科書(小児看護学Ⅰ)小児看護技術のコミュニケーション・健康歴の聴取・全身状態の把握・バイタルサイン・プレパレーションp283-340、ナーシングスキルで、事前に該当部分を予習する(90分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習する。演習課題の回答内容を確認し、修正を行う(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		

北海道文教大学 人間科学部 看護学科

第6回	小児看護に必要な看護技術-2 川崎病のフィジカルアセスメント 1. バイタルサイン測定(体温、心拍、呼吸) 2. 川崎病主症状の観察 【第6回、第7回は同日に2講続けて行う】	第4～5回までの講義・演習内容の復習を行う(90分)	演習内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第7回	小児看護に必要な看護技術-3 【第6回、第7回は同日に2講続けて行う】	第4～5回までの講義・演習内容の復習を行う(90分)	演習内容を復習し、疑問点について自己学習をする。演習後リフレクションシートに学びをまとめる(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第8回	事例に基づく看護過程の展開-5(横山・菅原) 小児看護過程の特徴(回復期) 川崎病:回復期 DVD視聴	看護病態治療学(川崎病)、小児看護学の展開 I (川崎病)の復習を行うこと 教科書(小児看護学Ⅱ)川崎病のある子どもと家族の看護p185-194、今日の臨床サポートで、事前に該当部分を予習すること(60分)	事例のアセスメントの情報整理、アセスメント、看護問題の抽出を行う(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第9回	事例に基づく看護過程の展開-6 1. 第8回で紹介した事例を基に、グループワークを実施し、看護計画や看護問題の焦点化を学習する	事例のアセスメントの情報整理、アセスメント、看護問題の抽出、看護問題の焦点化を行う(90分)	情報整理、アセスメント、看護問題の抽出、看護問題の修正を行う(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第10回	事例に基づく看護過程の展開-7(菅原) 1. 川崎病看護過程解説 2. 看護計画の実施と評価	事例の看護過程を完成させる(90分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする。提出した看護過程課題を修正を行う(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		

北海道文教大学 人間科学部 看護学科

第11回	事例に基づく看護援助の展開-1 (菅原) 1. 演習オリエンテーション、事例紹介 2. 看護計画の立案 3. 確認テスト②	小児看護学の展開 I (プレパレーション演習)の復習を行う。教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする。演習に向けて小児看護技術の復習および自己練習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第12回	事例に基づく看護援助の展開-2 1. グループワーク内容のシミュレーション演習 【第13回、第14回は同日に2講続けて行う】	小児看護学の展開 I、展開 II で使用した講義資料・演習課題・教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分)	演習内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第13回	事例に基づく看護援助の展開-3 1. グループワーク内容のシミュレーション演習 【第13回、第14回は同日に2講続けて行う】	小児看護学の展開 I、展開 II で使用した講義資料・演習課題・教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分)	演習内容を復習し、疑問点について自己学習をする。演習後レポートに取り組む(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第14回	事例に基づく看護援助の展開-4、事例に基づく看護過程の展開-8(菅原) 1. 看護計画の実施と評価の視点	小児看護学の展開 I、展開 II で使用した講義資料・演習課題・教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分)	演習内容を復習し、疑問点について自己学習をする。提出した演習後課題の修正を行う(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第15回	小児看護学の展開 II のまとめ(横山) 2. 確認テスト③ 1. まとめと解説	これまでの講義・演習内容の復習を行う(90分)	確認試験で理解不足を振り返り、自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	フィジカルアセスメント演習課題 10% フィジカルアセスメント演習 5% 看護過程① 5% 看護過程② 15% シミュレーション演習 5%
その他	0	
教科書		
看護学テキストNiCE 小児看護学 I, II 改訂第4版/二宮啓子,今野美紀/南江堂 発達段階を考えたアセスメントにもとづく小児看護過程第2版/基津智子編/医歯薬出版 写真でわかる小児看護技術アドバンス新訂第2版/山元恵子監修/インターメディカ		
参考文献		
発達段階からみた小児看護過程+病態関連図第4版/浅野みどり他/医学書院 他は講義内で提示する		
履修条件・留意事項等		
講義中は他学生の学びを妨げるような行為は慎むこと 評価対象物に不正行為が認められた場合はD判定となる		
備考欄		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 小児看護学					
科目名		小児看護学の展開Ⅱ(2組)				ナンバリング	3553
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	横山 佳世、菅原 美保、佐藤 洋子						

授業の位置づけ

本科目は看護学科のディプロマポリシー「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている」「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている」と特に関係する。看護学の理論や科学的根拠に基づき、子どもと家族の健康課題を解決するための柔軟な思考力と判断力を養い、また援助を実践することで、主体的に学習を継続し、自己成長につなげる意欲を養うための科目として位置づけられる。「小児看護学の基礎」「看護病態治療学Ⅱ」「小児看護学の展開Ⅰ」と連続性があり「小児看護学実習」につながる科目である。

授業の概要

小児看護におけるコミュニケーションと診療に伴う援助技術を学ぶと共に、子どもとその家族に関わるために必要な基本的態度を養う。さらに紙上事例を用いて子どもの健康問題・障害によりおこる子どもと家族への看護過程の展開と小児看護技術を発達段階、病時期別に学ぶ。

到達目標

1. 子どもの成長発達段階の特徴を考慮した子どもに特有な小児看護技術の原理・原則と根拠を説明でき、実施できる
2. 事例に対して子どもの成長・発達と健康上の問題を統合し、看護過程の展開ができる
3. 子どもの発達段階や個別性に適した方法で、演習を通して看護援助を実践できる

授業の方法

看護過程の展開・技術演習の要点については、パワーポイントと配布印刷物、DVD教材を用いて説明する。
 フジカルアセスメント演習を通して、発達段階の特徴を考慮した小児看護技術とアセスメント方法について体験的に学ぶ。
 紙上事例に対してグループワークでの学びと自己学習により、小児看護の特徴に応じた看護過程を各自で展開する。
 シミュレーション演習を通して、本学で学修した小児看護についての知識と技術を統合する。
 授業時間内に確認テストを3回行う。

ICT活用

自主学習支援(e-ラーニング「今日の臨床サポート」「ナーシング・スキル」)の活用、Google classroomを利用したレポート・課題提出、資料提供、予習課題の提示)

実務経験のある教員の教育内容

NICUや小児病棟、外来で看護師として勤務した経験のある教員が指導を担当する。

課題に対するフィードバックの方法			
提出課題については、講義の中で解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス(横山) フィジカルアセスメント演習課題提示 事例に基づく看護過程の展開-1 1. 小児看護の看護過程の特徴	小児看護学の展開 I の復習(疾病および健康障害が小児とその家族に及ぼす影響)を行うこと 教科書(小児看護学 I) 病気・障害のある子どもと家族の看護過程p10-13、教科書(小児看護過程) 第1～2章p1-37で、事前に該当部分を予習する(90分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分) *フィジカルアセスメント演習課題に取り組む
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第2回	事例に基づく看護過程の展開-2(菅原・横山) 1. 川崎病の事例紹介 DVD視聴 2. 情報の整理	看護病態治療学(川崎病)、小児看護学の展開 I (川崎病)の復習を行うこと 教科書(小児看護学 II)川崎病のある子どもと家族の看護p185-194で、教科書(小児看護過程) 第1～2章p1-37で、事前に該当部分を予習する(60分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第3回	事例に基づく看護過程の展開-3(横山) 1. 小児の看護過程の特徴(急性期) 2. 川崎病:病態理解	看護病態治療学(川崎病)、小児看護学の展開 I (川崎病)の復習を行うこと 教科書(小児看護学 II)川崎病のある子どもと家族の看護p185-194、今日の臨床サポートで、事前に該当部分を予習すること(60分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第4回	事例に基づく看護過程の展開-4(横山) 1. 川崎病:急性期解説 2. 確認テスト①	教科書(小児看護学 II)川崎病のある子どもと家族の看護p185-194、今日の臨床サポートで、事前に該当部分を予習すること(60分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第5回	小児看護に必要な看護技術-1(横山) 1. 小児のフィジカルアセスメント 2. フィジカルアセスメント演習課題解説 3. 演習オリエンテーション	教科書(小児看護学 I)小児看護技術のコミュニケーション・健康歴の聴取・全身状態の把握・バイタルサイン・プレパレーションp283-340、ナーシングスキルで、事前に該当部分を予習する(90分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習する。演習課題の回答内容を確認し、修正を行う(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		

北海道文教大学 人間科学部 看護学科

第6回	小児看護に必要な看護技術-2 川崎病のフィジカルアセスメント 1. バイタルサイン測定(体温、心拍、呼吸) 2. 川崎病主症状の観察 【第6回、第7回は同日に2講続けて行う】	第4～5回までの講義・演習内容の復習を行う(90分)	演習内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第7回	小児看護に必要な看護技術-3 【第6回、第7回は同日に2講続けて行う】	第4～5回までの講義・演習内容の復習を行う(90分)	演習内容を復習し、疑問点について自己学習をする。演習後リフレクションシートに学びをまとめる(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第8回	事例に基づく看護過程の展開-5(横山・菅原) 小児看護過程の特徴(回復期) 川崎病:回復期 DVD視聴	看護病態治療学(川崎病)、小児看護学の展開 I (川崎病)の復習を行うこと 教科書(小児看護学Ⅱ)川崎病のある子どもと家族の看護p185-194、今日の臨床サポートで、事前に該当部分を予習すること(60分)	事例のアセスメントの情報整理、アセスメント、看護問題の抽出を行う(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第9回	事例に基づく看護過程の展開-6 1. 第8回で紹介した事例を基に、グループワークを実施し、看護計画や看護問題の焦点化を学習する	事例のアセスメントの情報整理、アセスメント、看護問題の抽出、看護問題の焦点化を行う(90分)	情報整理、アセスメント、看護問題の抽出、看護問題の修正を行う(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第10回	事例に基づく看護過程の展開-7(菅原) 1. 川崎病看護過程解説 2. 看護計画の実施と評価	事例の看護過程を完成させる(90分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする。提出した看護過程課題を修正を行う(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		

北海道文教大学 人間科学部 看護学科

第11回	事例に基づく看護援助の展開-1 (菅原) 1. 演習オリエンテーション、事例紹介 2. 看護計画の立案 3. 確認テスト②	小児看護学の展開 I (プレパレーション演習)の復習を行う。教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする。演習に向けて小児看護技術の復習および自己練習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第12回	事例に基づく看護援助の展開-2 1. グループワーク内容のシミュレーション演習 【第13回、第14回は同日に2講続けて行う】	小児看護学の展開 I、展開 II で使用した講義資料・演習課題・教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分)	演習内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第13回	事例に基づく看護援助の展開-3 1. グループワーク内容のシミュレーション演習 【第13回、第14回は同日に2講続けて行う】	小児看護学の展開 I、展開 II で使用した講義資料・演習課題・教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分)	演習内容を復習し、疑問点について自己学習をする。演習後レポートに取り組む(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第14回	事例に基づく看護援助の展開-4、事例に基づく看護過程の展開-8(菅原) 1. 看護計画の実施と評価の視点	小児看護学の展開 I、展開 II で使用した講義資料・演習課題・教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分)	演習内容を復習し、疑問点について自己学習をする。提出した演習後課題の修正を行う(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第15回	小児看護学の展開 II のまとめ(横山) 2. 確認テスト③ 1. まとめと解説	これまでの講義・演習内容の復習を行う(90分)	確認テストで理解不足を振り返り、自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	フィジカルアセスメント演習課題 10% フィジカルアセスメント演習 5% 看護過程① 5% 看護過程② 15% シミュレーション演習 5%
その他	0	

教科書

看護学テキストNiCE 小児看護学 I, II 改訂第4版/二宮啓子,今野美紀/南江堂
 発達段階を考えたアセスメントにもとづく小児看護過程第2版/基津智子編/医歯薬出版
 写真でわかる小児看護技術アドバンス新訂第2版/山元恵子監修/インターメディカ

参考文献

発達段階からみた小児看護過程+病態関連図第4版/浅野みどり他/医学書院

他は講義内で提示する

履修条件・留意事項等

講義中は他学生の学びを妨げるような行為は慎むこと
 評価対象物に不正行為が認められた場合はD判定となる

備考欄

(備考欄)

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 母性看護学					
科目名		母性看護学の基礎<<2022カリ>>				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小堀 ゆかり						

授業の位置づけ

本学科のDP、「社会の一員としての責任を有し、専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力を身につけている」、「多様なケア環境に適した保健医療チームのあり方と看護師の役割を理解できる」に関連した母性看護学領域の科目である。母性看護学の対象である「女性」を理解し、女性の周産期および各ライフサイクルにおける心身の変化、取り巻く社会・環境について学習する科目であり、「母性看護学の展開Ⅰ」「母性看護学の展開Ⅱ」「母性看護学実習」の基礎となる科目である。

授業の概要

女性のライフサイクル全般を通して母性とは何かを理解し、個、家族、集団の視点から、その特徴を学ぶ。また、女性のライフステージ各期の身体的、心理社会的特徴と健康促進の支援から子孫創造への役割と母子保健統計や政策に関してマクロな視点から学習する。母性看護で活用されている理論や概念を中心に展開する。

到達目標

1. 母性看護の概念、母性看護の意義・役割がわかる。
2. 母性意識の発達過程、母親役割行動の取得過程がわかる。
3. 母性看護の変遷、統計、制度などから、母子保健をマクロ的な視点から捉えることができる。
4. 親子・家族関係の形成過程及び家族の役割についてわかる。
5. 女性のライフサイクル各期における健康状態の特徴と看護について説明できる。

授業の方法

パワーポイントとハンドアウトを用いて講義形式ですすめる。
理解度確認テスト、およびミニレポートを作成してもらう。

ICT活用

課題の提出とフィードバックは、一部Google classroomを活用して行う。

実務経験のある教員の教育内容

助産師としての臨床経験、知識を活かし講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして、レポートのコメントを講義内、若しくはGoogle classroomを活用して返します。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 母性看護学の概念 ・母性とは ・母性看護学とは	教科書の該当箇所目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み 、理解を深めておくこと(90分)
担当教員			
第2回	母性看護学の基盤となる理論と概念 ・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ ・セクシュアリティ ・アタッチメント	教科書の該当箇所目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み 、理解を深めておくこと(90分)
担当教員			
第3回	根拠に基づく母性看護の実践 ・根拠に基づく実践とは ・エビデンスの必要性	教科書の該当箇所目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み 、理解を深めておくこと(90分)
担当教員			
第4回	性を取りまく社会と現状 ・社会的・心理的特性からみた性 ・統計からみる性を取りまく社会の現状	教科書の該当箇所目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み 、理解を深めておくこと(90分)
担当教員			
第5回	母子保健統計の理解 ・日本の人口、出生に関する概観 ・日本の母子保健水準と統計値 ・諸外国における母子保健統計と日本の比較 ・少子化の背景	教科書の該当箇所目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み 、理解を深めておくこと(90分)
担当教員			

第6回	母子にかかわる法律 ・母子にかかわる法律 ・母子保健施策・事業 ・母子保健にかかわる課題と政策	教科書の該当箇所を目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み 、理解を深めておくこと(90分)
担当教員			
第7回	周産期医療体制 ・周産期医療体制の改善が必要となった背景 ・周産期医療体制 ・日本の周産期医療の課題	教科書の該当箇所を目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み 、理解を深めておくこと(90分)
担当教員			
第8回	性と生殖をめぐる倫理的課題 ・性と生殖をめぐる倫理的課題とは ・ARTをめぐる倫理的課題 ・専門職に求められる倫理性	教科書の該当箇所を目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み 、理解を深めておくこと(90分)
担当教員			
第9回	国際化のなかでの母性看護の役割 ・異なる文化的背景をもつ女性への看護 ・母子保健委における国際協力	教科書の該当箇所を目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み 、理解を深めておくこと(90分)
担当教員			
第10回	これまでの講義まとめ ・知識確認テスト	教科書の該当箇所を目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み 、理解を深めておくこと(90分)
担当教員			

第11回	女性のライフサイクルと健康支援 ・女性のライフサイクルの全体像 ・思春期の女性の特徴 ・思春期女性の健康問題と看護 ・レポート課題提示	教科書の該当箇所を目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み、 理解を深めておくこと。講義内 容を振り返り、提示された課題レ ポートを作成すること。(90分)
担当教員			
第12回	女性のライフサイクルと健康支援 ・成熟期女性の特徴 ・成熟期の女性の健康問題と看護	教科書の該当箇所を目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み 、理解を深めておくこと(90分)
担当教員			
第13回	女性のライフサイクルと健康支援 ・更年期の女性の特徴 ・更年期の女性の健康問題と看護	教科書の該当箇所を目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み 、理解を深めておくこと(90分)
担当教員			
第14回	女性のライフサイクルと健康支援 ・老年期の女性の特徴 ・老年期の女性の健康問題	教科書の該当箇所を目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み 、理解を深めておくこと(90分)
担当教員			
第15回	これまでの講義内容まとめ ・知識確認テスト	教科書の該当箇所を目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み 、理解を深めておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	2回の小テスト(90%)、レポート課題(10%)
その他	0	
教科書		
齋藤いずみ 他編集:看護学テキストNICE 母性看護学 I 改訂第3版 南江堂		
参考文献		
講義内で適宜提示する。		
履修条件・留意事項等		
レポート課題、小テストにより総合的に評価する。		
備考欄		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 母性看護学					
科目名		母性看護学の展開 I ≪2022カリ≫				ナンバリング	3574
配当年次	2年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員		多賀 昌江、小堀 ゆかり、福士 晴佳					

授業の位置づけ

本学科のDPである、「社会の一員としての責任を有し、専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力を身につけている。」、「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている。」、「学習への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている。」と関連した母性看護学領域の科目である。

授業の概要

妊娠期・分娩期・産褥期の経過と胎児・新生児期の生理的特性および看護について学ぶ。さらに、妊娠・出産と子育てをとりまく家族の変化と看護について理解する。また、周産期看護と周産期の異常を持つ妊産褥婦のケアについて学習する。

到達目標

1. 妊娠や育児を取り巻く現状について理解し、その看護について説明できる。
2. 妊婦および胎児の生理的变化と適応、および妊婦、家族の心理的变化について説明できる。
3. 妊婦の健康管理、セルフケアへの看護について説明できる。
4. 妊婦の基本的なヘルスアセスメントが実践できる。
5. 妊娠期の異常とその看護について説明できる。
6. 分娩期、産褥期、新生児期にある母子とその家族の看護援助を行うために必要な基本的知識を説明できる。
7. 分娩期、産褥期、新生児期にある母子とその家族の身体的・心理的・社会的特性を述べることができる。
8. 分娩期、産褥期、新生児期に必要な看護の特性と方法を述べることができる。
9. 分娩期、産褥期、新生児期における主な異常とその看護援助の要点を挙げることができる。

授業の方法

パワーポイントとハンドアウトを用いた講義形式ですすめる。
適宜、視聴覚メディア(オンライン資料、DVD、動画教材等)と教育教材などを活用する。
*講義のなかでミニッツペーパー(学びの振り返り、思ったこと、質問等を記述したもの)を適宜使用し、理解度の確認等を行う。

ICT活用

- ・授業の参考動画や資料は、Google Classroomにアップし復習に活用できるようにする。
- ・課題の提出とフィードバックは、Google Classroomの課題提出機能等を活用して行う。

実務経験のある教員の教育内容

科目担当教員は全員助産師である。助産師として、産科や周産期母子医療センター、NICUなどに10年前後勤務した経験があり、臨床現場における周産期ケアと看護の実際について豊富な知識を有している。この臨床経験を活かし、周産期の母子とその家族の看護や子育て支援、周産期のグリーフケアについて具体的に実践的な内容を教授する。

課題に対するフィードバックの方法			
講義内、およびGoogleClassroomにてフィードバックする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス マタニティサイクルとは 【周産期における看護】 ・周産期の特性と看護の対象者および看護の特性について学ぶ。また、周産期看護に携わる職種と連携について理解する。 ・妊婦の身体的・心理的・社会的特性と変化	教科書の該当箇所を読み予習しておくこと(90分)	講義資料と教科書を読み返し理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江、福士 晴佳		
第2回	【妊婦と胎児のヘルスアセスメント】 妊娠の診断方法と分娩予定日の算出方法、妊婦健康診査の必要性和方法について学ぶ。 妊娠各期の妊婦と胎児のヘルスアセスメントの視点と方法について学ぶ。 ・胎児心音聴取 ・胎児心拍モニタリング ・羊水検査 ・母体の感染症	教科書の該当箇所を読み予習しておくこと(90分)	講義資料と教科書を読み返し理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江、福士 晴佳		
第3回	【妊娠に伴う生理的変化とマイナートラブル】 妊娠各期のマイナートラブルの主な症状と特徴、原因・誘因について理解し、援助と保健指導について学ぶ。 ・全身、および生殖器の変化 ・妊婦の日常生活への援助	教科書の該当箇所を読み予習しておくこと(90分)	講義資料と教科書を読み返し理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江、福士 晴佳		
第4回	【妊娠期における親役割獲得過程と援助】 妊婦と家族の看護について学ぶ。親になるための準備教育の内容と方法、および親役割獲得のための家族の援助について学ぶ。 【妊娠期の異常と看護①】 ハイリスク妊娠と看護について学ぶ。妊娠疾患、妊娠期の感染症、妊娠経過の異常、妊娠持続期間の異常、多胎妊娠、胎位の異常、胎児付属物の異常と観察の視点および看護について学ぶ。	教科書の該当箇所を読み予習しておくこと(90分)	講義資料と教科書を読み返し理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江、福士 晴佳		
第5回	【妊娠期の異常と看護②】 ハイリスク妊婦と心理・社会的問題について理解し、近年の妊婦の特性とハイリスク妊婦の看護を学ぶ。高年初産婦、若年妊婦、未受診妊婦、出生前診断を受けた妊婦とその家族の看護について学ぶ。	教科書の該当箇所を読み予習しておくこと(90分)	講義資料と教科書を読み返し理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江、福士 晴佳		

第6回	【分娩期の看護①】 分娩期の経過と看護について学ぶ。 分娩の3要素、分娩室の環境、分娩時の産婦と家族の心理について理解し、分娩各期のアセスメントと援助について学ぶ。 分娩期の胎児心拍数陣痛図の判読について学ぶ。	分娩期の看護に関する教科書の該当箇所を読み予習しておくこと。(90分)	講義資料と教科書を読み返し理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江、福士 晴佳		
第7回	【分娩期の看護②】 分娩期の正常からの逸脱と看護、産科処置と手術の看護について学ぶ。 分娩3要素に関する異常と周産期の異常出血、遷延分娩と看護援助について学ぶ。	分娩期の正常からの逸脱と看護に関する教科書の該当箇所を読み予習しておくこと。(90分)	講義資料と教科書を読み返し理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江、福士 晴佳		
第8回	【知識確認テスト(妊娠期・分娩期)】 【産褥期の看護①】 産褥期の身体的、心理的、社会的変化について学ぶ。また、褥婦の全身状態と生殖器の復古状態のアセスメントと看護について学ぶ。	第1回から第7回までのハンドアウトを読み直し、理解が浅い部分は教科書の関連する項目を読んで理解を深めておくこと。また、産褥期の看護に関する教科書の該当箇所を読み予習しておくこと。(90分)	講義資料と教科書を読み返し理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江、福士 晴佳		
第9回	【産褥期の看護②】 母乳育児に関するアセスメントと看護について学ぶ。また、産褥期の親になっていく過程について学ぶ。	教科書の該当箇所を読み予習しておくこと。(90分)	講義資料と教科書を読み返し理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江、福士 晴佳		
第10回	【産褥期の健康課題と看護】 子宮復古不全、貧血、産褥期の発熱、乳腺炎、産後の精神障害と看護について学ぶ。	教科書の該当箇所を読み予習しておくこと。(90分)	講義資料と教科書を読み返し理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江、福士 晴佳		

第11回	【帝王切開術と看護】 帝王切開術を受ける産婦の看護と手術後の褥婦の看護について学ぶ。	教科書の該当箇所を読み予習しておくこと。(90分)	講義資料と教科書を読み返し理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江、福士 晴佳		
第12回	【新生児期の看護①】 新生児の看護の視点と新生児の機能、生理的特徴とアセスメントの視点について学ぶ。	新生児期の看護に関する教科書の該当箇所を読み予習しておくこと。(90分)	講義資料と教科書を読み返し理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江、福士 晴佳		
第13回	【新生児期の看護②】 新生児の子宮外適応、発達状況のアセスメントと援助について学ぶ。 新生児のヘルスアセスメントの視点と援助、新生児黄疸と看護について学ぶ。	新生児期の看護に関する教科書の該当箇所を読み予習しておくこと。(90分)	講義資料と教科書を読み返し理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江、福士 晴佳		
第14回	【新生児期の看護③】 新生児期の健康問題(新生児仮死、分娩外傷、感染症、呼吸障害など)と看護、ハイリスク新生児と看護について学ぶ。	新生児期の看護に関する教科書の該当箇所を読み予習しておくこと。(90分)	講義資料と教科書を読み返し理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江、福士 晴佳		
第15回	【知識確認テスト(産褥期・新生児期)】 生まれた子どもに先天異常がある家族の援助、子どもを亡くした家族の援助について学ぶ。(多賀)	教科書の該当箇所を読み予習しておくこと。8回から第14回までのハンドアウトを読み直し、理解が浅い部分は教科書の関連する項目を読んで理解を深めておく。(120分)	知識確認テストとこれまでの学習内容について復習すること(90分)。
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江、福士 晴佳		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	2回の小テストにより評価する。
その他	0	
教科書		
大平光子 他編集:看護学テキストNICE 母性看護学Ⅱ 改訂第3版 南江堂		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 看護学科						
区分	専門科目 母性看護学						
科目名	母性看護学の展開Ⅱ(1組)					ナンバリング	3575
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	福士 晴佳、多賀 昌江						

授業の位置づけ

本学科のDP「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている。」「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解できている。」「学習への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている。」と関連した科目である。妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期に必要な看護実践能力を身に付けるため、「母性看護学の基礎」、「母性看護学の展開Ⅰ」を基盤とし、「母性看護学実習」に必要な能力や援助技術を修得する。

授業の概要

母性看護学の展開Ⅰの基本的知識を基に、看護技術演習を通して、周産期にある母児とその家族が安全・安楽に過ごすことができるためのケアに必要な技術、態度を修得する。また、産後の母児をとりまく家族のケアと特性について学習する。母性看護過程の展開の方法について事例を通して学ぶ。

到達目標

1. 妊婦と胎児の健康状態を判断し、必要な看護を述べることができる。
2. 産婦が安全・安楽に過ごすための看護を述べるができる。
3. 褥婦と新生児の健康状態を判断し、生理的特徴とその変化をふまえた看護を実践することができる。
4. 看護過程を展開し、周産期における母子の経時的な変化のアセスメントおよび看護計画の立案ができる。

授業の方法

1. 講義では、パワーポイントとハンドアウトを用いて説明する。
2. 演習では、事前学習を行った上で看護技術を実践する。
3. 演習後は理解度を確認するために事後課題を課す。
4. グループワークを行う。

ICT活用

課題の提出とフィードバックは、一部Google classroomを活用して行う。

実務経験のある教員の教育内容

科目担当教員は全員助産師である。助産師として、産科や周産期母子医療センター、NICUなどに10年前後勤務した経験があり、臨床現場での具体的なケアと看護の実際について豊富な知識を有している。この臨床経験を活かして、母性看護技術と看護過程の演習を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
母性看護学技術演習時に実施した看護技術を振り返り、課題の明確化を図る。また、看護過程課題のフィードバックとして、コメントを返す。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	コースオリエンテーション ウェルネス看護過程に基づいた看護過程 ウェルネス看護診断に基づいた看護過程の展開方法を学習する。 妊娠期・分娩期の看護過程 妊娠期・分娩期のアセスメントの方法と看護診断に必要な視点を学習する。	根拠がわかる母性看護過程p.2-21、p.24-41、p.89-100を読んでおくこと。 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル p.33-104、p.153-189を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第2回	産褥期の看護過程① 産褥期のアセスメントの方法と看護診断に必要な視点を学習する。	根拠がわかる母性看護過程 p.113-135を読んでおくこと。 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル p.261-317を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第3回	産褥期の看護過程② 産褥期における看護診断と看護計画の立案について学習する。	根拠がわかる母性看護過程 p.138-153を読んでおくこと。 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル p.261-288を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第4回	退院時の看護と子育てにかかわる看護 産後の母子の退院に向けた看護と退院時の看護、子育て支援と課題について学習する。	母性看護学Ⅱ マタニティサイクル p.289-317をよく読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第5回	新生児期の看護過程① 新生児期の子宮外生活適応に関するアセスメントの方法を学習する。	根拠がわかる母性看護過程 p.195-217を読んでおくこと。 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル p.370-412を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		

第6回	<p>新生児期の看護過程② 新生児期の発達状況に関するアセスメントの方法を学習する。</p>	<p>根拠がわかる母性看護過程 p.195-217を読んでおくこと。 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル p.413-419を読んでおくこと。 (90分)</p>	<p>講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)</p>
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第7回	<p>妊娠期・分娩期の看護技術演習 妊婦の身体的側面と胎児の健康状態を査定するために必要な看護技術を学習する。産婦が安楽に過ごすために必要な看護技術を学習する。</p>	<p>母性・小児看護ぜんぶガイド p.71-77をよく読んでおくこと。 看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)</p>	<p>技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)</p>
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第8回	<p>産後の母児の看護技術① 褥婦の健康状態を判断し、出産後の全身の回復や子宮復古および乳汁分泌促進に関する看護ケアについて学習する。</p>	<p>母性・小児看護ぜんぶガイド p.78-89をよく読んでおくこと。 (90分)</p>	<p>講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)</p>
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第9回	<p>産褥期の看護技術演習① 産褥期の身体的変化を査定するために、退行性変化の観察方法を学習する。また、育児技術について学習する。</p>	<p>看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)</p>	<p>技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)</p>
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第10回	<p>産褥期の看護技術② 産褥期の身体的変化を査定するために、進行性変化の観察方法を学習する。また、授乳方法について学習する。</p>	<p>看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)</p>	<p>技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)</p>
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		

第11回	新生児期の看護技術演習① 新生児の身体的変化を査定するために、バイタルサインズの測定および黄疸測定の方法を学習する。	母性・小児看護ぜんぶガイド p.81-83をよく読んでおくこと。 看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)	技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第12回	新生児期の看護技術演習② 新生児の身体的変化を査定するために、全身観察の方法を学習する。	母性・小児看護ぜんぶガイド p.81-83をよく読んでおくこと。 看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)	技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第13回	産後の母児の看護技術② 母性看護学実習をシミュレーションし、行動計画の立案方法と母児を関連させた観察事項の報告方法について学習する。	事前課題を完成させておくこと。(90分)	演習で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第14回	看護過程フィードバック 看護過程のフィードバックを行い、自己課題を明らかにする。	講義で使用した教科書や資料を見直すこと。(90分)	フィードバックをもとに返却された看護過程課題を修正すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第15回	確認テスト 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護技術とアセスメントに関する確認テストを実施する。	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護技術とアセスメントに関して復習すること。(90分)	これまでの学習内容について復習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	看護過程課題 50% 事前課題・事後課題 20% 確認テスト 30%
その他	0	

教科書

- 1)根拠がわかる母性看護過程—事例で学ぶウェルネス志向型ケア計画— 中村幸代 南江堂
- 2)母性・小児看護ぜんぶガイド 第2版 古川亮子編 照林社
- 3)母性看護学Ⅱ マタニティサイクル 大平光子編 南江堂

参考文献

- 1)Nursing Skills ELSEVIER
- 2)母性看護 第2版(パーフェクト臨床実習ガイド) 堀内成子 照林社

履修条件・留意事項等

評価対象の課題に関して、不正行為が認められた場合はD判定になることがある。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 看護学科						
区分	専門科目 母性看護学						
科目名	母性看護学の展開Ⅱ(2組)					ナンバリング	3575
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	福士 晴佳、多賀 昌江						

授業の位置づけ

本学科のDP「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている。」「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解できている。」「学習への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている。」と関連した科目である。妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期に必要な看護実践能力を身に付けるため、「母性看護学の基礎」、「母性看護学の展開Ⅰ」を基盤とし、「母性看護学実習」に必要な能力や援助技術を修得する。

授業の概要

母性看護学の展開Ⅰの基本的知識を基に、看護技術演習を通して、周産期にある母児とその家族が安全・安楽に過ごすことができるためのケアに必要な技術、態度を修得する。また、産後の母児をとりまく家族のケアと特性について学習する。母性看護過程の展開の方法について事例を通して学ぶ。

到達目標

1. 妊婦と胎児の健康状態を判断し、必要な看護を述べることができる。
2. 産婦が安全・安楽に過ごすための看護を述べるができる。
3. 褥婦と新生児の健康状態を判断し、生理的特徴とその変化をふまえた看護を実践することができる。
4. 看護過程を展開し、周産期における母子の経時的な変化のアセスメントおよび看護計画の立案ができる。

授業の方法

1. 講義では、パワーポイントとハンドアウトを用いて説明する。
2. 演習では、事前学習を行った上で看護技術を実践する。
3. 演習後は理解度を確認するために事後課題を課す。
4. グループワークを行う。

ICT活用

課題の提出とフィードバックは、一部Google classroomを活用して行う。

実務経験のある教員の教育内容

科目担当教員は全員助産師である。助産師として、産科や周産期母子医療センター、NICUなどに10年前後勤務した経験があり、臨床現場での具体的なケアと看護の実際について豊富な知識を有している。この臨床経験を活かして、母性看護技術と看護過程の演習を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
母性看護学技術演習時に実施した看護技術を振り返り、課題の明確化を図る。また、看護過程課題のフィードバックとして、コメントを返す。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	コースオリエンテーション ウェルネス看護過程に基づいた看護過程 ウェルネス看護診断に基づいた看護過程の展開方法を学習する。 妊娠期・分娩期の看護過程 妊娠期・分娩期のアセスメントの方法と看護診断に必要な視点を学習する。	根拠がわかる母性看護過程 p.2-21、p.24-41、p.89-100を読んでおくこと。 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル p.33-104、p.153-189を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第2回	産褥期の看護過程① 産褥期のアセスメントの方法と看護診断に必要な視点を学習する。	根拠がわかる母性看護過程 p.113-135を読んでおくこと。 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル p.261-317を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第3回	産褥期の看護過程② 産褥期における看護診断と看護計画の立案について学習する。	根拠がわかる母性看護過程 p.138-153を読んでおくこと。 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル p.261-288を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第4回	退院時の看護と子育てにかかわる看護 産後の母子の退院に向けた看護と退院時の看護、子育て支援と課題について学習する。	母性看護学Ⅱ マタニティサイクル p.289-317をよく読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第5回	新生児期の看護過程① 新生児期の子宮外生活適応に関するアセスメントの方法を学習する。	根拠がわかる母性看護過程 p.195-217を読んでおくこと。 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル p.370-412を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		

第6回	<p>新生児期の看護過程② 新生児期の発達状況に関するアセスメントの方法を学習する。</p>	<p>根拠がわかる母性看護過程 p.195-217を読んでおくこと。 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル p.413-419を読んでおくこと。 (90分)</p>	<p>講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)</p>
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第7回	<p>妊娠期・分娩期の看護技術演習 妊婦の身体的側面と胎児の健康状態を査定するために必要な看護技術を学習する。産婦が安楽に過ごすために必要な看護技術を学習する。</p>	<p>母性・小児看護ぜんぶガイド p.71-77をよく読んでおくこと。 看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)</p>	<p>技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)</p>
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第8回	<p>産後の母児の看護技術① 褥婦の健康状態を判断し、出産後の全身の回復や子宮復古および乳汁分泌促進に関する看護ケアについて学習する。</p>	<p>母性・小児看護ぜんぶガイド p.78-89をよく読んでおくこと。 (90分)</p>	<p>講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)</p>
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第9回	<p>産褥期の看護技術演習① 産褥期の身体的変化を査定するために、退行性変化の観察方法を学習する。また、育児技術について学習する。</p>	<p>看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)</p>	<p>技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)</p>
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第10回	<p>産褥期の看護技術② 産褥期の身体的変化を査定するために、進行性変化の観察方法を学習する。また、授乳方法について学習する。</p>	<p>看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)</p>	<p>技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)</p>
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		

第11回	新生児期の看護技術演習① 新生児の身体的変化を査定するために、バイタルサインズの測定および黄疸測定の方法を学習する。	母性・小児看護ぜんぶガイド p.81-83をよく読んでおくこと。 看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)	技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第12回	新生児期の看護技術演習② 新生児の身体的変化を査定するために、全身観察の方法を学習する。	母性・小児看護ぜんぶガイド p.81-83をよく読んでおくこと。 看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)	技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第13回	産後の母児の看護技術② 母性看護学実習をシミュレーションし、行動計画の立案方法と母児を関連させた観察事項の報告方法について学習する。	事前課題を完成させておくこと。(90分)	演習で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第14回	看護過程フィードバック 看護過程のフィードバックを行い、自己課題を明らかにする。	講義で使用した教科書や資料を見直すこと。(90分)	フィードバックをもとに返却された看護過程課題を修正すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第15回	確認テスト 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護技術とアセスメントに関する確認テストを実施する。	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護技術とアセスメントに関して復習すること。(90分)	これまでの学習内容について復習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	看護過程課題 50% 事前課題・事後課題 20% 確認テスト 30%
その他	0	

教科書

- 1) 根拠がわかる母性看護過程—事例で学ぶウェルネス志向型ケア計画— 中村幸代 南江堂
- 2) 母性・小児看護ぜんぶガイド 第2版 古川亮子編 照林社
- 3) 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル 大平光子編 南江堂

参考文献

- 1) Nursing Skills ELSEVIER
- 2) 母性看護 第2版(パーフェクト臨床実習ガイド) 堀内成子 照林社

履修条件・留意事項等

評価対象の課題に関して、不正行為が認められた場合はD判定になることがある。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 精神看護学					
科目名		精神看護学の基礎《2022カリ》				ナンバリング	3590
配当年次	2年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	井上 仁美						

授業の位置づけ

本科目は、DPの「社会の一員としての責任を有し、専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力を身につけている。」「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている。」に特に関連し、「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解できている。」「学習への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている。」に関連した科目である。
2年次の「精神看護学の展開Ⅰ」3年次の「精神看護学の展開Ⅱ」の基礎となる科目である。
また、1年次のメンタルヘルス、心理学概論を基礎とし、同時期に開講される看護病態治療学Ⅳと関連する科目である。

授業の概要

精神看護の基本概念となる精神の健康の概念、心の機能と発達、危機や災害時における精神の健康とマネジメント、ストレスへの対処と疾病予防、精神保健の歴史の変遷や法律、精神看護の倫理、精神保健行政、精神保健医療の場で行われる集団活動および精神看護の現状と課題を学ぶ。

到達目標

1. 精神保健看護学を学んでいく上で基本的な知識について説明できる。
2. 精神保健看護に関連する現代社会における課題を、その要因や問題の様相、精神保健看護の側面から説明できる。
3. 自己や他者のメンタルヘルスについての理解を深め、自分自身のメンタルヘルスをコントロールする方法を説明できる

授業の方法

授業ではテキストや配布するレジュメを用いてパワーポイントで説明する。また、自分の考えを課題レポートとして提出する。学んだ知識の定着を促進するため毎回、確認テストを実施する。準備学習または事後学習について自己学習ノートを作成し、Google Classroom(以下、GC)に提出することで、自己学習支援を行う。

ICT活用

学んだ知識の定着を促進するため、学習した内容について各学生がノートを作成し、GCに提出する。レポート課題等についてもGCに提出する。

実務経験のある教員の教育内容

本科目は精神保健看護で看護師として実務経験のある教員が担当する。

課題に対するフィードバックの方法			
GCで提出された課題や授業時間中に行う確認テストは授業時間中またはGCでフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 精神看護学の基本的な考え方 こころの健康・不健康の概念や精神障がい ¹ の定義をふまへながら、精神看護学の基本的考え方や心構えを学ぶ。 また、精神障害を説明するさまざまなモデル(考え方)と精神障害の ² とらえ方を学習する。	テキスト② P. 1～4、62～63をよく読んで、ノートにまとめる(90分)。	テキストおよびレジュメで復習し、次回の講義に実施する確認テストの準備をする(90分)。
担当教員			
第2回	心のはたらきと精神の健康・障害【確認テスト①;1回目の内容】 人格、気質、自我、感情、認知など人間の心のはたらきについて学ぶ。 さまざまなストレスに対処するシステムとしての防衛機制と、ライフサイクル各期における発達課題など人格の発達に関する代表的な理論について学習する。 発達段階における小児期逆境体験の影響とトラウマインフォームドケア(TIC)について学習する。	テキスト①P.45～97をよく読んで、ノートにまとめる(90分)。	テキストおよびレジュメで復習し、次回の講義に実施する確認テストの準備をする(90分)。
担当教員			
第3回	脳の構造と認知機能【確認テスト②;2回目の内容】 脳の構造と認知機能、認知機能の神経基盤について学習する。 脳の学習をとおして、薬物療法の基本を学習する。	テキスト①P.28～45をよく読んで、ノートにまとめる(90分)。	テキストおよびレジュメで復習し、次回の講義に実施する確認テストの準備をする(90分)。
担当教員			
第4回	心の危機とストレス【確認テスト③;3回目の内容】 生体システムとしてのストレス反応と恒常性の維持、睡眠(サーカディアンリズム)との関連性について学習する。 ストレスへの対処行動と危機理論、カプランの予防概念を理解できる。 生きる力と強さに着目したレジリエンス、リカバリ、ストレングスなどの概念について学習する。 がんの受容過程における理論や悲嘆のプロセスについて学習する。	テキスト①P.6～17、150～170をよく読んで、ノートにまとめる(90分)。	テキストおよびレジュメで復習し、次回の講義に実施する確認テストの準備をする(90分)。
担当教員			
第5回	家族におけるメンタルヘルス【確認テスト④;4回目の内容】 システムとしての家族と家族病理について学習する。 家庭内暴力や児童虐待などの事例から、high EE・lowEE家族や家族ホメオスタシス、共依存、世代間連鎖などの概念を学習し、家族はケアが必要なクライアントであることを学習する。 ドメスティックバイオレンスにおける加害者と被害者の心理状態と関係性について学習する。	テキスト①P.99～120、173～177、182～185をよく読んで、ノートにまとめる(90分)。	テキストおよびレジュメで復習し、次回の講義に実施する確認テストの準備をする(90分)。
担当教員			

第6回	<p>職場・学校等におけるメンタルヘルス【確認テスト⑤;5回目の内容】 職場や学校における精神関連問題について理解するとともに、ハラスメントやいじめが精神健康に与える影響とその支援について学習する。また、LGBTQなどの性の多様性、ひきこもり問題などについて学習する。</p>	<p>テキスト①P.122～141、178～181、186～195をよく読んで、ノートにまとめる(90分)。</p>	<p>テキストおよびレジュメで復習し、次回の講義に実施する確認テストの準備をする(90分)。</p>
担当教員			
第7回	<p>嗜癖の問題【確認テスト⑥;6回目の内容】 嗜癖の問題が心身および日常生活や家族に及ぼす影響について学習するとともに嗜癖問題から回復するための支援の方法を学ぶ。</p>	<p>テキスト①P.202～195をよく読んで、ノートにまとめる(90分)。</p>	<p>テキストおよびレジュメで復習し、次回の講義に実施する確認テストの準備をする(90分)。</p>
担当教員			
第8回	<p>精神障害と治療・看護の歴史【確認テスト⑦;7回目の内容】 精神疾患・障害とその治療・看護の歴史的経緯を学習する。特に、日本における精神医学・治療の歴史的経緯と地域・文化との結びつきを学び、社会的視点から精神障がいについて学習する。優生保護法など、過去の歴史から現在まで続いている課題について学習し、その問題点について学ぶ。</p>	<p>テキスト①P.230～249をよく読んで、ノートにまとめる(90分)。</p>	<p>テキストおよびレジュメで復習し、次回の講義に実施する確認テストの準備をする(90分)。</p>
担当教員			
第9回	<p>精神障害と法制度【確認テスト⑧;8回目の内容】 精神障がいをもつ人々を対象とする法律の目的と位置づけおよび法制度の変遷について学習する。精神科における入院制度と医療観察法についての問題や人権擁護と生活支援の点からの課題について学習する。</p>	<p>テキスト①P.249～279をよく読んで、ノートにまとめる(90分)。</p>	<p>テキストおよびレジュメで復習し、次回の講義に実施する確認テストの準備をする(90分)。</p>
担当教員			
第10回	<p>精神障害をもつ人の地域生活支援【確認テスト⑨;9回目の内容】 精神障害をもつ人の地域での生活と制度について学ぶとともに、地域生活を支えるさまざまなサービスとその基盤となる考え方を学習する。特に、今後は地域包括ケアシステムのなかに精神看護が位置づけられることを学習する。災害時の心のケアについて学習する。</p>	<p>テキスト①P.12～13、②356～396、404～411、467～479をよく読んで、ノートにまとめる(90分)。</p>	<p>テキストおよびレジュメで復習し、次回の講義に実施する確認テストの準備をする(90分)。</p>
担当教員			

第11回	身体疾患と精神看護【確認テスト⑩;10回目の内容】 脳とからだの関係、身体疾患と精神症状の関係性について学習する。リエゾン精神看護の役割と仕事について学習する。 がん、産後うつなど、ストレスや生活環境による精神障害について学習する。	テキスト①P.428～442をよく読んで、ノートにまとめる(90分)。	テキストおよびレジュメで復習し、次回の講義に実施する確認テストの準備をする(90分)。
担当教員			
第12回	集団力動論【確認テスト⑪;11回目の内容】 集団力動(グループダイナミクス)の歴史的発展段階を学ぶ。 グループを活用した実践について学習する。 社会生活技能訓練(SST)や当事者によるセルフヘルプグループ、ピアサポート、当事者研究などについて学び、集団療法の治療的意義について学習する。	テキスト②P.173～177、186～187をよく読んで、ノートにまとめる(90分)。	テキストおよびレジュメで復習し、次回の講義に実施する確認テストの準備をする(90分)。
担当教員			
第13回	看護職のメンタルヘルス【確認テスト⑫;12回目の内容】 対人関係職が体験する感情労働とメンタルヘルスへの影響について学習する。新人看護師の職場不適応、燃え尽き症候群、うつ、暴力などの問題についての対処とストレスマネジメントの方法を学習する。	テキスト①P.18～25をよく読んでノートにまとめる(90分)。GCに資料をUPするので、よく読んでおくこと(90分)。	レジュメで復習し、次回の講義に実施する確認テストの準備をする(90分)。
担当教員			
第14回	援助的人間関係を築く【確認テスト⑬;13回目の内容】 ケアの原則を理解するとともに患者-看護師関係における治療的援助関係の発展段階とそのコミュニケーションの技法を学習する。	テキスト②P.173～177、194～215をよく読んで、ノートにまとめる(90分)。	テキストおよびレジュメで復習し、次回の講義に実施する確認テストの準備をする(90分)。
担当教員			
第15回	精神科看護における倫理【確認テスト⑭;14回目の内容】 「精神科看護倫理綱領」や倫理基準について理解するとともに精神看護実践における倫理的課題と求められる倫理について学習する。アドボカシー、自己決定、エンパワメントなどの概念について学習する。	テキスト①P.4～20をよく読んで、ノートにまとめる(90分)。	レポート課題を作成する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>・確認テスト70% 5点×14回 講義開始時に実施する ・レポート課題の提出30% 10点×3回【具体的な課題と提出期限はそのつど提示する】 ※レポートは引用文献・参考文献を必ず明記すること。 毎回、その回のテキストによる予習または復習を手書きで作成した場合は、内容と量で1～3点を加点する(GCに提出すること)</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	

教科書

岩崎弥生、渡邊博幸 編:新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論/精神保健 第6版 メヂカルフレンド社
 岩崎弥生、渡邊博幸 編:新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 第6版 メヂカルフレンド社
 テキストは本科目と「精神看護学の展開 I・II」「精神看護学実習」でも使用する

参考文献

適宜、GCに提示する。

履修条件・留意事項等

私語は厳禁とします。私語をしている学生には直接注意します。遅刻・欠席をすると確認テストが受けられず、その回のテストが0点となりますので、欠席・遅刻をしないようにしてください。遅刻は20分を超えると欠席になります。また、遅刻は3回で1回の欠席となりますので注意してください。途中退室して15分以上経過しても入室しない場合は「早退」とみなすことがあります。体調不良時を除き、退席しないようにしてください。60点に満たない場合はDH判定となり、再試の対象となります。

備考欄

レポートやテスト時に不正行為があった場合は、単位を認定しない。

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 精神看護学					
科目名		精神看護学の展開 I 《2022カリ》				ナンバリング	3592
配当年次	2年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子						

授業の位置づけ

精神看護学の理論や疾患の科学的根拠に基づき、精神障害をもちながらも健康的な生活が送れるよう支援するための基礎的知識を学習するための科目である。
 DPの「健康状態やその変化に応じた看護に必要となる、科学的根拠に基づいた基本的な判断力・思考力・対象理解力を高め、看護師としての実践能力を有している。」と特に関連し、「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」に関連した科目である。
 「メンタルヘルス」「薬理学」「心理学概論」「精神看護学の基礎」「看護病態治療学IV」が基盤となり、これらの知識を発展的に活用して精神科疾患と看護を考え、「精神看護学実習」の基礎となる科目である。

授業の概要

精神看護の対象となる主な疾患・障害の特徴と看護について、症状/検査/薬物療法などを体系的に学習する。それぞれの精神障害の原因、回復過程と援助方法について、生物・心理・社会的側面から学ぶ。また、症状や薬物療法などによる生活のしづらさについて理解したうえで、支援のあり方を考える講義を行う。地域で生活する当事者の話を聴くことで、地域生活において必要な看護の役割や支援方法について学習する。

到達目標

- 1.精神障がいをもつ人の状態のとらえ方とさまざまな精神症状について説明することができる。
- 2.それぞれの精神障害を生物・心理・社会的側面から説明することができる。
- 3.症状や薬物療法などによる生活のしづらさについて理解したうえで、支援のあり方を述べることができる。

授業の方法

統合失調症、うつ病、双極性障害、アルコール依存症などの精神疾患について、講義形式でレジュメおよびテキストを用いて講義する。知識の定着をはかるために、ほぼ毎回の講義の最初に前回の講義内容について「確認テスト」を実施する。
 統合失調症やアルコール依存症などの当事者または家族の方をゲストスピーカーとして体験談を聞く。
 地域での支援については保健師の方をゲストスピーカーとして来ていただき、実際の支援と保健師の役割について学ぶ。
 学生はゲストスピーカーの話を聞いたのちに、自分が感じた思いや支援のあり方について整理し、レポートにまとめ提出する。

ICT活用

指定したレポート課題等はGoogle Classroom(以下、GC)に提出する。
 準備学習・事後学習および課題はGCに提示するため、確認して学習を進める。

実務経験のある教員の教育内容

本科目は精神保健医療の分野で看護師として実務経験のある教員が担当する。

課題に対するフィードバックの方法			
事後課題および授業時間内に実施する確認テストについては、講義時間内またはGCでフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	〃精神の健康上に問題をもつ人の理解と看護Ⅰ-1 統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害① 統合失調症の発症の原因、状態および回復過程とその治療について学ぶ。	テキスト②P.71～77をよく読んで重要なところに下線を引く(90分)。	配布したレジュメとテキストの復習をし、確認テストの準備をする(90分)
担当教員	藤村 恵理子		
第2回	〃精神の健康上に問題をもつ人の理解と看護Ⅰ-2 【授業開始時に確認テスト①;第1回目内容】 統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害② 統合失調症の事例をとおして、状態の経過にあわせた看護の方法を学習する。	テキスト②P. 274～293を読み、重要な箇所に下線を引く(90分)。	配布したレジュメとテキストの復習をし、確認テストの準備をする(90分)。
担当教員	藤村 恵理子		
第3回	〃精神の健康上に問題をもつ人の理解と看護Ⅱ-1 【授業開始時に確認テスト②;第2回目内容】 気分＜感情＞障害;うつ病①、双極性障害① 気分障害であるうつ病の発症の原因および回復過程とその治療を学習する。	テキスト②P.71～77をよく読んで重要なところに下線を引く(90分)。	配布したレジュメとテキストの復習をし、確認テストの準備をする(90分)
担当教員	藤村 恵理子		
第4回	〃精神の健康上に問題をもつ人の理解と看護Ⅱ-2 【授業開始時に確認テスト③;第3回目内容】 気分＜感情＞障害;うつ病②、双極性障害② 気分障害であるうつ病の事例をとおして、状態の経過にあわせた看護の方法を学習する。	テキスト②P.294～304をよく読んで重要なところに下線を引く(90分)。	配布したレジュメとテキストの復習をし、確認テストの準備をする(90分)。
担当教員	藤村 恵理子		
第5回	〃精神の健康上に問題をもつ人の理解と看護Ⅲ-1;精神作用物質による精神・行動の障害:アルコール、薬物等の依存症①【授業開始時に確認テスト④;第4回目内容】 アルコールや薬物等の依存症の病態、治療、回復過程を理解するとともに、回復過程や状態に応じた看護を学習する。	テキスト①P.202～218、②P.305～310をよく読んで重要なところに下線を引く(90分)。	配布したレジュメとテキストの復習をし、確認テストの準備をする(90分)
担当教員	藤村 恵理子		

第6回	“精神の健康上に問題をもつ人の理解と看護Ⅲ-2;精神作用物質による精神・行動の障害:アルコール、薬物等の依存症 ②【授業開始時に確認テスト⑤;第5回目の内容】 アルコールや薬物等の依存症の事例を通して、回復過程や状態に応じた看護を学習する。	テキスト②P.294～304をよく読んで重要なところに下線を引く(90分)。	配布したレジュメとテキストを復習し、確認テストの準備をする(90分)。
担当教員	藤村 恵理子		
第7回	“精神の健康上に問題をもつ人の理解と看護Ⅳ;不安障害、強迫性障害、PTSD、解離性障害 【授業開始時に確認テスト⑥;第6回目の内容】 不安障害、強迫性障害、PTSD、解離性障害の発症の原因、状態、治療、回復過程を理解するとともに、回復過程や状態に応じた看護を学習する。	“テキスト②P.324～329をよく読んで重要なところに下線を引く。ClassroomにUPされた資料またはyoutubeを視聴する。(90分)	配布したレジュメとテキストの復習をし、確認テストの準備をする(90分)。
担当教員	藤村 恵理子		
第8回	“精神の健康上に問題をもつ人の理解と看護Ⅴ;摂食障害【授業開始時に確認テスト⑦;第7回目の内容】 摂食障害の病態と治療を理解し、事例をとおして経過に応じた看護を学習する。	テキスト②P.112～119をよく読んで重要なところに下線を引く。GCにUPされた資料を読む(90分)。	配布したレジュメとテキストの復習をし、確認テストの準備をする(90分)。
担当教員	井上 仁美		
第9回	“精神の健康上に問題をもつ人への看護Ⅵ;パーソナリティー障害 【授業開始時に確認テスト⑧;第8回目の内容】 パーソナリティー障害の分類、とくに境界性パーソナリティー障害の病態および治療を理解するとともに、境界性パーソナリティー障害を抱える人への看護を学習する。	“テキスト②P.134～137をよく読んで重要なところに下線を引く。GCにUPされた資料またはyoutubeを視聴する。(90分)	配布したレジュメとテキストの復習をし、確認テストの準備をする(90分)。
担当教員	井上 仁美		
第10回	“精神の健康上に問題をもつ人への看護Ⅶ;発達障害、高次脳機能障害 【授業開始時に確認テスト⑨;第9回目の内容】 発達障害の定義、その行動障害、生活のしづらさについて理解し、適切な対応・対処について学習する。	“テキスト②P.312～323をよく読んで重要なところに下線を引く。GCにUPされた資料またはyoutubeを視聴する。(90分)	配布したレジュメとテキストの復習をし、確認テストの準備をする(90分)。
担当教員	井上 仁美		

第11回	“精神の健康上に問題をもつ人への看護Ⅷ;知的障害、てんかん【授業開始時に確認テスト⑩;第10回目の内容】知的障害、強度行動障害、てんかん、場面緘黙について学習する。 ※講義後に総合テスト(15点分)を行う(持ち込み可;テキスト、これまで配布したレジュメを持参すること)	“テキスト②P.38, 56, 64～66, 137～144をよく読んで重要なところに下線を引く。 GCにUPされた資料またはyoutubeを視聴する 総合テストを行うため、これまでの講義内容の復習を行う(90分)。	配布したレジュメとテキストの復習をし、確認テストの準備をする(90分)。
担当教員	井上 仁美		
第12回	“精神障害を持つ人の地域における生活への支援①～地域生活の再構築と社会参加～【授業開始時に確認テスト⑩;第11回目の内容】地域包括ケアシステムが求められる背景、障害者の生活を支える地域での社会資源を学習する。【講義終了後に、総合テスト(これまでのすべての内容;15点)を実施する】	テキスト②P.352～400をよく読んで重要なところに下線を引く。 GCにUPされた資料またはyoutubeを視聴する(90分)。総合テストを行うため、これまでの講義内容の復習を行う(90分)。	配布したレジュメとテキストの復習をする(90分)。
担当教員	井上 仁美		
第13回	“当事者体験を聴く①(ゲストスピーカーによる講義;こりかプロダクション(多機能型事業所、B型、移行、就労定着、の方々) <終了後、レポート①> 様々な精神障害をもち地域で生活する当事者の体験を聴き、回復を支える看護を考えることができる。 地域で生活する精神障害者を支える社会資源と専門職の役割機能を理解することができる。”	GCにUPされた資料またはyoutubeを視聴する(90分)。	指定されたテーマでレポートを作成し提出する(90分)。
担当教員	井上 仁美		
第14回	“当事者体験を聴く②(ゲストスピーカー-Alcoholics Anonymous;AAの方々) <終了後、レポート提出③> AAの方をお迎えし、AAの活動についての説明、メンバーの方の体験談を聴き当事者自身の思いや生きづらさについて学ぶ。	GCにUPされた資料またはyoutubeを視聴する(90分)。	指定されたテーマでレポートを作成し提出する(90分)。
担当教員	井上 仁美		
第15回	“精神障害をもつ人の地域における生活への支援② ゲストスピーカーによる講義(保健師) <終了後、レポート提出②> ～精神障害をもつ人の地域生活支援の実際と精神障害をもつ人をケアする家族への支援～ 多職種連携・地域資源の活用による当事者・家族支援の実際を知り、看護職の役割を学ぶ。	テキスト②P.408～418をよく読んで重要なところに下線を引く(90分)。	指定されたテーマでレポートを作成し提出する(90分)。
担当教員	井上 仁美		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>GCに自己学習(ノートに手書きで記載すること)を提出した場合は、期限内(講義開始の指定された時間)に提出することで1～3点の加点をする。 テストはレジюмеとテキストの持ち込みは可とするが、スマホやパソコンの使用は認めない。レジюмеを忘れても配布しないため、自分でクラスメイトから借りて講義前にコピーするなど対処すること。他の学生からの貸し借りや見せてもらうことは認めない。 欠席した場合(欠席含む)は、講義開始前に教員の研究室前まで取りに来た場合のみ配布する</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	

教科書

岩崎弥生 渡邊博幸 編:新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論/精神保健 第6版 メヂカルフレンド社
 岩崎弥生 渡邊博幸 編:新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 第6版 メヂカルフレンド社
 葉がみえるVol.1 第2版 メディックメディア
 同時に開講される「看護病態治療学Ⅳ」で同じテキストを使用するため重複して購入しないようにすること

参考文献

適宜、提示する

履修条件・留意事項等

〃本科目は精神看護学実習の履修要件である。グループワーク以外での私語は厳禁とする。
 確認テストがある授業に欠席・遅刻してテストを受けられなかったときは、そのテストは0点となる。特に1講目に遅刻しないこと。
 3タームに2講続きの講義を行うため、1日休むと2講とも欠席となり単位認定するための出席日数に不足が生じる可能性があるため、欠席・遅刻はしないこと。
 レポートの未提出、GCに提示している課題を期日まで回答せず提出していない場合もその課題の配点は0点となる。

備考欄

講義に関する連絡は基本的には講義時間内に行うが、GCをとおして行うことが多いため、適宜、GCのストリームを確認すること。
 休補講対応を行うことがあるため、講義の日程については決まり次第連絡するが、日程と教室を間違えないようしてください。

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 精神看護学					
科目名		精神看護学の展開Ⅱ				ナンバリング	3595
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	井上 仁美						

授業の位置づけ

DPの「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている」「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている」と特に関連する科目である。また、「社会の一員としての責任を有し、専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力を身につけている」「看護の対象となる人々とコミュニケーション能力を活用して円滑な関係を構築し、対象理解を深める能力を身につけている」「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解できている」「学習への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている」と関連した科目である。精神看護学概論、精神看護学健康障害論、精神看護学援助論Ⅰを習得したあとの演習科目である。また精神看護学実習の基礎となる講義である。

授業の概要

学習した精神看護学関連の諸知識を統合して対象者を多角的に理解するために、事例を用いてアセスメントから看護計画立案までを学習する。また、セルフケアレベルに応じた看護実践の方法を学ぶ。プロセスレコードの作成をとおして看護場面を振り返り、自己理解・他者理解を深めながら対象者－看護師関係の基礎づくりと発展段階について学ぶ。

到達目標

1. 精神障害をもつ人のセルフケアを高めるための援助方法について説明することができる。
2. さまざまな精神障害をもつ対象者【事例】のアセスメントから看護計画までを立案することができる。
3. 看護場面の再構成をとおして自己理解・他者理解の方法と対象者との信頼関係の基礎づくりおよび発展段階について説明することができる。

授業の方法

第1回から8回までは講義形式で行う。第9回からは事例を用いた看護過程の展開を指定された様式を用いてグループワークを行いながら実施し、事例ごとに発表する。

ICT活用

提出物および準備学習・事後学習の課題については指定された提出先(Google Classroom; 以下GC)に提出し自主学習を支援する。

実務経験のある教員の教育内容

本科目は精神保健福祉の分野において看護師の実務経験がある教員が担当する。

課題に対するフィードバックの方法			
提出された課題や確認テストについては講義時間中またはGCにフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業開始のガイダンス;授業の位置づけ、概要、目標、方法 精神科における主な治療と看護 精神疾患に用いられる向精神薬および抗精神薬の作用と有害反応、日常生活に薬物療法がどのような影響を及ぼしているかについて理解するとともに、その看護について学習する。 精神科における治療法の一つである電気けいれん療法、リハビリテーション療法、精神療法と看護について学ぶ。	テキスト;精神看護学②精神障害をもつ人の看護 P. 151～190をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く(90分)。	テキスト;看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 P.234～287をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く。 次回の講義時に確認テストを行うため、テキストとレジュメでよく復習をする(90分)。
担当教員			
第2回	精神科病院における安全管理<セーフティマネジメント>と倫理的配慮、講義のはじめに【確認テスト①;第1回講義の内容(5点)】 精神科病院の療養環境について学び、単科精神科病院と総合病院の精神科病棟の役割と機能についての違いを学習する 精神保健福祉法のもとに行われている行動制限、隔離、身体的抑制を行う際の根拠と倫理的配慮、看護について学習する 身体合併症の予防、多飲水・水中毒、自傷他害行為、自殺など精神科病院におけるリスクと安全管理について学習する	テキスト;精神看護学②精神障害をもつ人の看護 P. 257～274をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く(90分)。	テキスト;看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 P.233～287をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く。 次回の講義時に確認テストを行うため、テキストとレジュメでよく復習をする(90分)。
担当教員			
第3回	入院生活での身の回りの生活を整える援助～個人衛生、活動と休息のバランスの維持、金銭・私物管理～【確認テスト②;第2回講義の内容(5点)】 精神科病院に入院している患者の生活の実際を学び、清潔、活動、金銭および私物管理などについて、具体的な援助の方法について学習する 入院前の生活から入院中、退院後の生活の一連の過程をとおして、患者が自立・自律した生活を送るための支援の方法を学習する	テキスト;看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 P.120～143、155～164をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く(90分)。	次回の講義時に確認テストを行うため、テキストとレジュメでよく復習をする(90分)。
担当教員			
第4回	精神科における症状マネジメント～幻覚・妄想、無為・自閉、不安、拒否がある患者への対処～【確認テスト③;第3回講義の内容(5点)】 精神科でよくみられる症状へのアセスメントと対処法、看護介入について学習する。	テキスト;看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 P.165～223をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く(90分)。	次回の講義時に確認テストを行うため、テキストとレジュメでよく復習をする(90分)。
担当教員			
第5回	看護場面の再構成と援助関係の構築【確認テスト④;第4回講義の内容(5点)】 対象者とのかかわり方を学んだうえで、患者-看護師関係をアセスメントし、振り返るためのプロセスレコードの方法について学習し記載する。 信頼関係の基礎づくりと患者-看護師関係の発展段階について学習する。	テキスト;精神看護学②精神障害をもつ人の看護 P. 194～223をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く(90分)。	プロセスレコードを作成し、期限までにGCに提出する【10点】。 次回の講義時に確認テストを行うため、テキストとレジュメでよく復習をする(90分)。
担当教員			

第6回	セルフケア理論の概要【確認テスト⑤;第5回講義の内容(5点)】 精神看護学で用いられる看護理論を学ぶ。 オレム・アンダーウッドのセルフケア理論について学習する。	テキスト;看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 P.19～31、98～164をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く(90分)。	テキスト;精神看護学②精神障害をもつ人の看護 P.226～254をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く。次回の講義時に確認テストを行うため、テキストとレジュメでよく復習をする(90分)。
担当教員			
第7回	オレム・アンダーウッドのセルフケア理論による看護過程の実際;アセスメント、看護計画の立案【確認テスト⑥;第6回講義の内容(5点)】 統合失調症の事例をとおして、オレム・アンダーウッドのセルフケア理論による看護過程の実際を学び、アセスメントと看護計画の立案の方法を学習する。	テキスト;看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 P.98～164をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く(90分)。	テキスト;精神看護学②精神障害をもつ人の看護 P.274～293をよく読んで復習する(90分)。
担当教員			
第8回	看護過程の展開<グループワーク①> 展開する事例の説明 看護過程を展開する4つの事例(統合失調症、双極性障害、アルコール依存症、摂食障害)について各事例の生活歴等の背景や症状を理解することができる。※事例の疾患は変更する場合がある	テキスト;精神看護学②精神障害をもつ人の看護 P.288～310をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く(90分)。	自分のグループが展開する事例の情報を様式①から③まで分類する(90分)。
担当教員			
第9回	看護過程の展開<グループワーク②> 事例ごとにグループに分かれて進める。	自分のグループが展開する事例について様式④アセスメントから⑤看護計画の立案まで作成する(90分)。	グループでの課題を進める(90分)。
担当教員			
第10回	看護過程の展開<グループワーク③> 事例ごとにグループに分かれて進める。	グループでの課題を進める(90分)。	グループでの課題を進める(90分)。
担当教員			

第11回	看護過程の展開<グループワーク④>事例ごとにグループに分かれて進める。	グループでの課題を進める(90分)。次回から事例展開の発表を行うため、プレゼンテーションができるように準備する。	グループでの課題を進める(90分)。
担当教員			
第12回	看護過程の発表① 統合失調症の事例 統合失調症の事例を担当したグループの発表を聞き、実際の事例に基づいた看護過程の展開を学習する。	統合失調症について復習する。事例についてよく読んでおく(90分)。	発表されたグループの統合失調症の事例展開(様式①から⑤)について復習する(90分)。
担当教員			
第13回	看護過程の発表② 双極性障害の事例 双極性障害の事例を担当したグループの発表を聞き、実際の事例に基づいた看護過程の展開を学習する。	双極性障害の復習をする。事例をよく読んでおく。発表するグループはプレゼンテーションができるよう準備する(90分)。	プレゼンテーションされた様式①から⑤について復習する(90分)。
担当教員			
第14回	看護過程の発表③ アルコール依存症の事例 アルコール依存症の事例を担当したグループの発表を聞き、実際の事例に基づいた看護過程の展開を学習する。	アルコール依存症について復習する。事例をよく読んでおく。発表するグループはプレゼンテーションができるよう準備する(90分)。	プレゼンテーションされた様式①から⑤について復習する(90分)。
担当教員			
第15回	看護過程の発表④ 摂食障害の事例 摂食障害の事例を担当したグループの発表を聞き、実際の事例に基づいた看護過程の展開を学習する。	摂食障害の事例をよく読んでおく。発表するグループはプレゼンテーションができるよう準備する(90分)。	レポート課題を提示するので、作成して提出する【10点】(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>・グループワークの成果内容および発表、50% 50点 <評価基準は授業内で提示する> ※提出された事例展開の内容によって、評価が高い3つのグループが発表する(各3グループ)。看護過程の展開の内容に全体の整合性がなく一貫した内容になっていないことが多いため、提出前に必ず全体の内容が矛盾していないかをグループ内で確認すること。一貫性がない場合は発表グループには選ばれない。 発表グループは教員が決定する。発表したグループには加点するが、発表時に欠席した学</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	

教科書

山本勝則 守村洋 監修:看護実践のための根拠がわかる精神看護技術、第3版 メヂカルフレンド社
 新体系 看護学全書 精神看護学①精神看護学概論/精神保健 第5版 メヂカルフレンド社
 新体系 看護学全書 精神看護学②精神障害をもつ人の看護 第5版 メヂカルフレンド社

参考文献

適宜、資料を配布する。参考文献はGCに提示する。

履修条件・留意事項等

本科目は4年次の精神看護学実習履修要件です。看護過程は実習と同じ様式を用いるので、しっかりと理解して1年後の実習に活用できるよう積極的に学習してください。実習前には看護過程の書き方等の説明は行わないので、準備学習・事後学習を行い、よく理解し記述ができるようにすることが必須です。
 事例展開の発表は時間の都合上、すべてのグループは発表できないが、発表するグループには加点をする。ただし、グループでの活動及び成果物に参加・貢献していないと他の学生より指摘があり、そのような事実が判明した学生や正当な理由なく発表時に欠席した学生は大幅に減

備考欄

講義の開始時に確認テストがある場合は、遅刻すると確認テストは受けられないことがあるので注意する。
 事例による看護過程の展開についての課題が時間内に終了しない場合は、時間外に各グループで進める必要がある。
 グループ内で担当を決める場合でも、全体像の整合性についてグループで協議してから提出すること。様式によってボリュームに差がありすぎたり内容に矛盾がないようにすることが望ましい。
 事例であっても、きちんと「人」として尊重し「さん」をつけるなど、呼び名等に配慮すること。

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 看護学科						
区分	専門科目 地域・在宅看護論						
科目名	在宅看護学の展開 I 《2022カリ》					ナンバリング	3614
配当年次	2年	開講学期	2024年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	小橋 拓真、鹿内 あずさ						

授業の位置づけ

本学のDP「社会の一員としての責任を有し、専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力を身につけている。」「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている。」「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解できている。」「学習への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている。」「科学的思考と創造的思考を活用して看護の発展と社会へ貢献できる研究の基本的な能力を身につけている。」に関連した科目である。在宅看護学の基礎で学んだ内容(在宅看護の目的、役割、制度、及び、在宅における対象者と家族の健康状態や生活環境の捉え方、保健医療福祉の専門職との連携)を基盤に、事例をもとに在宅看護過程の基礎を学ぶ科目である。在宅看護学の基礎での学びをもとに、在宅看護過程を展開することは、在宅看護技術を学ぶ在宅看護学の展開Ⅱにつながり、在宅看護学実習における基礎となる。

授業の概要

住み慣れた地域において、様々な健康レベルにある対象者(在宅療養者、家族等)が主体的に生活を送り、QOLが向上するために必要な看護援助、及び、人生の最終段階における看護について理解する。在宅という場の特徴、日常生活行動に対する援助(環境調整・食事・排泄・活動と休息・清潔・衣生活・安全と安楽)、及び、在宅療養者と家族の意思を尊重した看護について学ぶ。

到達目標

1. 在宅療養者、及び、家族に対する看護展開の基礎を理解することができる
- 1) 在宅療養者、及び、家族の健康状態と日常生活についてアセスメントできる。
- 2) 在宅療養者、及び、家族の健康維持向上やセルフケア向上を目指した看護援助について考えることができる。
- 3) 在宅療養者、及び、家族のニーズを叶えるために必要な制度や社会資源について、事例の看護過程の展開を通して、考えることができる。
2. 事例の看護過程の展開を通して、倫理的配慮について考えることができる。
3. 在宅看護における緊急時、及び、災害時の対応、リスクマネジメントについて考察できる。

授業の方法

PowerPointと配布印刷物・視聴覚教材(DVD)を用いた講義形式とグループ演習で進める。事例を用いて在宅看護過程に取り組む。在宅看護過程では、自己学習、グループディスカッション、グループ発表を行う。講義後、学生は振り返りシートに学んだことや感じたことなどを記述し提出する。次回の授業の際に共有された内容をもとに学びを深める。

ICT活用

Google classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

脳神経外科、及び、精神科特殊疾患病棟に計5年間の勤務経験を活かして講義を行う(小橋)。
腎センターのICU病棟、整形外科・内科病棟に計5年間の勤務経験、及び、訪問看護ステーションにおける計5年間の経験を活かして講義を行う(鹿内)。

課題に対するフィードバックの方法			
講義ごとに提出した振り返りシートをもとに、フィードバックし、学びを共有し、自己学習に活かせるようにする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	1. 在宅看護とは【講義】 1) 在宅看護の目的と理念 2) 在宅看護が展開される場の特性 3) 在宅看護における信頼関係を構築するためのコミュニケーション	○教科書の関連する内容を読む ○在宅看護学概論を復習する(45分)	講義資料, 教科書の内容を復習する(45分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第2回	2. 在宅療養者を支える諸制度【講義】 1) 訪問看護制度について 2) 介護保険制度について 3) 医療保険制度について	○教科書の関連する内容を読む(45分)	○講義資料, 教科書の内容を復習する.(45分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第3回	<確認テスト①:第1回～第2回> 3. 在宅看護過程【講義】 1) 在宅看護過程の特徴 2) 在宅における看護支援を支えるICF(国際生活機能分類)の考え方	○教科書の関連する内容を読む(45分)	○講義資料, 教科書の内容を復習する.(45分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第4回	<確認テスト①のフィードバック> 4. 在宅看護過程の展開【講義】 1) 情報収集 2) アセスメント(4側面) 3) 全体像 4) 看護計画	○教科書の関連する内容を読む(45分)	○講義資料, 教科書の内容を復習する.(60分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第5回	5-1在宅看護過程(事例1)【演習】 事例1(難病療養者と家族):4側面それぞれにアセスメントの視点ごとに情報を整理する(グループ学習).	○在宅看護過程の基本的な考え方(第3～5回)の講義資料を確認する(30分)	演習で進めた看護過程について, 加筆修正を進める.(90分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		

第6回	5-2在宅看護過程(事例1)【演習】 事例1(難病療養者と家族):アセスメントの視点ごとに整理した情報を関連づけて,解釈分析を行う。解釈分析の結果,療養上の課題,援助内容を記述する(グループ学習)。	○在宅看護過程の基本的な考え方(第3~5回)の講義資料を確認する (30分)	グループワークでの気づきや学びなどを踏まえ,事例1のアセスメント及び療養上の課題と援助内容を修正する。さらに目標の設定と看護計画を立案する。 (60分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第7回	5-3在宅看護過程(事例1)【演習】 事例1(難病療養者と家族):療養上の課題及び,援助内容について共有する(グループ発表)。 【事例提出:事例1の記録「4側面からの療養上の課題について受講後に提出する】	○事例1のアセスメントや全体像を完成させ,看護計画の目標を設定し,援助内容について具体的な方法を考える (60分)	グループワークでの気づきや学びなどを踏まえ,事例2の看護計画を復習する。 (60分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第8回	6. 在宅における小児療養者に対する看護の実際【講義】 ・小児療養者,及び,家族の特徴,対象者の理解,援助内容について 【振り返りシート①:受講後の振り返りを期日までに提出する】	○在宅看護援助論Iの講義・演習内容を復習する。 (60分)	講義資料の復習をする。 (30分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第9回	<事例1の「4側面からの療養上の課題について」受講後に提出> 5-4在宅看護過程(事例1難病療養者と家族に対する看護「4側面からの療養上の課題について」)のフィードバック【講義】(小橋) 7-1在宅看護過程(事例2)【演習】 事例2(終末期にある療養者と家族):4側面それぞれにアセスメントの視点ごとに情報を整理する(グループ学習)。	○在宅看護過程の基本的な考え方(第3~5回)の講義資料を確認する (30分)	演習で進めた看護過程について,加筆修正を進める。 (90分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第10回	7-2在宅看護過程(事例2)【演習】 事例2(終末期にある療養者と家族):アセスメントの視点ごとに整理した情報を関連づけて,解釈分析を行う。解釈分析の結果,療養上の課題と援助内容について記述する(グループ学習)。	○事例2のアセスメントや全体像を完成させ,看護計画の目標を設定し,援助内容について具体的な方法を考える。 (60分)	グループワークでの気づきや学びなどを踏まえ,事例2のアセスメント及び療養上の課題と援助内容を修正する。さらに目標の設定と看護計画を立案する。 (60分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		

第11回	<p><事例2の「4側面からの療養上の課題について」受講後に提出> 7-3在宅看護過程(事例2)【演習】 療養上の課題と援助内容について共有する(グループ発表)。 【事例提出:事例2の記録「4側面からの療養上の課題について」受講後に提出する】</p>	<p>○事例2の看護計画について、療養者と家族が望む暮らしを支える援助内容になっているか再考し、修正を行う。(60分)</p>	<p>グループワークでの気づきや学びなどを踏まえ、事例2の看護計画を復習する。(60分)</p>
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第12回	<p>8.在宅における終末期ケア【講義】 1)終末期にある療養者の特徴、がんの末期療養者などの終末期の療養者と家族への看護について 【振り返りシート②:受講後の振り返りを期日までに提出する】</p>	<p>○在宅看護援助論 I の講義・演習内容を復習する。(60分)</p>	<p>講義資料の復習をする。(30分)</p>
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第13回	<p>9.在宅における精神療養者に対する看護の実際【講義】 1)精神療養者の特徴、対象者の理解について 【振り返りシート③:受講後の振り返りを期日までに提出する】</p>	<p>○精神看護学の教科書及び講義資料の復習(60分)</p>	<p>○講義資料の復習をする。(30分)</p>
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第14回	<p><確認テスト②:第3回～第4回> 7-4在宅看護過程(事例2終末期にある療養者と家族に対する看護「4側面からの療養上の課題について」)のフィードバック【講義】</p>	<p>○在宅看護援助論 I の講義・演習内容を復習する。(60分)</p>	<p>講義資料の復習をする。(30分)</p>
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第15回	<p><確認テスト②のフィードバック> 10.在宅看護におけるリスクマネジメントと倫理的課題、まとめ【講義】 【課題レポート「様々な健康レベルにある療養者や家族のその人らしい暮らしを支える在宅看護で大切なこと」を期日までに提出する】</p>	<p>○在宅看護援助論 I の講義・演習内容を復習する。(120分)</p>	<p>講義資料の復習をする。(60分)</p>
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施せず。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	○確認テスト2回:50%(各25%) ○看護過程2事例:20%(各10%) ○振り返りシート3回:12%(各4%) ○課題レポート1回:10% ○出席を含む講義・演習への参加態度およびコメントシートの記載:8%
その他	0	なし。
教科書		
①臺 有桂・石田 千絵・山下 留理子: 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア,メディカ出版,2019. ②臺 有桂・石田 千絵・山下 留理子: 地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術,メディカ出版,2022.		
参考文献		
適宜, 示す。		
履修条件・留意事項等		
・評価物において, 不正行為が認められた場合, D判定になることがある。		
備考欄		
なし。		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 地域・在宅看護論					
科目名		在宅看護学の展開Ⅱ				ナンバリング	3615
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	小橋 拓真、鹿内 あずさ						

授業の位置づけ

本学のDP「社会の一員としての責任を有し、専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力を身につけている。」「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている。」「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解できている。」「学習への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている。」「科学的思考と創造的思考を活用して看護の発展と社会へ貢献できる研究の基本的な能力を身につけている。」に関連した科目である。
 「在宅看護学の基礎」「在宅看護学の展開Ⅰ」を学んだ内容を基盤に、在宅看護学の理論や科学的根拠に基づき、疾病や障がいを抱えながらも、在宅でその人らしい生活を支援するための生活援助技術や基本的な医療的ケア技術を学ぶ科目である。
 在宅看護援助技術は、既習の「家族看護学」や「地域包括ケアシステム論」と関連させて療養者と家族の個別性を捉えた援助であり、「地域・在宅看護論実習」における基礎となる。

授業の概要

在宅という看護実践の場の特徴を踏まえ、在宅療養者と家族が必要とする日常生活行動の援助、及び、医療的ケアについて理解し、在宅療養を支える態度、対象者と家族に対する説明とプライバシーの保護、安全・安楽の確保、自立支援について学ぶ。

到達目標

1. 在宅療養者が必要としている生活援助について考察できる。
2. 在宅療養者が必要としている医療的ケアについて理解できたことを発言できる。
3. 在宅療養者の家族が必要としている生活援助について考察できる。
4. 在宅療養者の家族が必要としている医療的ケアについて考察できる。
5. 在宅療養者と家族に必要な在宅看護技術を異なる疾患の事例に対して実施できる。

授業の方法

PowerPointと配布印刷物・視聴覚教材(DVD)を用いた講義形式とグループでの演習を行う。講義で学んだ知識をもとにグループ演習を行う。グループ演習では、在宅看護技術、在宅の事例を用いたグループワーク、発表を行う。毎回の講義、及び演習において課題を示し、学生自身が学んだ内容について確認する。

ICT活用

Google classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

脳神経外科、及び、精神科特殊疾患病棟に計5年間の勤務経験を活かして講義を行う(小橋)。
 腎センターのICU病棟、整形外科・内科病棟に計5年間の勤務経験、及び、訪問看護ステーションにおける計5年間の経験を活かして講義を行う(鹿内)。

課題に対するフィードバックの方法			
講義ごとに提出した振り返りシートをもとに、フィードバックし、学びを共有し、自己学習に活かせるようにする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	1. 訪問看護の基本的態度と面接技術について【講義】(鹿内) 1) 在宅看護場面におけるコミュニケーション技術 2) 在宅看護における看護者に求められる態度	○教科書の関連する内容を読む ○以下を復習する 在宅看護学概論, 在宅看護学援助論 I (90分)	○講義資料, 教科書の内容を復習する(60分)
担当教員	鹿内 あずさ		
第2回	2.呼吸に関する在宅看護技術(在宅人工呼吸療法)【講義】(小橋) 1)呼吸を案楽にするための看護とは 2)在宅人工呼吸療法(TPPV/NPPV), 在宅酸素療法(HOT)についての手技や看護 3)在宅における気管内吸引についての手技や看護	○教科書の関連する内容を読む (90分)	○講義資料, 教科書の内容を復習する(60分)
担当教員	小橋 拓真		
第3回	3.在宅療養者と家族に対する看護過程【講義】(小橋) 1)アセスメント/療養上の課題 / 全体像 / 看護計画 事例1「在宅における難病療養者と家族」配布 事例2「在宅における小児療養者と家族」配布	○教科書の関連する内容を読む (90分)	○講義資料, 教科書の内容を復習する(60分)
担当教員	小橋 拓真		
第4回	4.在宅における呼吸ケア(NPPV・TPPV・HOT)【演習】(小橋・鹿内) ※フリップ・レスピロニクス 1)在宅における呼吸ケアで利用される機器の使い方と呼吸ケアの看護について	○在宅看護援助論Ⅱの第2回講義内容を復習する。 ○提示した事例を読み込む (90分)	○演習で学んだ内容と技術演習の自己評価をする。 ○在宅看護学援助論Ⅰの復習をした上で、事例の看護過程に取り組む (90分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第5回	5.栄養に関する在宅看護技術【講義】(小橋) 1)食ることへの看護とは 2)在宅における経口摂取の援助方法について 3)在宅経管栄養法・在宅中心静脈栄養法における看護	○教科書の関連する内容を読む (90分)	○講義資料, 教科書の内容を復習する(60分)
担当教員	小橋 拓真		

第6回	6.在宅における栄養のケア(在宅経管栄養法・在宅中心静脈栄養法)【演習】(小橋・鹿内) 1)胃ろうカテーテルの構造について, 経管栄養法の手技と看護について 2)CVポートの構造や, 中心静脈栄養の手技と看護について 3)経口摂取で使用される自助具について	○在宅看護援助論Ⅱ第5回の講義内容を復習する。 ○演習内容について, 目的・方法・手順・留意点について学習する。 (90分)	○演習で学んだ内容を整理し, 技術演習の自己評価を行う(60分)。
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第7回	<確認テスト①:第1回～第6回> 7.清潔に関する在宅看護技術【講義】(小橋) 1)清潔への援助が必要な療養者とは 2)在宅における清潔を保つための援助技術	○教科書の関連する内容を読む (90分)	○講義資料, 教科書の内容を復習する(60分)
担当教員	小橋 拓真		
第8回	8.在宅における清潔のケア【演習】(小橋・鹿内) 1)在宅における清潔援助に利用する物品の工夫(ケリーパッド, シャワーボトル)について 2)清潔援助で使用される福祉用具の使い方について	○在宅看護援助論Ⅱ第7回の講義内容を復習する。 ○演習内容について, 目的・方法・手順・留意点について学習する。 (90分)	○演習で学んだ内容を整理し, 技術演習の自己評価を行う(60分)。
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第9回	<確認テスト①のフィードバック> 9.排泄に関する在宅看護技術【講義】(小橋) 1)排泄への援助が必要な療養者とは 2)在宅における排泄援助(導尿・留置カテーテル・人工肛門)について 3)排泄に関する福祉用具について	○教科書の関連する内容を読む (90分)	○講義資料, 教科書の内容を復習する(60分) ○小テストでできなかった箇所を復習する(60分)。
担当教員	小橋 拓真		
第10回	10.在宅における排泄ケア(人工肛門造設者への援助)【演習】(小橋・鹿内) 1)人工肛門のモデルを用いて, パウチ交換の方法について	○在宅看護援助論Ⅱ第9回の講義内容を復習する。 ○演習内容について, 目的・方法・手順・留意点について学習する。 (90分)	○演習で学んだ内容を整理し, 技術演習の自己評価を行う(60分)。
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		

第11回	11.在宅における薬物療法【講義】(小橋) 1)薬物療法の必要な療養者とは 2)在宅における服薬管理, 疼痛管理の看護について 3)インスリン自己注射をしている療養者の看護について	○教科書の関連する内容を読む (90分)	○講義資料, 教科書の内容を復習する(60分)
担当教員	小橋 拓真		
第12回	12.在宅看護におけるリスクマネジメント【講義】(小橋・鹿内) ゲストスピーカー樋口 秋緒 先生 1) 病院とは異なる在宅でのリスクとは何か 2) 療養者が安全・安楽に生活するためのリスク管理の重要性 3) 療養者に必要な医療者としてのリスク管理の実際 [課題レポート①:受講した内容を振り返り,在宅看護のリスクマネジメントについてレポート提出]	○これまでの在宅看護援助論Ⅱの講義や演習内容を復習し,事例の看護過程に取り組む. (90分)	○講義資料,教科書の内容を復習する(60分)
担当教員	鹿内 あずさ,小橋 拓真		
第13回	<確認テスト②:第7回~第12回> 13.在宅療養者と家族に対する看護過程【演習】(小橋・鹿内) 1)事例について,各自が進めた看護過程を持ち寄り,グループディスカッションを行う.	○これまでの在宅看護援助論Ⅱの講義や演習内容を復習し,事例の看護過程に取り組む. (90分)	○グループ内でディスカッションした看護過程を修正し,提出する. (90分)
担当教員	鹿内 あずさ,小橋 拓真		
第14回	<確認テスト②のフィードバック> 14.在宅療養者と家族に対する看護過程【演習】(小橋・鹿内) 1)事例について,グループディスカッションで,共有した内容を発表する. 【2事例提出】※原則,提出期限延長は認めない 受講後,事例1「在宅における難病療養者と家族」提出 受講後,事例2「在宅における小児療養者と家族」提出	○在宅看護学援助論Ⅰを復習する. ○教科書の関連する内容を読む (90分)	○グループ内でディスカッションした看護過程を修正し,提出する. (90分) ○小テストでできなかった箇所を復習する(60分).
担当教員	鹿内 あずさ,小橋 拓真		
第15回	<課題(事例1・事例2)の提出> 15.在宅における人生の最終段階における看護と意思決定支援【講義】(鹿内) 1)在宅看護における意思決定支援・人生の最終段階における支援 2)アドバンスケアプランニング(ACP)とは 3)在宅看護における課題/まとめ [課題レポート②:受講した内容を振り返り,在宅療養者と家族を支えるためにどのような看護が大切かについてレポート提出]	○在宅看護学援助論Ⅰの復習 ○教科書の関連する内容を読む (60分) ○在宅看護援助論Ⅱの講義・演習内容を復習する. (120分)	○在宅看護学援助論Ⅰの講義資料や教科書の内容を復習する(90分)
担当教員	鹿内 あずさ		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施せず	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>○確認テスト2回:50%(各25%) ○看護過程2事例:30%(各15%) ○課題レポート2回:10%(各5%) ○出席を含む講義・演習への参加態度および、コメントシートの記載:10%</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>なし</p>
<p>教科書</p>		
<p>①在宅看護学講座, スーディ神崎和代(監修), ナカニシヤ出版 ②写真でわかる訪問看護アドバンス訪問看護の世界を写真と動画で学ぶ!, 押川真喜子, インターメディカ ③医療福祉総合ガイドブック 2022年度版/NPO法人 日本医療ソーシャルワーク研究会, 医学書院</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>適宜, 示す.</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>・評価物において, 不正行為が認められた場合, D判定になることがある.</p>		
<p>備考欄</p>		
<p>なし.</p>		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 地域・在宅看護論					
科目名		家族看護学《2022カリ》				ナンバリング	3618
配当年次	2年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	鹿内 あずさ						

授業の位置づけ

本科目は、ディプロマポリシー「社会の一員としての責任を有し、専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力を身につけている。」「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている。」「多彩なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解できている。」「学習への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている。」「科学的思考と創造的思考を活用して看護の発展と社会へ貢献できる研究の基本的な能力を身につけている。」に関連する科目である。

授業の概要

家族看護学に関する基礎(家族看護の概念、看護モデル)を学び、家族をひとつの単位として看護する意義の理解、家族自らが健康課題を達成し、家族のセルフケア機能を向上させる看護について学ぶ。

到達目標

1. 看護の対象としての家族の特性を理解できる
2. 家族をひとつの単位として捉える意義を理解できる
3. 家族看護理論・モデルの概要を理解できる
4. ジェノグラム・エコマップを描くことができる
5. 家族看護のプロセスを理解できる
6. 家族のライフステージ別の看護について理解できる

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式で進める。
理解度を確認するために毎回の講義において課題を示し、学生自身が学んだ内容について記述する。
毎回の講義で、学生が記述したコメントシートを活用し、授業を振り返り、疑問の解決を図る。

ICT活用

Google classroomを活用し、加えて、視聴覚教材を用いて家族アセスメントの実際を学ぶ。

実務経験のある教員の教育内容

医療機関・訪問看護ステーション・介護保険事業所における実践内容を活かした講義資料、および、地域看護専門看護師としての地域における活動経験を活かした講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
毎回の講義中に質問・意見に対する返答を行い、学びの共有ができるようなフィードバックを行います。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	1. 家族看護学とは 1) 家族看護学の発展と動向 2) 家族の定義, 及び, 家族看護の定義 2. 家族とは何か 1) 我が国の家族の変遷 2) 看護の対象としての家族 3) 家族の形態(かたち) 4) 家族の機能	テキストのp.2-5, 39-45を読む(60分)	講義資料、テキストを用いて復習する(120分)
担当教員			
第2回	5) 家族の構造 6) 家族の意思決定 7) 家族の生活と地域社会との関係 8) ジェノグラムとエコマップ <課題①: ジェノグラムとエコマップ>	テキストのp.27-28, 101を読む(60分)	講義資料とテキストを用いて復習する(120分)
担当教員			
第3回	<課題①のフィードバック> 3. 看護学における家族の理解 1) 健康な家族 2) 機能している家族の構造 3) 家族のセルフケア機能	前回の講義資料、テキストp.53-58を読む(60分)	講義資料とテキストを用いて復習する(120分)
担当教員			
第4回	4. 家族看護学の基本概念 1) 家族看護学の概念枠組 2) 看護の目的と対象 3) 1単位としての家族 4) 家族を理解する場 5) 看護者の姿勢	前回の講義資料を読む(60分)	講義資料とテキストを復習する(120分)
担当教員			
第5回	5. 家族を理解するための理論・モデル 1) 家族発達理論 2) 家族システム理論 3) 家族ストレス対処理論 4) フリードマン家族アセスメントモデル 5) カルガリー家族アセスメントモデル 6) 家族エンパワーメントモデル 7) 鈴木・渡辺の家族アセスメントモデル	前回の講義資料、テキストp.98-100を読む(60分)	講義資料とテキストを用いて復習する(120分)
担当教員			

第6回	<確認テスト①フィードバック> 6. 家族看護過程(1) 1) 家族看護の展開 2) 家族アセスメントの構造 3) 情報収集とアセスメント 4) ニーズと介入の判断 5) 家族看護計画 6) 家族看護計画の評価	テキストのp.93-104を読む(60分)	講義資料とテキストを用いて復習する(120分)
担当教員			
第7回	7. 家族看護過程(2) [ゲストスピーカー 川村真澄先生(家族支援看護専門看護師)] 課題① レポート「家族看護の実際を学んで」	前回の講義資料を読む(60分)	資料をもとに講義内容を復習する(120分)
担当教員			
第8回	<4~6:確認テスト②(20分)/確認テスト②フィードバック> 8. まとめ / 課題② レポート「家族看護学を学んで」	前回までの講義資料、テキストの該当部分を読む(60分)	全ての講義資料、及び、配布資料、テキストを復習する(120分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	課題(2回:各20%), 授業への参加態度, 及び, コメントシートの記載内容(20%)により評価する。	
その他	40	確認テスト(2回: 各20%)により評価する。	
教科書			
家族看護学 理論と実践 第5版 鈴木和子・渡辺裕子・佐藤律子 日本看護協会出版会 2020			
参考文献			
講義内で提示する。			
履修条件・留意事項等			

テキストでの予習をして臨むこと。評価物に不正行為があった場合は、D判定となることがある。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 看護の統合と実践					
科目名		看護研究 I				ナンバリング	4701
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	佐藤 洋子						

授業の位置づけ

本科目は、ディプロマポリシー「学習への主体性を有し、自律的な行動ができる専門職者として研鑽し続ける基本的能力を身につけている」「科学的思考と創造的思考を活用して看護の発展と社会へ貢献できる研究の基本的な能力を身につけている」を目指し、看護学における基本的な研究プロセスに関する知識を習得する科目である。この知識に基づき「看護研究Ⅱ」で発展的な学習につなげる。

授業の概要

看護学と医療・保健の質向上に貢献できる研究能力を養うため、看護活動を効果的に展開するためには、研究的視点をもち看護の実践知を論理的・体系的にとらえ、看護実践の改善に役立てていくことが必要になる。本科目では、看護における研究の意義を理解した上で、実際に看護研究のプロセスを理解する。また、看護研究に必要な研究方法、研究デザイン、研究倫理について学び、研究計画書を作成する基礎的知識を習得する。

到達目標

1. 看護学における研究の役割を理解することができる。
2. 研究のプロセスが理解できる。
3. 看護研究における今後の課題を考えることができる。
4. 批判的に文献検討を行う視点を身につけることができる。

授業の方法

本科目は、講義形式と学生同士のディスカッションを活用して学習する。教材は、教科書と担当教員が作成した資料である。理解度を確認するための小テスト並びに課題レポートの提出によって総合的に評価する。理解を深めるため小テストを実施する。また、適宜レポートおよび課題を提示する。

ICT活用

Google Classroomを活用して、レポート提出や準備学習・事後学習を行い自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

本講義は研究指導、看護研究の経験がある教員が授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
小テスト・課題レポートを実施した後、解説講評を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 看護研究 I の位置づけとシラバスの説明	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度)。 シラバスを読んでおく。	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること(90分程度)。
担当教員	佐藤 洋子		
第2回	看護における研究の役割 研究の目的と意義、研究プロセス	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度)。 テキスト:第1章 pp.2-21	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること(90分程度)。
担当教員	佐藤 洋子		
第3回	研究対象者の権利と倫理審査体制 研究における倫理的配慮 人を対象とする声明科学・医学系研究に関する倫理指針 等	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度)。 テキスト:第1章 pp.19-30,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること(90分程度)。
担当教員	佐藤 洋子		
第4回	研究過程の概要 研究デザイン(量的研究、質的研究、他)	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度)。 テキスト:第2章 pp.31-41, 第10 章 pp.221-240,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること(90分程度)。
担当教員	佐藤 洋子		
第5回	文献検討の方法 文献検討の目的、方法、文献の分類、研究論文の形式、 国内外のデータベース等	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度)。 テキスト:第3章 pp.43-63,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること(90分程度)。
担当教員	佐藤 洋子		

第6回	文献検索の方法 データベース「医学中央雑誌」を中心とした検索方法、他(図書館司書)	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)。 テキスト:第3章 pp.43-63,他 本学図書館のホームページ https://libro.do-bunkyo-dai.ac.jp/	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)。
担当教員	佐藤 洋子		
第7回	課題1 文献検索レポート:文献検索および文献レビュー	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)。	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)。
担当教員	佐藤 洋子		
第8回	研究デザインとクリティーク	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)。 テキスト:第4章 pp.43-63,他、第5章 pp.81-117,他	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)
担当教員	佐藤 洋子		
第9回	研究計画書の作成方法	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)。 テキスト:第6章 pp.120-134,他	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)。
担当教員	佐藤 洋子		
第10回	データ収集と分析	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)。 テキスト:第7章 pp.135-170,他、第8章 pp.171-1202,他、第10章 pp.221-240,他	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)。
担当教員	佐藤 洋子		

第11回	研究成果の公表・活用について プレゼンテーション、論文の作成の方法	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度)。 テキスト:第9章 pp.207-220,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること(90分程度)。
担当教員	佐藤 洋子		
第12回	研究結果の活用 1:文献クリティーク チェックシートに基づいて文献をクリティークする	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度)。	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること(90分程度)。
担当教員	佐藤 洋子		
第13回	研究結果の活用 2:文献クリティーク チェックシートに基づいて文献をクリティークする	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度)。	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること(90分程度)。
担当教員	佐藤 洋子		
第14回	課題2:研究計画書作成 ※確認テスト	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度)。	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること(90分程度)
担当教員	佐藤 洋子		
第15回	看護研究の今後の課題、まとめ	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度)。 テキスト:第12章 pp.265-276,他	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること(90分程度)。
担当教員	佐藤 洋子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義内での確認試験1回(60点) 課題1レポート:20点 課題2レポート:20点
その他	0	
教科書		
南 裕子・野嶋佐由美編/看護における研究第2版/日本看護協会出版会/2021年.		
参考文献		
講義内で提示する。		
履修条件・留意事項等		
講義中は能動的な学修姿勢で臨むこと。 他学生の学びを妨げる行為は慎むこと。 講義中の私語は厳禁です。		
備考欄		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 看護の統合と実践					
科目名		看護研究Ⅱ				ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	坂東 奈穂美、小堀 ゆかり、高岡 哲子、井上 仁美、尾形 裕子、木口 幸子、多賀 昌江、福士 晴佳、辻 幸美、藤長 寸が子、小堀 拓真、菅原 美保、竹之内 優美、藤村 恵理子、渡辺 一代、根本 常子、古沢 幸子、佐藤 洋子、赤坂 浩子、初見 温子、横山 佳世、水野 愛子、高橋 祥介						

授業の位置づけ

本学科のディプロマポリシー「対象の健康課題を専門的知識と技術を基礎に、科学的思考力・判断力により、その解決に向けて行動することができる」を身につけるための科目である。「看護研究Ⅰ」と関連し、それまで履修した専門科目の総まとめとなる。

授業の概要

これまでの講義・演習、実習での経験から抱いた興味・関心や疑問(研究動機)に基づき、研究課題(研究テーマ)を明確化する。見出した研究課題について、「看護研究Ⅰ」で学修した知識を用いて、研究計画書を作成する技能を習得する。探究することを通して、看護研究の意義や看護学への理解を深める。また、研究者としての研究倫理や態度、共同で研究を進めるうえでのマナーやルールを身につける。

到達目標

1. 自分が持った関心や疑問(研究動機)から研究課題(研究テーマ)を明らかにすることができる。
2. 研究課題に関する文献検索と文献のクリティークを行い、その結果を文献カードにまとめることができる。
3. 共同で研究課題にふさわしい研究デザインを設計することができる。
4. 共同で所定の様式に従った研究計画書を作成することができる。
5. 共同で最終成果を発表することができる。
6. 計画書作成の過程に、自主的、建設的、協力的な態度で参加することができる。

授業の方法

少人数のグループに分かれて、ゼミ形式で進める。担当教員より、研究の背景・研究動機・研究目的・文献検討・研究方法・倫理的配慮について指導を受けながら、自分たちが関心を持っている研究課題について、グループで研究計画書を作成する。研究計画をより洗練させるため、計画書の作成途中で中間報告会を開催し、他の学生や教員からの意見をもらう。最後に研究計画書報告会で発表し、抄録集にまとめ、看護研究についての学びを深める。

ICT活用

研究倫理については、eラーニングを用いて学ぶ。

実務経験のある教員の教育内容

担当教員は看護職の勤務経験を活かし、看護研究について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
研究計画書の作成過程で、口頭もしくは研究計画書へのコメントによりフィードバックを行う。中間報告会や研究計画書発表会では、質疑応答の時間にフィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【科目ガイダンス】 グループワーク 各自が関心を寄せている研究疑問を持ち寄り、グループ内で発表し、グループとして取り組む研究課題と、今後の方向性について討議する。 看護研究Ⅱの進め方について担当教員と相談する。	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第2回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第3回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第4回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第5回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			

第6回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第7回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第8回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第9回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第10回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			

第11回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第12回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第13回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第14回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第15回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			

第16回	中間報告会 原則として2領域以上で合同で行う。運営は学生主体で行う。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第17回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第18回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第19回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第20回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			

第21回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第22回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第23回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第24回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第25回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			

第26回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第27回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第28回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第29回	研究計画書発表会 座長・タイムキーパー・マイク係りなどを学生が担い、運営する。	課題整理(30分)	発表会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第30回	グループワーク 研究計画書・抄録集を完成させる。	課題整理(30分)	振り返り(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	評価表に従い、研究計画書、抄録、発表会資料、グループワーク参加態度について、総合的に評価する。
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
授業の期間内に必要時、提示する。		
履修条件・留意事項等		
主体的に、かつ計画的に取り組むこと。		
備考欄		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科	人間科学部 看護学科						
区分	専門科目 看護の統合と実践						
科目名	看護臨床判断					ナンバリング	4666
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1

担当教員	佐藤 洋子、木口 幸子、鹿内 あずさ						
------	--------------------	--	--	--	--	--	--

授業の位置づけ

本科目は看護学の理論や科学的根拠に基づき、ディプロマポリシー「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている」「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている」「社会の一員としての責任を有し、専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力を身につけている。」「科学的思考と創造的思考を活用して看護の発展と社会へ貢献できる研究の基本的な能力を身につけている」に関係する。また、本科目は看護専門職の人材の育成に関係し、「看護起業論」「リスクマネジメント論」「看護マネジメント論」国際看護学」「災害看護学」を含む対象者の健康的な生活を支援するための基礎的知識を獲得するための統合科目として位置づけられる。

授業の概要

本科目では、看護職を取り巻く社会現状を理解祖いたうえで、臨床判断を実践するうえで必要な基礎的知識を修得する。学習内容は、臨床判断能力が求められる背景と社会的状況、臨床判断の定義、臨床判断能力を活用するための方法である。
講義内容は下記のように構成する。
佐藤/5回 看護を取り巻く現状を理解し、臨床判断の必要性を学ぶ。
鹿内/5回 臨床判断の概念やモデルを学ぶ。
木口/5回 臨床判断の方法を学ぶ。

到達目標

- 1.看護臨床判断の必要性と関連する基本的な概念を理解する。
- 2.看護臨床判断モデルが理解できる。
- 3.看護実践における臨床判断の思考プロセスを習得する。
- 4.臨床判断の4つのフェーズが理解できる。
- 5.臨床判断のフェーズに基づき、事例を活用して実施ができる。

授業の方法

授業方法はパワーポイントとハンドアウト、視聴覚教材(DVD)などを用いたオムニバス講義形式とする。理解を深めるため、適宜レポートおよび課題を提示する。グループワークを実施し互いの考えを共有する。

ICT活用

Google Classroomを活用して、情報共有、レポート提出や準備学習・事後学習を行い自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

本講義は豊富な実務経験を有する看護師有資格教員が授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
小テスト、グループワーク報告後、テスト並びに課題の講評・解説を適宜行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	1.コースオリエンテーション 2.臨床判断・臨床推論の定義	・シラバスを読んでおく。(20分)	・講義演習日程を再確認し、関連する科目について復習する。(25分)
担当教員	佐藤 洋子		
第2回	1.看護を取り巻く現状と臨床判断能力	・臨床判断の定義について看護過程と関係からまとめておく。(20分)	・看護を取り巻く現状と、臨床判断の重要性についてまとめておく。(25分)
担当教員	佐藤 洋子		
第3回	1.タナーの理論と臨床判断モデル	・タナーの理論について、検索し一読しておく。(20分)	・講義資料や関連するテキストを読み、自分の考えをまとめる。(25分)
担当教員	佐藤 洋子		
第4回	1.臨床看護実践で遭遇する臨床判断の展開 2.アセスメントと臨床診断のための思考プロセス	・臨床判断モデルについて確認しておく。(20分)	・講義資料や関連する文献を読み、自分の考えをまとめる。(25分)
担当教員	佐藤 洋子		
第5回	・まとめ 課題:臨床看護場面で遭遇する臨床判断の展開について	・前回までの講義内容を振り返る。(20分)	・講義資料や関連する文献を読み、自分の考えをまとめる(25分)
担当教員	佐藤 洋子		

第6回	1. 臨床判断の概念 2. 臨床判断モデルの4つのフェーズ	・第1回から5回の講義資料を復習する(60分)	・講義資料を復習する(90分)
担当教員	鹿内 あずさ		
第7回	1.臨床判断モデルの活用 2.臨床判断を促進する方法	・臨床判断モデルについて復習する(60分)	・講義資料を復習する(90分)
担当教員	鹿内 あずさ		
第8回	1.臨床判断を促進するモデルの活用(1) 講義(20分) 事例を通してグループでの検討(40分) 発表(20分) フィードバック(10分) 課題(個人)の提示	・講義資料を復習する(60分)	・グループで話し合った内容と自身の学びについてまとめる/ ・次回講義時提出の課題に取り組む(90分)
担当教員	鹿内 あずさ		
第9回	1.臨床判断を促進するモデルの活用(2) 講義(20分) 事例を通してグループでの検討(40分) 発表(20分) フィードバック(10分) 課題(個人)の提示	・講義資料を復習する(60分)	・グループで話し合った内容と自身の学びについてまとめる/ ・次回講義時提出の課題に取り組む(90分)
担当教員	鹿内 あずさ		
第10回	1.臨床判断を促進するモデルの活用(3) 講義(20分) 事例を通してグループでの検討(40分) 発表(20分) フィードバック(10分) レポート課題の提示	・講義資料を復習する(60分)	・グループで話し合った内容と自身の学びについてまとめる(90分) / ・課題レポートの作成(指示された日時までに提出する)
担当教員	鹿内 あずさ		

第11回	臨床判断の4つのフェーズについて再確認 (講義) ・前回までの復習 ・臨床判断の4つのフェーズについて再確認 ・今後の進め方	前回までの講義について復習する(60分)	4つのフェーズについて復習する(60分)
担当教員	木口 幸子		
第12回	(講義・演習) 【気づく】 ・気づくとは(講義20分) ・事例の背景と直前情報を読み、【気づく】について、グループで話し合う。(40分) ・発表(20分)・講評(10分)	【気づく】について復習・予習をしてくる(60分)	【気づく】について、演習を通し、個人課題①を提出(90分) グループ分提出
担当教員	木口 幸子		
第13回	(講義・演習) 【解釈】 ・解釈とは(講義20分) ・12回目の<気づき>から、【解釈】について、グループで話し合う。(40分) ・発表(20分)・講評(10分)	【解釈】について復習・予習をしてくる(60分)	【解釈】について、演習を通し、個人課題①を提出(90分) グループ分提出
担当教員	木口 幸子		
第14回	(講義・演習) 【反応・省察】 ・反応・省察とは(講義20分) ・12回目<気づく>、13回目<解釈>を踏まえて、【反応】【省察】について、グループで話し合う。(40分) ・発表(20分)・講評(10分)	【反応】【省察】について復習・予習をしてくる(90分)	【反応】【省察】について、演習を通し、個人課題①を提出(90分) グループ分提出
担当教員	木口 幸子		
第15回	・まとめ レポート説明	・まとめ レポート説明	レポート作成(90分)
担当教員	木口 幸子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>各担当教員が実施する授業中の小テスト、個人並びにグループ課題レポート提出の合計により評価する。各担当教員より講義時に、テストやレポートの評価割合(%)を明示する</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>既得の教科書を参照し、特に指定しない。 必要時資料を提示する。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>別途講義中に紹介する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>講義中は能動的な学修姿勢で臨むこと。 他学生の学びを妨げる行為は慎むこと。 講義中の私語は厳禁。</p>		
<p>備考欄</p>		

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 看護の統合と実践					
科目名		看護起業論				ナンバリング	4668
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	高岡 哲子						
授業の位置づけ							
<p>本科目は、「看護の統合と実践(総合講座)」に位置づけられ、ディプロマポリシーの「学習への主体性を有し、自立的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている【関心・意欲・態度】」につながる。「キャリア教育」に位置づけられている「キャリア入門」などを基盤として学習する。これらの学習により、卒業後の進路の幅を広げられるように看護職者が起業する際に必要な知識と考え方を学ぶ。</p>							
授業の概要							
<p>本科目では、看護職として働く場が多様化している社会的特徴に合わせて、看護職者が、起業する意味と目的、具体的な起業方法について学習する。学習内容は、サービス業における経営上の課題、看護職が起業する意味、起業方法、評価方法についてである。</p>							
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・看護師が起業する意味を説明することができる。 ・看護師が起業する方法と評価方法を説明することができる。 							
授業の方法							
<p>本科目は講義形式と学生同士のディスカッション、発表を活用して行う。教材は担当教員が作成した資料である。評価は、理解度を確認するための4回の確認レポートによって行う。</p>							
ICT活用							
<p>G Suite for educationを活用する。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							
<p>総合的な病院で約7年間、勤務した中で対象にケアを行った経験を活かして授業を行う。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
確認レポートやグループワーク、発表のフィードバックは、集団に対してコメントすることで行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション(講義・GW) 内容:本カリキュラムにおける「看護起業論」の位置づけとシラバスの説明 行動目標:オリエンテーションの内容を理解し、自らが学習すべき内容と学習課題が説明できる。 GW:起業に対するイメージの情報交換	・シラバスを熟読する。 ・起業に対するイメージをノートにまとめる。(90分)	・行動目標の自己評価を行う。 ・本日の学習内容をまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子		
第2回	医療福祉における経済と経営(講義) 内容:医療福祉における経済と経営の特徴 行動目標:医療福祉における経済と経営の特徴が説明できる。 確認レポート①:テーマは当日提示する。	経済と経営の言葉の意味を調べてノートに記載する。(90分)	・行動目標の自己評価を行う。 ・本日の学習をノートにまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子		
第3回	看護サービス経営上の課題と看護師が起業する意味(講義) 内容:看護サービス経営上の課題と看護師が起業する意味 行動目標:看護サービスと経営上の課題と看護師が起業する意味が説明できる。 確認レポート②:テーマは当日提示する。	インターネットを活用して看護職ができる企業の種類を確認してノートに記載する。(90分)	・行動目標の自己評価を行う。 ・本日の学習をノートにまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子		
第4回	企業に必要なコミュニケーション(講義) 内容:コミュニケーションの概要と方法 行動目標:起業に必要なコミュニケーション基礎が説明できる。	コミュニケーションとは何かを調べておく。(90分)	・行動目標の自己評価を行う。 ・本日の学習をノートにまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子		
第5回	起業の目的と方法(講義:ゲストスピーカー) 内容:起業とは何かと起業の目的と方法 行動目標:起業の目的と方法が理解できる。	インターネットを活用して看護師に限らない起業事例を確認してノートにまとめる。(90分)	・行動目標の自己評価を行う。 ・本日の学習をノートにまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子		

第6回	看護師の起業成功事例と失敗事例(講義:ゲストスピーカー) 内容:看護師の起業成功事例と失敗事例 行動目標:看護師が起業するうえでのリスクが理解できる。	看護師が起業するうえでのリスクを調べてノートにまとめる。(90分)	・行動目標の自己評価を行う。 ・本日の学習をノートにまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子		
第7回	起業計画の立案(GW) GW:グループで起業計画を立案する。 ・どのような会社か ・起業もしくは経営理念 ・起業目的 行動目標:グループワークと発表において自らの役割を果たすことができる。 発表:数グループが代表して発表する。	グループワーク準備をする。(90分)	・行動目標の自己評価を行う。 ・本日の学習をノートにまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子		
第8回	本授業のまとめ(講義) 内容1~7回までの講義内容をふりかえる。 行動目標:本科目の学習内容をふりかえり、ポイントを説明できる。 確認レポート④:テーマは当日提示する。	今までの資料を整理して見直す。(90分)	・行動目標の自己評価を行う。 ・本日の学習をノートにまとめる。(90分)
担当教員	高岡 哲子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認レポート:4回×25点=100点	
その他	0	なし	
教科書			
なし			
参考文献			
必要時提示する。			
履修条件・留意事項等			

- 私語、教員が求めた時以外の携帯電話の使用を禁止する。
- 学習は主体的に行う。
- 欠席した場合は、必ず欠席届を提出する。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 看護の統合と実践					
科目名		看護マネジメント論				ナンバリング	4660
配当年次	4年	開講学期	2024年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	坂東 奈穂美、水野 愛子						

授業の位置づけ

看護学科のディプロマ・ポリシー「保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、協働して活動する能力を高めることができる」と「状況を的確に判断し、その状況に応じたコミュニケーションがとれる」に関連した科目である。
 ②他の科目との前後のつながり:「地域看護学概論」「保健医療福祉行政論」「チーム医療概論」などの科目と関連し、「看護実践マネジメント実習」の基礎となる。

授業の概要

看護の質を保障するための組織のあり方やシステム、人材育成の視点から看護マネジメントを学ぶ。具体的には、対象が必要とする医療サービスを受けるための組織構造、他職種と看護職との連携について、事例を通して理解する。質を担保し安全な看護ケアを継続して提供するために、組織およびチームのメンバーとして求められる基本的な能力を理解したうえで、看護業務スケジュールや自己目標の立案について体験的に学ぶ。さらに、専門職業人としての責任を理解し、働き続けるためのセルフマネジメントについて考察する。

到達目標

- 1.医療施設の組織構造と看護部門の位置づけについて説明できる。
- 2.病院理念や行動指針と、看護部理念や看護単位の目標との関連を説明できる。
- 3.看護ケアの質の保障するため、環境・物品・財務・人材・情報のマネジメントについて説明できる。
- 4.継続して安全に看護ケアを提供するため、看護チームとしての協働や日常業務のマネジメントについて説明できる。
- 5.看護師が働き続けることを目指したセルフマネジメントを説明できる。
- 6.医療制度と看護職に関連した法律について説明できる。

授業の方法

パワーポイントとハンドアウトを用いた講義と実践的な演習により進める。

ICT活用

出席確認や課題提出に、Google Classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

看護師として急性期病院での勤務経験を活かし授業を行う(坂東)。
 看護師・看護管理職として高度急性期病院での勤務経験を活かし授業を行う(水野)。

課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして、提出された課題に対し、授業内で解説する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業ガイダンス 【マネジメントとは何か】 看護管理学とは何か、看護ケアのマネジメントと看護サービスのマネジメントの違い、看護のマネジメントが行われる場、看護におけるマネジメントの考え方	教科書第1章(P2-15)を読み、内容を理解する(90分)	授業内容を自分のノートにまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第2回	【マネジメントに必要な知識と技術】 マネジメントに必要な基本的な知識として、マネジメントプロセスの考え方、経営資源(人、サービス、カネ、情報)PDCAサイクルについて説明する。組織を調整するために必要な技術として、リーダーシップやメンバーシップについて説明する。 小テスト①	教科書の第5章(P138-162)を読み、内容を理解する(90分)	小テストで間違った問題に関する事項を復習する(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第3回	組織として看護サービスを提供するためのシステムについて概説する。組織理念・行動目標、組織形態の種類と特徴、組織図に基づく分業、目標管理について説明する。看護部門における看護単位の考え方や看護提供体制についても説明する。	教科書第4章(P80-98)を読み、内容を理解する(90分)	授業内容を自分のノートにまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第4回	【看護サービスのマネジメント②】 医療施設の環境のマネジメントとして、施設の設備、患者の療養環境、看護師の作業環境について説明する。 小テスト②	教科書第4章(P112-119)を読み、内容を理解する(90分)	小テストで間違った問題に関する事項を復習する(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第5回	【看護サービスのマネジメント③-1】 物品(モノ)のマネジメントとして、院内の物流システム、医薬品や医療機器の管理、医療廃棄物の管理について説明する。財的資源(カネ)のマネジメントとして、医療保険制度や診療報酬の仕組み、医療機関の収益や費用、経営の指標について概説する。	教科書第4章(P96-109)第6章(P187-190)を読み、内容を理解する(90分)	授業内容を自分のノートにまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		

第6回	【看護サービスのマネジメント③-2】 病院内で取り扱われる情報のマネジメント、および組織のリスクマネジメントとして災害時のマネジメントについて説明する。また、医療におけるサービスの質の評価について説明する。 小テスト③	教科書第4章(P128-140)を読み、内容を理解する(90分)	小テストで間違った問題に関する事項について復習する(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第7回	【看護サービスのマネジメント④】 院内教育制度(集団研修とOJT)、クリニカルラダーなどのキャリア開発、病院における人材フロー、看護職員の労務管理、業務量のマネジメントについて説明する。	教科書第4章(P98-112)を読み、内容を理解する(90分)	授業内容を自分のノートにまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第8回	【看護職としてのセルフマネジメント①】 ゲストスピーカー:看護職に対するキャリア支援の実際 レポート課題①:自分のキャリアを考える	教科書第3章(P66-72)を読み、内容を理解する(90分)	レポート課題①を期限までに提出する(90分)
担当教員	水野 愛子		
第9回	【看護ケアのマネジメント①-1】 看護ケアのマネジメントプロセス、院内感染対策について概説する。また、看護の継続(勤務体制、病棟内での連携、外来と病棟の連携)、地域との連携として医療に関連する職種と連携し、他施設や介護サービスとの連携に向けた退院調整について説明する。	教科書第2章(P18-24,P38-41,P49-51)を読み、内容を理解する(90分)	授業内容を自分のノートにまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第10回	【看護ケアのマネジメント①-2】 ワーク:看護計画の理解 患者の基本情報、診療記録や看護計画から、その患者の病態をアセスメントし、計画されているケアの根拠を明確にすることを、事例を通して学ぶ。 ワーク課題①	看護計画を立案するプロセスについて復習する(90分)	ワーク課題①を期限までに提出する(90分)
担当教員	水野 愛子		

第11回	【看護ケアのマネジメント②-1】 複数の対象を担当する場合に必要とされる、日常業務のマネジメントについて説明する。優先順位の判断、タイムマネジメントについて学ぶ。	教科書第3章(P71-76)を読み、内容を理解する(90分)	授業内容を自分のノートにまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第12回	【看護ケアのマネジメント②-2】 ワーク:日常業務の組み立て 複数の患者を担当した場合の行動計画を立案し体験的に学習する。その日の病状の把握・患者のスケジュール・患者の要望から、優先順位を判断し、行動計画を立案する体験から業務の組み立て方を学ぶ。 ワーク課題②	これまでの実習で自分が行ってきた行動計画の立案方法について復習しておく(90分)	ワーク課題②を期限までに提出する(90分)
担当教員	水野 愛子		
第13回	【看護ケアのマネジメント③-1】 看護を提供する仕事の特徴としての感情労働や、ストレスに対するセルフマネジメントについて説明する。患者満足度と職員満足度、看護職の多様な働き方、ワークライフバランスについて説明する。	教科書第6章(P166-193)を読み、内容を理解する(90分)	授業内容を自分のノートにまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第14回	【看護ケアのマネジメント③-2】 ワーク:多重課題に直面した時、どのように対応するのか考える ワーク課題③	日常の場面で生じた多重課題に対し、自分がどのように対処しているのかについて振り返りしておく(90分)	ワーク課題③を期限までに提出する(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第15回	【看護を取り巻く社会状況と諸制度】 看護職に関連する法律、職業倫理、教育制度、医療制度について概説する。 小テスト④	教科書第6章(P170-22)第6章(P166-181)を読み、内容を理解する(90分)	小テストで間違った問題に関する事項について復習する(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内の小テスト各10%×4回=40%、レポート課題15%×1回=15%、ワーク課題各15%×3回=45%
その他	0	

教科書

系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践① / 上泉和子他 / 医学書院

参考文献

ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理 / 吉田千文他 / メディカ出版

履修条件・留意事項等

実習前の集中講座で2講連続で週2回となるため、休講・補講の連絡に注意し、授業スケジュールを確認すること。
看護実践マネジメント実習に関連するワークを行うため、欠席しないように体調を整えること。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 看護の統合と実践					
科目名		リスクマネジメント論				ナンバリング	4661
配当年次	3年	開講学期	2024年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	坂東 奈穂美、水野 愛子						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「看護の基礎となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている」に関連する科目である。とくに対象のもつ健康課題から生じる療養生活における危険に気づき、予防することを学ぶ科目である。各領域の「看護の展開」や「チーム医療概論」に関連する科目であり、各領域の「臨地看護学実習」や「看護マネジメント論」につながる科目である。

授業の概要

医療や看護において日常的に起こりうる可能性がある医療上のリスクを認識し、予防するために必要な行動と、医療安全に向けた組織体制について理解する。また、保健医療福祉における個人情報保護や守秘義務、倫理的配慮に基づいた情報管理について理解する

到達目標

1. 安全な医療環境の形成に向けて、医療事故に伴う看護職の法的責任について説明できる
2. 医療や看護を実践するうえで起こるリスク、およびその予防方法について説明できる。
3. 医療者自身におこるリスクについて説明できる。
4. 医療事故の予防に向けて、組織における医療安全対策について説明できる

授業の方法

PowerPointを用いた講義とワークによる演習を実施する。

ICT活用

Google Classroomにより出席の確認、課題の提出を行う。

実務経験のある教員の教育内容

看護師としての勤務経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
学生からの質問に対しWeb上での回答、もしくは授業内で解説する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【医療におけるリスク】 ヒューマンエラーと医療事故の関連、医療における看護師の法的責任について説明する。 コメントシート①	教科書の序章を読んでもくる(90分)	日常生活の中で、自分に起きているヒューマンエラーをまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第2回	【医療における安全対策の基本】 医療事故の防止に向けた考え方の基本、事故のとらえ方、安全対策の基本について説明する。 コメントシート②	教科書の第1章を読んでもくる(90分)	授業内容をノートにまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第3回	【診療の補助に関連するリスク】輸液ポンプ、シリンジポンプなど医療機器に関する事故、薬剤に関連する事故、チューブ管理に関する事故について説明する。 確認テスト①	教科書の第2章を読んでもくる(90分)	授業内容をノートにまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第4回	【療養上の世話に関連するリスク】転倒・転落、食事に関連する事故、入浴に関連する事故について説明する 確認テスト②	教科書の第3章を読んでもくる(90分)	授業内容をノートにまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第5回	【医療・看護における安全対策】 危険予知トレーニング(KYT)と医療事故の分析(事故発生時の対応、発生後の分析と評価)	事前に配布する資料を読んでもくる(90分)。	KYTに関するレポート課題①を期限までに提出する(90分)。
担当教員	水野 愛子		

第6回	【医療現場で共通して起こるリスク】患者間違い、多重課題の影響、コミュニケーションの重要性などについて説明する。また、在宅での療養中に起こりうる事故について説明する。 コメントシート③	教科書の第4章から第6章を読んでもくる(90分)。	自分のコミュニケーションの取り方の傾向や、多重課題に対する自己の対策をまとめておく(90分)。
担当教員	坂東 奈穂美		
第7回	【業務上のリスク】職業感染、薬剤や放射線の暴露、ハラスメントなど、医療者におこる事故について説明する。個人情報の取り扱い、情報に関する倫理、情報開示など、情報に関連するリスクについて説明する。 確認テスト③	教科書の第7章を読んでもくる(90分)	これまでの実習において、自分の実習記録の取り方について振り返る(90分)。
担当教員	坂東 奈穂美		
第8回	【組織的な安全対策】個人への対策としてワクチン接種や健康管理、および医療安全に向けた組織体制について説明する。 確認テスト④	教科書の第8章を読んでもくる(90分)。	医療安全に関するレポート課題②を期限までに提出する。(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	態度:コメントシート30%(各10点×3回=30点) 知識:確認テスト40%(各10点×4回=40点) 思考:レポート課題30%(KYTに関するレポート15点+医療安全に関するレポート15点)	
その他	0		
教科書			
医学書院「系統看護学講座 統合分野 医療安全(第5版)看護の統合と実践②」川村治子(著)			
参考文献			
必要時、授業内で提示する。			
履修条件・留意事項等			

毎回のよう授業内課題がありますので、欠席しないようにしてください。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 看護の統合と実践					
科目名		国際看護学				ナンバリング	4662
配当年次	4年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	榎本 常子						
授業の位置づけ							
<p>成人看護学概論、成人看護学援助論の知識をもとに、異文化における健康、保健、福祉について学習する科目である。ディプロマ・ポリシー「看護を実践する能力を高めるために必要な知識・技術を修得している。(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、「人間の生命や権利を尊重し、生活総合体としての人間を理解するため、幅広い知識と教養を身につけている。(知識・技術)」こととも関係する。</p>							
授業の概要							
<p>自然災害や戦争などで栄養失調や感染症に苦しむ地域がある一方で、慢性的な平和の中で肥満や生活習慣病が問題になっている国もある等、地球上の地域格差は拡大している。また、経済社会のグローバル化により、国際間の交流は、人・物ともに日常化し、国を超えて流行する感染症や環境汚染の広がりを防ぎ、健康の地域格差を解消するために国際的な連携や協力が益々重要になっている。そこで、本科目では、グローバルな視点を養うため、JICAやWHOなどの国際機関、NGO、個人がこれら諸問題にどう関わっているかを具体的事例に触れながら理解し、異文化における健康及び保健の価値観を身につける。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. グローバルヘルスにおける重要な概念について説明できる。 2. 国際社会における保健・医療・福祉の現状と課題について説明できる。 3. 国際保健医療分野における国際協力機関と仕組みについて説明できる。 4. 異文化理解の重要性を理解し、国際保健について述べるができる。 5. 多様な文化的背景を持つ人々の、生活の支援に必要な看護の役割について説明できる。 							
授業の方法							
<p>パワーポイントと配信した講義資料、視聴覚メディア(DVD)を用いて講義形式ですすめる。 ミニレポート、理解度確認テストを行う。 コメントシートを用いて講義内容についての振り返りを行い、その内容をクラスで共有する。</p>							
ICT活用							
<p>GoogleClassroomを用いて双方向授業を取り入れる。</p>							
実務経験のある教員の教育内容							
<p>国境なき医師団における海外派遣活動での経験を活かし、実践をふまえた内容を説明する。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
理解度確認テストの解説を行う。 コメントシートの内容をクラスで共有しフィードバックする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	コースガイド 国際保健医療における主な概念について学び、国際社会における保健・医療・福祉の現状と課題について理解する。	本またはインターネットを通じて国際保健医療について調べる(90分)	講義資料をもとに復習する(90分)
担当教員			
第2回	国際保健医療分野における国際協力機関と仕組みとして、国際機関とその役割、具体的な活動について理解する。世界保健機関(WHO)	インターネットを通じてWHOについて調べる(90分)	講義資料をもとに復習する(90分)
担当教員			
第3回	国際保健医療分野における国際協力機関と仕組みとして、国際機関とその役割、具体的な活動について理解する。国連児童基金(UNICEF), 国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)	インターネットを通じてUNICEF, UNHCRについて調べる(90分)	講義資料をもとに復習する(90分)
担当教員			
第4回	理解度確認テスト1 国際保健医療分野における国際協力機関と仕組みとして、政府機関とその役割について理解する。国際協力機構(JICA), 政府開発援助(ODA)	インターネットを通じてJICA, ODAについて調べる(90分)	講義資料をもとに復習する(90分)
担当教員			
第5回	国際協力機構(JICA), 政府開発援助(ODA)における具体的な活動について理解する。 海外における看護活動に関するゲストスピーカーの講話	インターネットを通じてJICA, ODAの具体的な活動事例について調べる(90分)	講義資料をもとに復習する(90分)
担当教員			

第6回	国際保健医療分野における国際協力機関と仕組みとして、非政府組織(NGO)とその役割、具体的な活動について理解する。国境なき医師団、世界の医療団	インターネットを通じてNGO、国境なき医師団、世界の医療団について調べる(90分)	講義資料をもとに復習する(90分)
担当教員			
第7回	国際保健医療分野における国際協力機関と仕組みとして、国際赤十字・赤新月運動とその役割、具体的な活動について理解する。	インターネットを通じて国際赤十字・赤新月運動について調べる(90分)	講義資料をもとに復習する(90分)
担当教員			
第8回	理解度確認テスト2 多様な文化的背景を持つ人々への支援と健康課題、看護師の役割と責任について理解する。 インターネットを通じて多様な文化的背景について調べ、看護師の役割について考える(90分) 理解度確認テスト3	インターネットを通じて多様な文化的背景について調べ、看護師の役割について考える(90分)	講義資料をもとに復習する(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート、理解度確認テスト、リフレクションシートへの取り組みにより評価する。	
その他	0		
教科書			
なし			
参考文献			
国際看護学入門 第2版／日本国際看護学会編／医学書院 国際化と看護：日本と世界で実践するグローバルな看護をめざして／大橋一友他／メディカ出版			
履修条件・留意事項等			

ミニレポートの提出遅延や未提出は減点となる。
評価対象物への不正行為は、D判定となる場合がある。

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 看護の統合と実践					
科目名		災害看護学				ナンバリング	4664
配当年次	4年	開講学期	2024年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	水野 愛子						

授業の位置づけ

災害に対する必要な知識、及び、医療者の対応の基本を修得する。「病態・治療学Ⅰ」、「病態・治療学Ⅱ」、「病態・治療学Ⅲ」、「成人看護援助論」の実地での応用となる。ディプロマポリシーとの関連は災害時における看護を実践する能力を高めるために必要な知識・技術を修得すること及び保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、協働して活動する能力を高めることを目的とする。

授業の概要

災害看護を理解するために必要な知識を学び、災害時に必須の技術を学ぶと共に、災害発生時に展開される看護の実際を学ぶ。

到達目標

- 1) 災害看護の定義について述べるができる。
- 2) 災害医療の歴史について述べるができる。
- 3) 災害医療とは何かを述べるができる。
- 4) 災害サイクルと各期の特徴を述べるができる。
- 5) 災害時の指揮命令系の考え方と実際について述べるができる。
- 6) 災害時の安全管理について述べるができる。
- 7) 災害サイクルの時期による医療・看護支援について述べるができる。
- 8) 被災者の生活と場に応じた医療・看護支援について述べるができる。

授業の方法

パワーポイント、資料により講義形式にて実施する。

ICT活用

無し

実務経験のある教員の教育内容

科目担当は病院勤務の経験がある。
ゲストスピーカーはEzo看に属し、災害看護について経験豊富である。

課題に対するフィードバックの方法			
提出した課題について、コメントを記載し、フィードバックを行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	災害の定義 災害医療の歴史 災害医療	・テキスト該当箇所を読む ・国内外で起きている災害について何かがあるか挙げる ・災害における看護とは何か考える (90分)	講義資料、テキストを再度読む。 (90分)
担当教員	水野 愛子		
第2回	災害サイクルと各期の特徴 災害サイクル各期に求められる対応 災害医療の対象	テキスト該当する箇所を読む (90分)	講義資料、テキストを再度読む (90分)
担当教員	水野 愛子		
第3回	災害時の指揮命令系の考え方及び実際 災害時の安全管理 ゲストスピーカー 田中かおり	テキスト該当箇所を読む (90分)	講義資料、テキストを再度読む (90分)
担当教員	水野 愛子		
第4回	災害時の指揮命令系の考え方及び実際 災害時の安全管理 ゲストスピーカー 田中かおり	テキスト該当箇所を読む (90分)	講義資料、テキストを再度読む (90分)
担当教員	水野 愛子		
第5回	災害サイクルの時期による医療・看護支援 被災者の生活と場に応じた医療・看護支援 ゲストスピーカー 太田尚伸	テキスト該当箇所を読む (90分)	講義資料、テキストを再度読む (90分)
担当教員	水野 愛子		

第6回	災害サイクルの時期による医療・看護支援 被災者の生活と場に応じた医療・看護支援 ゲストスピーカー 太田尚伸	テキスト該当箇所を読む (90分)	講義資料、テキストを再度読む (90分)
担当教員	水野 愛子		
第7回	災害時の指揮命令系の考え方及び実際 災害時の安全管理 災害時の看護についてグループワーク ゲストスピーカー 田中かおり	テキスト該当箇所を読む (90分)	講義資料、テキストを再度読む (90分)
担当教員	水野 愛子		
第8回	災害時の指揮命令系の考え方及び実際 災害時の安全管理 災害時の看護についてグループワーク ゲストスピーカー 田中かおり	テキスト該当箇所を読む (90分)	講義資料、テキストを再度読む (90分)
担当教員	水野 愛子		
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	国家試験問題より 解説書作成 50% レポート50%	
その他	0		
教科書			
三澤寿美、太田晴美編(2018). Basic&Practice 看護学テキスト 統合と実践—災害看護学 寄り添う, つながる, 備える, 学研.			
参考文献			
酒井明子, 菊池志津子(2018). 看護学テキストNice 災害看護 第3版, 南江堂.			
履修条件・留意事項等			

評価対象物において代筆や盗用等の不正行為があった場合にはD判定となる場合があります

備考欄

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		基礎看護学実習Ⅱ《2022カリ》				ナンバリング	3802
配当年次	2年	開講学期	2024年度後期	区分	実習	単位	2
担当教員	藤長 すが子、木口 幸子、鹿内 あずさ、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子						

授業の位置づけ

本科目は、看護学科のディプロマ・ポリシーの中で特に「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている。(思考・判断・表現)」、「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている。(知識・技能)」、「学習への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている。(関心・意欲・態度)」に関連している。人々の健康問題を解決するための柔軟な思考力と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、協働しながら援助を実践する能力を身につけるための科目である。さらに、これまで学修した科目を関連づけ、基礎看護学全般の学修の集大成として位置づけられる。

授業の概要

看護をするための基本的な態度、すなわち人間尊重の立場で人と接するという看護の基本的態度を養うとともに、コミュニケーションや観察を通じて、看護の対象である人間を理解する。また、看護過程を用いて、受け持ち患者の健康問題を日常生活からアセスメントし、看護実践の科学性と個別性に応じた援助を提供できる。

到達目標

1. 対象者とのコミュニケーションや看護記録など多様な資源を活用し、情報を収集することができる。
2. 対象者の健康状態を理解し、看護過程を通して個別的な援助を考えることができる。
3. 対象者の必要としている看護ケアを安全・安楽に実施し、評価することができる。
4. 保健医療チームにおける看護の役割を知ることができる。
5. 看護者としての基本的態度を身につけることができる。

授業の方法

1. 実習開始前ガイダンス
 2. 実習施設での学修は、臨地実習指導者と実習担当教員からの助言・指導を受け展開する。
 3. 実習記録や実習後レポート、カンファレンスにより学修を深める。
- 他、詳細については基礎看護学実習Ⅱ要項を参照

ICT活用

Google class roomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

看護師としての病院勤務経験を活かし、さらに学内で学んだことを関連づけながら、実践の場で指導する。

課題に対するフィードバックの方法			
提出された課題については、口頭または文書等でコメントを返却する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	詳細については基礎看護学実習Ⅱ要項を参照	ガイダンス時に指示する。	ガイダンス時に指示する。
担当教員	木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第2回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第3回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第4回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第5回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第6回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第7回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第8回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第9回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第10回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		

第11回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第12回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第13回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第14回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
第15回	なし	なし	なし
担当教員	木口 幸子、鹿内 あずさ、藤長 すが子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	詳細は基礎看護学実習Ⅱ要項を参照
その他	0	
教科書		
1. 深井喜代子編(2021). 新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ メヂカルフレンド社 2. 渡邊トシ子編(2011). ヘンダーソン・ゴードンに考えに基づく実践看護アセスメント同一事例による比較, 第3版. ヌーベルヒロカ 3. 山岸節子編(2000). 自分で描ける病態関連図, 照林社		
参考文献		
その都度紹介する。		
履修条件・留意事項等		
評価対象物において、代筆や盗用などの不正行為があった場合はD判定となる可能性がある。		
備考欄		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		成人看護学実習				ナンバリング	4810
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	実習	単位	4
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介						

授業の位置づけ

本科目は成人期にある対象者に必要な看護の実際を知るとともに既習の知識・技術・態度の統合を図り看護実践能力を養うことをねらう。成人看護学実習では、成人期以降にあり健康障害を生じ入院治療を必要とする対象者の看護過程を展開し実践的に学ぶ。専門基礎科目のすべてと連携し、「看護実践マネジメント実習」「看護研究Ⅱ」に繋がる。DP「看護の対象となる人々とコミュニケーション能力を活用して円滑な人間関係を構築し対象理解を深める能力を身につけている(知識・技能)」「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている。(思考・判断・表現)」「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている。(知識・技術)」ことと関係がある科目である。

授業の概要

成人看護学実習では、成人期以降にあり、健康障害を生じ入院治療を必要とする対象者の看護過程を実践的に展開する。急性の健康障害、周術期、慢性的な経過をたどる健康障害を持つ対象へ、症状緩和並びに健康危機状況から回復して健康を維持・増進できるようなセルフマネジメントの支援に向けた援助を習得する。

到達目標

1. 対象を統合的に理解し、症状緩和並びに健康危機状況から回復し健康を維持・増進するための看護計画を立案できる
2. 対象が症状緩和並びに健康危機状態から回復して健康を維持・増進するためのセルフマネジメント支援に向けた看護ケアを実施・評価できる
3. 実践した看護を振り返り、根拠に基づき説明することができる
4. チームアプローチにおける看護師及び多職種役割を理解し、対象を中心とした連携と協働のあり方を説明できる
5. 学生としての役割・責務を果たすことができる

授業の方法

実習開始前にオリエンテーションを受けて、事前の自己学習として実習に必要な知識と技術を整理する
実習施設内の学習は、患者を受け持ち臨床指導者と実習担当教員からの助言・指導のもとで看護過程を展開する
受け持った患者への看護の理解を深めるために、実習記録やレポートの作成とカンファレンスを行う

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

看護実践経験のある教員が実習指導を行う

課題に対するフィードバックの方法			
提出された課題に対しては、面談による指導もしくはコメントを返す			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	詳細については成人看護学実習要項を参照	オリエンテーション時に提示する	オリエンテーション時に提示する
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第2回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第3回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第4回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第5回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第6回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第7回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第8回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第9回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第10回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		

第11回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第12回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第13回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第14回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
第15回	なし	なし	なし
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子、高橋 洋介		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	実習要項の評価表を参照のこと
その他	0	なし
教科書		
看護病態治療学、基礎看護学、成人看護学の基礎・成人看護学の展開で使用した教科書を活用する		
参考文献		
ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第6版 ノーヴェルヒロカワ NANDA-I 看護診断定義と分類2021-2023 原書第12版 医学書院 疾病別看護過程 第4版 医学書院 根拠がわかる疾患別看護過程 改訂第4版 南江堂		
履修条件・留意事項等		
実習の履修要件をシラバスで確認すること 実習前オリエンテーションを含め、無断欠席は減点とする 評価対象物において不正行為が認められた場合は、D判定になることがある		
備考欄		
(備考欄)		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		老年看護学実習				ナンバリング	4814
配当年次	4年	開講学期	2024年度前期	区分	実習	単位	4
担当教員	辻 幸美、高岡 哲子、初見 温子						

授業の位置づけ

本科目は特にDP「対象に必要な看護ケアについて科学的根拠に基づく説明ができ、看護ケアを的確に実施することができる」「状況を的確に判断し、その状況に応じたコミュニケーションがとれる」「医療の進歩、健康増進に関する情報への関心を常に維持し、実践を通して自らの成長を促すことができる」「自己学習・自己評価をし続ける行動や態度をとることができる」に関連した老年看護学領域に位置づけられている。老年看護学領域に関連した全ての学習の集大成として、今まで得た知識を統合し、高齢者を対象とした看護を実践的に学ぶ。

授業の概要

本実習では、高齢者を対象とした看護過程を実践し、自らの援助や既存の理論、科学的根拠について検証する。学習内容は、高齢者1事例を受け持ち、看護過程の展開をすること、そして、自らが行った看護について考察することである。本実習は、老年看護学の学習を統合する機会である。よって、既習学習との関連を意識し、看護を論理的に検証することを目指して学習する。

到達目標

1. 高齢者の尊厳を守る意味を考察できる。
2. 高齢者を取り巻く生活環境(家族を含む)を考察できる。
3. 認知症高齢者の生活からその人らしい生活支援を考察できる。
4. 看護の複雑な場面や関係性の中で経験した看護実践をふりかえり、自らの看護観や人間観を精選する。
5. 自らの看護的思考をわかりやすく他者に伝える。

授業の方法

詳細については老年看護学実習要項を参照

ICT活用

Google classroomの使用

実務経験のある教員の教育内容

高岡は総合的な病院で、辻は脳神経外科系病院で、初見は循環器病棟、訪問看護ステーションでの勤務経験を活用して実習指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
提出された記録は全て確認して返却する。また、必要時、個人指導を行なう。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	詳細については老年看護学実習実習要項を参照	なし	なし
担当教員			
第2回	なし	なし	なし
担当教員			
第3回	なし	なし	なし
担当教員			
第4回	なし	なし	なし
担当教員			
第5回	なし	なし	なし
担当教員			

第6回	なし	なし	なし
担当教員			
第7回	なし	なし	なし
担当教員			
第8回	なし	なし	なし
担当教員			
第9回	なし	なし	なし
担当教員			
第10回	なし	なし	なし
担当教員			

第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			
第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0	なし
その他	100	詳細については老年看護学実習実習要項を参照
教科書		
①北川公子ほか/系統看護学講座老年看護学/医学書院 ②上田敏ほか/ICFの理解と活用 /きょうされん ③山田律子ほか/生活機能から見た老年看護過程＋病態・生活機能関連図/医学書院		
参考文献		
必要時提示する。		
履修条件・留意事項等		
オリエンテーションで提示する。 提出物の類似、代筆、虚偽の報告などは全て不正とみなす。		
備考欄		

2024 北海道文教大学 シラバス

2024 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		小児看護学実習				ナンバリング	4816
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	実習	単位	2
担当教員	横山 佳世、菅原 美保						
授業の位置づけ							
<p>本科目は看護学科のディプロマポリシー「看護の対象となる人々とコミュニケーション能力を活用して円滑な関係を構築し、対象理解を深める能力を身につけている」「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている」「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている」と特に関係する。小児期にある対象に対し看護過程を展開し、看護実践能力を養う。</p> <p>「小児看護学の基礎」「看護病態治療学Ⅱ」「小児看護学の展開Ⅰ・Ⅱ」で学んだ知識・技術を統合し、小児看護に必要な基本的知識、技術、態度と看護実践の基礎的能力を修得するための科目である。</p>							
授業の概要							
<p>様々な健康状態の小児とその家族とのコミュニケーションを通して対象理解を深める。さらに、小児を取り巻く環境が小児の成長・発達にどのような影響を与えるのか学習し、状況に応じた生活支援および健康の回復、維持・増進をはかるために必要な看護を学ぶ。</p>							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康問題や入院が子どもと家族に及ぼす影響について説明でき、子どもの発達段階と健康レベルに応じた看護過程が展開できる 2. 健康問題をもつ子どもと家族の個別性を考慮した安全で安楽な看護が実践できる 3. 受け持ち患児と家族に展開した看護について説明できる 4. 集団保育を通して健康な乳幼児の成長・発達促進に必要な支援について説明できる 5. 障害をもつ小児への教育的支援について理解できる 6. 看護学生として、責任のある行動と役割を果たすことができる 							
授業の方法							
<p>実習前はオリエンテーションで提示した学修を行い実習に臨む。実習は病棟、保育園および学内で行う。詳細は小児看護学実習要項を参照。小児看護学臨地実習要項に沿って学習を進めるが、状況によっては変更になることがある。その場合は、事前に周知する。</p>							
ICT活用							
<p>双方型授業（必要時Google meetを利用したオンラインカンファレンス、看護過程へのフィードバック） 自主学習支援（eラーニング「今日の臨床サポート、ナーシング・スキル」の活用、Google classroomを利用したレポート・課題提出、関連資料提供）</p>							
実務経験のある教員の教育内容							
<p>NICUや小児病棟で看護師として勤務した経験を活かし、小児とその家族への看護援助技術と看護過程の展開について指導を行う。</p>							

課題に対するフィードバックの方法			
適宜、看護援助に同行し指導を行う。また、記載された実習記録物には指導コメントの記載とともに口頭による指導も行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回			
担当教員			
第2回			
担当教員			
第3回			
担当教員			
第4回			
担当教員			
第5回			
担当教員			

第6回			
担当教員			
第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			
第10回			
担当教員			

第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			
第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	実習目標の到達度、実習記録とレポート、事前学習課題、実習態度により総合的に評価する。
その他	0	
教科書		
小児看護学の基礎、小児看護学の展開Ⅰ・Ⅱ、看護病態治療学Ⅱで使用した教科書に準ずる。		
参考文献		
発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図第4版／浅野みどり他／医学書院 病気がみえる vol.15 小児科/医療情報科学研究所編/メディックメディア 他、適宜提示する。		
履修条件・留意事項等		
本科目を履修するには「小児看護学の展開Ⅱ」の科目の単位取得が必要である。 評価対象物に不正行為が認められた場合はD判定となることもある		
備考欄		
体調管理を行い、既習の内容を復習の上、実習に臨むこと。		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		母性看護学実習				ナンバリング	4818
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	実習	単位	2
担当教員	多賀 昌江、小堀 ゆかり、福士 晴佳						

授業の位置づけ

本学科のDP「看護の対象となる人々とコミュニケーション能力を活用して円滑な関係を構築し、対象理解を深める能力を身につけている」、「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている」、「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている」、「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解できている」と関連した科目である。また、すべてのDPと関係している。これまで履修した「母性看護学の基礎」「母性看護学の展開Ⅰ」「母性看護学の展開Ⅱ」の総まとめとなる。母性看護に必要な基本的知識、技術、態度と看護実践の基礎的能力を修得するための科目である。

授業の概要

妊娠・分娩・産褥各期の母体と胎児または新生児の生理的変化や心理・社会的特徴を理解する。また、母子及びその家族に対する看護の実践をとおり、セルフケア能力や親役割の獲得と退院後の生活に向けた支援など周産期看護を学ぶ。

到達目標

1. 妊娠・分娩・産褥各期における女性の生理的・心理的・社会的な変化の実際を学び、必要な看護を実践できる。
2. 新生児期にある対象の生理的変化を理解し、健康状態についてアセスメントすることができる。
3. 周産期にある母子に必要な看護援助を考えることができる。
4. 母親と家族の妊娠・出産・子育てにおける心理的・社会的変化について説明することができる。
5. 子育ての現状と地域で行われている子育て支援の実際について挙げるができる。
6. 周産期にある母子に対して安全に配慮した行動をとることができる。

授業の方法

実習では、実習オリエンテーション、実技実習、子育て支援実習、助産院実習、学内実習、病棟実習、見学実習と実習報告会を行う。詳細はオリエンテーションにて説明する。

ICT活用

Google Classroomを用いて、実習に向けた資料の提示を行う。
Google Classroomの課題提出機能を用いて、実習レポートと課題の提出および実習記録のフィードバックを行う。

実務経験のある教員の教育内容

科目担当教員は全員助産師である。助産師として、産科や周産期母子医療センター、NICUなどに10年前後勤務した経験があり、臨床現場における周産期ケアと看護の実際について豊富な知識を有している。この臨床経験を活かし、母子とその家族の看護について実践的な実習指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
実習記録は、実習期間中に随時コメントをフィードバックする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	実習方法と実習スケジュールは母性看護学実習要項を参照のこと。	関連授業の配布資料を整理し、ファイリングする。実習に必要な知識を理解しておく。学習ノートは提出期日までに記載する。	実習記録のまとめと各実習の実習レポート・課題は期日までに作成して提出すること。
担当教員	小堀 ゆかり、多賀 昌江、福士 晴佳		
第2回			
担当教員			
第3回			
担当教員			
第4回			
担当教員			
第5回			
担当教員			

第6回			
担当教員			
第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			
第10回			
担当教員			

第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			
第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>実習目標の到達度、実習記録およびレポートと課題から総合的に評価する。 実習評価基準は、実習要項を参照のこと。</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>母性看護学Ⅱ マタニティサイクル 大平光子編 南江堂 母性・小児看護ぜんぶガイド第2版 古川亮子編 照林社</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>根拠がわかる母性看護過程 中村幸代 南江堂 今日の臨床サポート ELSEVIER Nursing Skills ELSEVIER</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・履修要件は学生便覧を参照のこと。実習記録およびレポートに不正行為が認められた場合はD判定となることがある。 ・必要な抗体価検査の実施とワクチン接種状況について自己管理し、確認しておくこと。 		
<p>備考欄</p>		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		精神看護学実習				ナンバリング	4820
配当年次	4年	開講学期	2024年度前期	区分	実習	単位	2
担当教員		井上 仁美、藤村 恵理子					

授業の位置づけ

精神障害をもつ人の理解を深め、看護実践をとおして、治療場面や療養生活の過程における看護の役割を理解し、基礎的な看護を実践する能力を養う。精神看護学概論、精神看護学健康障害論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱと関連し、これらの科目を履修していることが条件であり、これら科目における学習の総まとめの科目である。DPの「対象に必要な看護ケアについて科学的根拠に基づき説明ができ、看護ケアを的確に実施することができる」「対象の健康課題を専門的知識と技術を基礎に、科学的思考力・判断力により、その解決に向けて行動することができる」「状況を的確に判断し、その状況に応じたコミュニケーションがとれる」と特に関係がある科目である。また、「人間の生命や権利を尊重し、生活統合体としての人間を理解するため、幅広い知識と教養を身につけている」「看護を実践する能力を高めるために必要な知識・技術を修得している」「保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、協働して活動する能力を高めることができる」「医療の進歩、健康増進に関する情報への関心を常に維持し、実践を通して自らの成長を促すことができる」「自己学習・自己評価をし行動や態度をとることができる」と関係する科目である。

授業の概要

精神科病棟で一人の患者を受け持ち、セルフケアについてのアセスメントを行うことで生活者としての理解を深め、その人が望む生活や生き方が実現できるような支援を考え実施・評価する。オレム・アンダーウッドのモデルを用いて精神障害をもつ人を多面的に理解し看護過程を展開する。精神障害をもつ人を一人の人として先入観なく接し、生きづらさに共感し寄り添うことで看護者として誠実で真摯な態度やあり方を学ぶ。またプロセスレコードを用いて援助的人間関係の技法を習得する。

到達目標

1. 精神障害をもつ人を全人的に理解したうえで対象者について述べるができる。
2. 援助的に人間関係を築き発展させることができる。
3. セルフケア能力に焦点を当てたアセスメントを行い、看護過程を展開することができる。
4. 精神障害をもつ人やその家族に対する、療養生活の支援方法、リハビリテーション活動 の実際を知り、多職種間の協働関係における看護者の役割・機能について自分の考えを述べるができる。
5. 学生としての役割および責務を果たす言動をとることができる。

授業の方法

精神看護学臨地実習要項に沿って学習を進める。
実習中にカンファレンスを実施し、積極的にディスカッションを行いながら、自身の考えを発言し自己開示をおこなう。
実習中または最後に学生によるプレゼンテーションを行い学びを共有する。
感染状況によっては臨地での実習が学内または遠隔に変更になることがある。その場合は、事前にお知らせする。

ICT活用

Google Classroomを随時使用して学習を進める。

実務経験のある教員の教育内容

本科目は精神保健医療において看護師の実務経験がある教員が担当する。

課題に対するフィードバックの方法			
毎日の実習記録および看護過程の記録の指導は、提出後にそのつどコメントを教員が返し、カンファレンスの場では互いの議論をとおして、随時フィードバックを行う。また、臨地実習終了後に教員と評価面接を行い、実施および評価についてフィードバックする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第2回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第3回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第4回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第5回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		

第6回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第7回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第8回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第9回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第10回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		

第11回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第12回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第13回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第14回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
第15回	精神看護学実習要項参照		
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	試験は実施しない。	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>精神看護学実習要項を参照すること。 出席日数の3分の1以上の欠席および遅刻・早退がある場合は評価の対象とならないことがある。 実習記録物の提出は指示した期限内に提出していることが必要である。 評価基準は実習目標の達成度(実習評価表)、実習記録、実習態度などから総合的に担当教員が評価する。</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>なし。</p>

教科書

新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論／精神保健 第5版
新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 第5版

参考文献

宇佐美しおり 鈴木啓子 パトリシア・アンダーウッド:オレムのセルフケアモデル 事例を用いた看護過程の展開 第2版 ヌーヴェルヒロカワ
関連科目で使用したレジュメ等を活用する。そのほか適時、各自で文献を検索するなどして活用することが望ましい。

履修条件・留意事項等

精神看護学実習を履修するのに必要なすべての単位を修得していること。
事前に行われる実習オリエンテーションでの説明や注意事項をよく理解し、実習要項を熟読して臨地実習に臨んでください。
臨地実習は患者様はじめ、実習指導者や多くの方々の協力があつて行うことができます。
欠席や遅刻・早退をすると患者様は非常に心配されたり自責感をもつことがあります。体調管理に注意し、実習に専念できるよう準備してください。

備考欄

--

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		地域・在宅看護論実習				ナンバリング	4822
配当年次	3年	開講学期	2024年度後期	区分	実習	単位	2
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真						

授業の位置づけ

ディプロマポリシー「社会の一員としての責任を有し、専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力を身につけている。」「看護の対象となる人々とコミュニケーション能力を活用して円滑な関係を構築し、対象理解を深める能力を身につけている。」「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている。」「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている。」「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解できている。」「学習への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている。」に関連する科目である。

授業の概要

看護の基盤となる問題探究能力と問題解決能力を活用して、看護過程の展開に必要な基本的な能力を養うため、地域における様々な健康レベルにある人々(疾病や障がいを持つ人とその家族等)に対して、看護援助を展開するために必要な知識と基本的技術、及び、地域で生活する人々に対する在宅ケアサービスや在宅ケアシステムがどのように活用されているかを看護援助の実践の中から学ぶ。

到達目標

- 1.在宅療養者とその家族への看護を理解できる。
 - 1)在宅療養者(以下、療養者)及び家族の特性を健康レベル、発達段階、生活背景から理解する。
 - 2)療養者、および、家族の健康状態や生活状況から看護上の課題を明らかにできる。
 - 3)療養者、および、家族に必要な看護援助を考え、看護計画を立案できる。
 - 4)立案した看護計画をもとに実施し、評価できる。
- 2.地域の人々の生活を支援する社会資源とその活用方法を理解できる。
 - 1)療養者が利用している社会資源の内容について理解できる。
 - 2)療養者に必要な社会資源について理解できる。
 - 3)訪問看護の役割と機能について理解できる。
 - 4)地域包括支援センターの役割や機能について理解できる。

授業の方法

臨地実習(訪問看護ステーション / 地域包括支援センター / 子ども発達支援センターにおいて、在宅看護の実際、地域で生活する人々を支えるための連携を学ぶ /)、学内実習(実習オリエンテーション、学内演習、学内での報告会による学びの共有とまとめ)を行う。

ICT活用

視聴覚教材を用いて、初日の学内日に訪問看護の実際について、イメージを促進する。

実務経験のある教員の教育内容

看護師・保健師の国家資格をもち、医療機関・訪問看護ステーション・介護保険事業所での実務経験を活用して指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
実習中、および、実習最終日に面接によりフィードバックを行います。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	詳細は実習要項を参照すること		
担当教員			
第2回			
担当教員			
第3回			
担当教員			
第4回			
担当教員			
第5回			
担当教員			

第6回			
担当教員			
第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			
第10回			
担当教員			

第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			
第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>学習状況と態度、毎日の記録内容、レポートから総合的に評価する。評価物に不正行為があった場合は、D判定となることがある。</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>特になし。</p>
<p>教科書</p>		
<p>1年次・2年次・3年次で使用した教科書を用いる。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>実習開始時に紹介する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>本科目を履修するには、「在宅看護概論」「在宅看護・介護システム論」「家族看護学」「在宅看護援助論Ⅰ」「在宅看護援助論Ⅱ」の科目の単位取得が必要である。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p>体調管理を行い、既習の内容を復習して臨んでください。</p>		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		在宅看護学実習				ナンバリング	
配当年次	4年	開講学期	2024年度前期	区分	実習	単位	2
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真						

授業の位置づけ

ディプロマポリシー「看護を实践する能力を高めるために必要な知識・技術を修得している【知識・技能】」「保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、協働して活動する能力を高めることができる【知識・技能】」「状況を的確に判断し、その状況に応じたコミュニケーションがとれる【思考・判断・表現】」と関連し、在宅における在宅における疾病や障害を持つ人々とその家族に対して看護援助を展開するために必要な知識と基本的技術を習得する科目である。既習の在宅看護学概論・地域看護学概論・地域包括ケアシステム論・家族看護学・在宅看護学援助論Ⅰ・在宅看護学援助論Ⅱと関連し、看護援助の実践の中から学ぶ科目である。

授業の概要

在宅における疾病や障害を持つ人々とその家族に対して、看護援助を展開するために必要な知識と基本的技術を習得し、地域で生活する人々に対する在宅ケアサービスや在宅ケアシステムがどのように活用されているのかについて、看護援助の実践の中から学ぶ。

到達目標

- 1.在宅療養者とその家族への看護を理解できる。
 - 1)在宅療養者(以下、療養者)及び家族の特性を健康レベル、発達段階、生活背景から理解する。
 - 2)療養者、および、家族の健康状態や生活状況から看護上の課題を明らかにし、援助計画を立案・実施・評価する。
- 2.地域の人々の生活を支援する社会資源とその活用方法を理解できる。
 - 1)対象者が利用している社会資源の内容について説明できる。
 - 2)対象者に必要な社会資源について説明できる。
 - 3)在宅療養生活を支える保健・医療・福祉の多職種が協働する意義を説明できる。
 - 4)対象者及び家族の健康問題解決のために行われている関係機関との連携方法を説明できる。

授業の方法

臨地実習(訪問看護ステーションをはじめとする在宅看護機関において、訪問看護師に同行し、在宅看護の実際を学ぶ)、学内実習(実習オリエンテーション、学内演習、学内での報告会による学びの共有とまとめ)を行う。

ICT活用

視聴覚教材を用いて、初日の学内日に訪問看護の実際について、イメージを促進する。

実務経験のある教員の教育内容

看護師・保健師の国家資格をもち、医療機関・訪問看護ステーション・介護保険事業所での実務経験を活用して指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
実習中、および、実習最終日に面接によりフィードバックを行います。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	詳細は実習要項を参照すること		
担当教員			
第2回			
担当教員			
第3回			
担当教員			
第4回			
担当教員			
第5回			
担当教員			

第6回			
担当教員			
第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			
第10回			
担当教員			

第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			
第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>学習状況と態度、毎日の記録内容、レポートから総合的に評価する。評価物に不正行為があった場合は、D判定となることがある。</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	<p>特になし。</p>
<p>教科書</p>		
<p>1年次・2年次・3年次で使用した教科書を用いる。</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>実習開始時に紹介する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>本科目を履修するには、「在宅看護概論」「在宅看護・介護システム論」「家族看護学」「在宅看護援助論Ⅰ」「在宅看護援助論Ⅱ」の科目の単位取得が必要である。</p>		
<p>備考欄</p>		
<p>体調管理を行い、既習の内容を復習して臨んでください。</p>		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		地域フィールド実習《2022カリ》				ナンバリング	4826
配当年次	2年	開講学期	2024年度後期	区分	実習	単位	2
担当教員	高岡 哲子、辻 幸美、初見 温子						

授業の位置づけ

本科目は臨地実習に帰属する「臨地実習によって看護実践能力を磨く」科目である。ディプロマポリシーの「社会の一員としての責任を有し、専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力を身につけている」「看護の対象となる人々とコミュニケーション能力を活用して円滑な関係を構築し、対象理解を深める能力を身につけている」につながる。

授業の概要

地域にある暮らしの保健室を中心とした市民が相談に向かう場や暮らしの場、生活(食生活・衣生活等)に欠かせない購買行動の場に出向き、様々な年齢・健康レベルにある対象者との関わり、支援する専門職との関わりを通じて、対象者、及び、地域の特性に応じた看護の必要性を理解すると共に人間関係を形成するコミュニケーションについて学ぶ。

到達目標

1. 地域で暮らす人々が理解できる。
2. 様々な発達段階や健康レベルにある人々を支援する専門職の役割が説明できる。
3. 対象者及び地域の健康課題を解決するための計画を立案することができる。
4. 地域で暮らす人々の健康の重要性や、地域における看護師の役割が理解することができる。
5. 対象に合わせたコミュニケーションが実践できる。

授業の方法

詳細については地域フィールド実習要項を参照

ICT活用

Google classroomの使用

実務経験のある教員の教育内容

高岡は総合的な病院で、辻は脳神経外科系病院で、初見は循環器病棟と訪問看護ステーションでの勤務経験を活用して実習指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
提出された記録は全て確認して返却する。また、必要時、個人指導を行なう。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	詳細については地域フィールド実習要項を参照	なし	なし
担当教員			
第2回	なし	なし	なし
担当教員			
第3回	なし	なし	なし
担当教員			
第4回	なし	なし	なし
担当教員			
第5回	なし	なし	なし
担当教員			

第6回	なし	なし	なし
担当教員			
第7回	なし	なし	なし
担当教員			
第8回	なし	なし	なし
担当教員			
第9回	なし	なし	なし
担当教員			
第10回	なし	なし	なし
担当教員			

第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			
第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0	なし
その他	100	詳細については地域フィールド実習要項を参照
教科書		
なし		
参考文献		
必要時提示する。		
履修条件・留意事項等		
オリエンテーションで提示する。		
備考欄		

2024 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		看護実践マネジメント実習				ナンバリング	4824
配当年次	4年	開講学期	2024年度前期	区分	実習	単位	2
担当教員	坂東 奈穂美、水野 愛子						

授業の位置づけ

看護学科のディプロマポリシーである「状況を的確に判断し、その状況に応じたコミュニケーションをとりながら、「対象の健康課題を専門的知識と技術を基礎に、科学的思考力・判断力により、その解決に向けて行動する」ことで、「保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、協働して活動する能力を高める」ことを養う科目である。それまでに履修した専門科目の総まとめとなる。

授業の概要

本科目では、看護チームの組織・機能・マネジメントの実際を学び、保健医療福祉チームの一員として多職種との協働について理解する。そのうえで、看護の質向上と継続に向けて看護実践に必要な知識・技術を統合し、対象や場に応じた実践力を修得する。専門職業人としての責任と自己研鑽の必要性を理解する。そのために、チームメンバーと積極的にコミュニケーションをとり、対象の看護実践に必要な知識について自ら学習する態度を身につける。

到達目標

1. 医療施設における看護チームの組織・機能・マネジメントの実際について説明できる。
2. 保健医療福祉チームの一員として、多職種との連携・協働の実際について述べるができる。
3. 看護の継続と質保証に向けて看護実践に必要な知識・技術を統合し、対象(複数)や場に応じた看護を計画し参加できる。
4. 専門職業人として、より質の高い看護実践をめざし自己研鑽を継続する必要性を理解したうえで、看護ケアに参加できる。

授業の方法

継続統合看護学実習要項を用いてオリエンテーションを行い、実習する。
実習最終日にグループ発表を行い、学びの共有を行う。

ICT活用

状況に応じて、Google Classroomを用いて、実習オリエンテーションや実習記録の指導などを行う。

実務経験のある教員の教育内容

看護師としての勤務経験を活かし、看護師としてチームの中で働く場合に求められる専門知識と協働するための能力について、臨床の実習指導者とともに指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法			
状況に応じて、適宜、口頭によるフィードバックを行う。実習記録に対しコメントする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	看護実践マネジメント実習要項にしたがい実施する。日程は後日指定する。	関連する授業で使用した教科書、配布資料を見直して理解しておくこと。	実習記録を期日までに作成して提出すること。
担当教員			
第2回	なし	なし	なし
担当教員			
第3回	なし	なし	なし
担当教員			
第4回	なし	なし	なし
担当教員			
第5回	なし	なし	なし
担当教員			

第6回	なし	なし	なし
担当教員			
第7回	なし	なし	なし
担当教員			
第8回	なし	なし	なし
担当教員			
第9回	なし	なし	なし
担当教員			
第10回	なし	なし	なし
担当教員			

第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			
第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

<p>定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)</p>	<p>100</p>	<p>90%:(実習目標の達成度70点、実習報告会での発表10点、実習への取り組み態度10点を評価点とする。) 10%:(実習終了後レポート10点を評価点とする。) 記録物などにおいて提出期限を過ぎて提出した場合は、減点対象とする。</p>
<p>その他</p>	<p>0</p>	
<p>教科書</p>		
<p>なし</p>		
<p>参考文献</p>		
<p>授業の期間内に必要時、提示する。</p>		
<p>履修条件・留意事項等</p>		
<p>主体的に、かつ計画的に取り組むこと。</p>		
<p>備考欄</p>		